

東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧2016

東北大学
高度教養教育・学生支援機構
要覧 2016



Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University



東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧2016

目 次

I 高度教養教育・学生支援機構について

1. 高度教養教育・学生支援機構長挨拶	1
2. 高度教養教育・学生支援機構ビジョン	2
3. 高度教養教育・学生支援機構第3期中期目標・中期計画	4
4. 高度教養教育・学生支援機構の沿革	9
5. 高度教養教育・学生支援機構の組織	
(1) 組織構成図	10
(2) 運営部門	10

II 機構各組織の事業内容及び活動状況

1. 部門・院	
(1) 高等教育開発部門	11
(2) 教育内容開発部門	11
(3) 学生支援開発部門	12
(4) 教養教育院	13
2. 業務センター	
(1) 教育評価分析センター	14
(2) 大学教育支援センター	15
(3) 入試センター	17
(4) 言語・文化教育センター	19
(5) グローバルラーニングセンター	22
(6) 学際融合教育推進センター	24
(7) 学習支援センター	25
(8) キャリア支援センター	27
(9) 学生相談・特別支援センター	29
(10) 保健管理センター	31
(11) 課外・ボランティア活動支援センター	33

III 平成28年度の機構全体の活動

1. 機構主催のシンポジウム・研究会・セミナー等	37
2. 刊行物一覧	43
3. 教員の活動	44

IV 資料編

1. 統計データ	107
2. 外部資金獲得状況	115
3. 共同研究員受入状況	115
4. 規程類	
(1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構規程	116
(2) 東北大学高度教養教育・学生支援機構業務センター内規	117
(3) 東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議内規	119
(4) 東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議内規	120
(5) 東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議内規	120
(6) 高度教養教育・学生支援機構専門研究員内規	121
(7) 高度教養教育・学生支援機構共同研究員内規	122

I 高度教養教育・学生支援機構について

1. 高度教養教育・学生支援機構長挨拶

「東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧 2016」をお届けします。

本学は、2014年4月、高等教育開発推進センター、国際交流センター、国際教育院、グローバルラーニングセンター、教養教育院、高度イノベーション博士人財育成センターを統合し、本高度教養教育・学生支援機構を設置しました。本学は本機構を、高度教養教育・学生支援に関する調査研究、開発、企画、提言、および実施を一体的に行い、本学の教育の質的向上に寄与するための学内共同教育研究施設と位置づけて、国内外を見ても他に例のない革新的でチャレンジングな組織として設計し創設しております。

本機構は、高大接続と入試、全学教育の開発と推進、高等教育国際化の推進、学生相談と学生支援、保健管理と健康指導、高等教育の研究と開発を行い、これらの成果を評価分析し、質的向上を図る各種の専門性開発活動を行う総合的な役割を果たすことがミッションです。また、高等教育推進の高いポテンシャルを有した組織とプログラムを統合し、新たな高等教育のモデル構築も目指しています。さらに、高等教育のモデル構築の核心は、卓越性と多様性の追求であり、教育における卓越性の柱として、高度教養教育の開発と提供、多様性の柱として多様な学生のニーズに応える学生支援の開発と実施も行うこととしています。

本要覧は、第Ⅰ部から第Ⅳ部の4部構成です。第Ⅰ部では、機構のビジョン、沿革、組織体制について記します。第Ⅱ部では、本機構は教員組織（3部門9室、1院）と11の業務センターのマトリクス構造をもつユニークな組織体制ですが、それぞれのミッション（使命）と事業内容や活動状況を記します。第Ⅲ部では、2016年度の機構全体の活動状況を示します。ここには、所属教員個人ごとの活動状況が記されています。第Ⅳ部は資料編で、統計的な資料、および本機構の規程類をまとめて示しました。

2016年度は本機構が創設されて3年目で、制度の整備が進み、運用も軌道に乗ってきていると判断していますが、それでも多くの点で試行錯誤が続いております。この活動の足跡を、このような形で記録に留めることで、今後の本機構の運営の礎にし、一層充実した活動を目指したいと考えています。

本要覧が、学内の方々はもちろんのこと、学外の方々にとって何がしかの参考になれば幸いです。さらには、本機構構成員のますますの活性化につなげるためにも、本要覧をご覧になられた皆様方からのご批判やご意見を賜ればと願っております。

平成29年7月

高度教養教育・学生支援機構長 花輪公雄

2. 高度教養教育・学生支援機構ビジョン

【部局のミッション（基本理念・使命）】

- 高度教養教育・学生支援機構は、高度教養教育および学生支援に関する調査研究、企画および提言、並びにそれらの方法の開発および実施を関係部局との連携の下に一体的に行うことにより、東北大学の教育力を高め、世界をリードする研究を遂行しグローバル時代を切り開く指導的人材の育成に貢献することを使命としています。

【機能強化に向けた取組方針（～2017年度）】

- 私たちは、基本理念を更に発展させるため、機構教職員の協力・連携を強め、高大接続からキャリア支援に至る学生の修学・自己開発・進路選択のプロセスを一貫して支援するというコンセプトの下に、研究開発と実践を進めます。
- 私たちは、知識基盤社会に対応して世界をリードする教養教育のビジョンを打ち出し、基礎教養教育から専門教育・高度教養教育へと至る教育の体系化を進め、学部・研究科・研究所および教育研究支援組織と協力して、その実現に貢献します。
- 私たちは、留学生の戦略的受入れと海外研鑽プログラムの充実等に努め東北大学のグローバルな修学環境の整備・充実に中心的な役割を果たします。
- 私たちは、教育から学習へという大きな大学教育観の転換を踏まえ、高大連携、初年次教育、学習支援など多様な教育・学習のツール開発と、総合的にこれらを推進する教員個人、科目レベル、機関レベルの教育・学習マネジメントの研究開発を進め、東北大学における教育マネジメントの強化に寄与し、教職員個人の能力を高めることに貢献し、世界的な研究総合大学の教育拠点の形成に寄与します。

【重点戦略・展開施策】

1. グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進

環境・安全保障・エネルギー・民族紛争など現代社会が抱えるグローバルな諸問題を解決する人材を育成するためには、高い専門性と分野を超えた全球的鳥瞰力を備え、生涯にわたって主体的に学び続ける人材像を明確にし、その能力を培う教育内容・方法およびシステムの全面的な改革と転換が必要です。正課教育のみならず、学習支援と学生支援を含むキャンパス全体の学習空間化が求められます。外部資金の獲得・活用も含め、世界的に進められている課題探究型学習をはじめとする高等教育の研究・開発・試行・実施を推進します。

2. 実践的英語能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進

本機構（旧高等教育開発推進センター）が開発し、既に具体的な成果を上げつつある英語「多読」授業やe-learningの指導法と評価方法を更に進展させ、リーディング力やリスニング力養成とともに、発音指導やスピーキング指導をも視野に入れたCALL教育の教材と指導法を開発します。4技能を強化する実践的な英語教育への転換を推進します。

3. 現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進

幅広い教養や専門教育のための基礎教育としての全学教育に加え、ディシプリンにとらわれない意識を育み、多角的な視野を育成するための科学教育を推進し、「自然科学総合実験」および「文科系のための自然科学総合実験」の充実・発展、専門分野や文系・理系の区別を超えて人類的問題に接近する学際融合教育、社会全体を支え、発展させてきたアスリート、芸術家、職人などによる多様な「実践知」を加え、これらの多様な「知」を大学教育の場面に導入し、学生の世界観と認識を深化させる新たな高度教養教育を開発・推進します。

4. 多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進

人種・宗教・慣習・文化の多様性を理解し、自国文化を見直し、国際社会において共生・共存する生き方を身に付けることとともに、人類社会を支える普遍的な価値観を育て、共有する学生を育てます。多様な国際共修の取組を基に、日本を近現代アジアの中に位置付けた歴史像の構築と教材化など内容開発を進め、英語による授業を提供するなど、各大学での共通の指針となるような取組を進めます。異文化理解、外国語能力の更なる涵養を目指して、本機構の外国語教員の専門性を活かした「外国語による教養科目の授業」の開講を全学教育開講科目類・群を対象として進めます。

5. 留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実

国境を越えた学生交流を進めるため、本学の教育国際交流戦略を策定し、留学生の受入れの促進のため多様な魅力的な国際プログラムを開発するとともに留学生支援を充実させます。また、グローバル化した時代における教育カリキュラムと連動した質の高い海外研鑽プログラムを数多く開発し、学生の国際体験の機会を飛躍的に増大させます。

6. 自己発展力のある主体的学生を育成する総合的學生支援の推進

社会における自分の役割を模索し、道徳的価値観を形成し、職業準備を行い、アイデンティティを確立する青年後期の課題に対応し、心身ともに豊かな個人としての学生の成長を支援する総合的學生支援を推進します。そのために、①心身発達と自己像の形成支援（キャリア教育、メンタルヘルスケア、生活習慣の指導、課外・ボランティア活動）、②基本的健康管理（定期健康診断、特殊健康診断）、③グローバルな視点からの感染管理（結核、鳥インフルエンザ等）、④学生が対峙する危機への介入と支援（学生相談）、⑤特別支援を要する学生への援助（発達障害・身体障害、留学生等への支援）、⑥自分の将来像の構築への支援（キャリア支援）の諸支援を総合し、全学連携的な支援体制の構築と推進を行います。

7. 東北大学型 A0 入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ

大学入試システムでは、①社会的に受容される選抜指標や合理的選抜方法の開発、②実施負担の抑制・軽減、③高等学校教育、入学後の専門分野、卒後の職業キャリアへと連なる合理的接続を保証するため、入学者の人物、能力の評価、試験方法の公平性、公正性、追跡調査による効果実証を進めます。また、青年前期の人間性、素質・能力、将来の可能性など「柔らかい」特徴把握を、理論と実践両面からの研究・試行によって進め、諸外国の多様な方法論の調査・検討、先端的な心理学的測定法の応用、人格の深いレベルでの評価を含む縦断的調査研究を実施し、高等学校や他大学との共同研究を行い、東北大学のコア・アイデンティティを担っている人々との協働の取組を、機構および各部署（学部・大学院）との協力によって推進します。

8. 教職員個人の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援

教育関係共同利用拠点として、研究・教育・社会サービス・管理運営など大学教員に求められる全体的な能力を、大学院生・新任教員・中堅教員・シニア教員など各ライフ・ステージに沿って発達させるための各種支援、および職員の能力開発を支援するプログラムを開発し推進します。

また、東北大学をはじめとする日本の大学における教育・学習マネジメントの強化を通じて、グローバル化に対応した日本の高等教育の構築に寄与します。特に、世界水準の大学教育を推進するために、アカデミック・リーダーの専門性を高めるプログラムを開発・試行します。

3. 高度教養教育・学生支援機構第3期中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
<p>(前文) 部局の基本的な目標</p> <p>高度教養教育・学生支援機構は、高度教養教育および学生支援に関する調査研究、企画および提言、並びにそれらの方法の開発および実施を関係部局との連携の下に一体的に行うことにより、東北大学の教育力を高め、世界をリードする研究を遂行しグローバル時代を切り開く指導的人材の育成に貢献することを使命としており、その使命を遂行するために、以下の具体的目標を掲げている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進 <p>世界的に進められている課題探究型学習をはじめとする高等教育の研究・開発・試行・実施を外部資金の獲得・活用も含めて推進する。</p> 2. 実践的英語能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進 <p>英語「多読」授業やe-learningの指導法と評価方法を更に進展させ、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を強化する実践的な英語教育への転換を推進する。</p> 3. 現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進 <p>「自然科学総合実験」および「文科系のための自然科学総合実験」の充実・発展とともに、専門分野や文系・理系の区別を超えて人類的問題に接近する学際融合教育などの新たな高度教養教育を開発・推進する。</p> 4. 多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進 <p>人種・宗教・慣習・文化の多様性を理解し、自国文化を見直し、国際社会において共生・共存する生き方を身に付ける国際共修の取組を進める。</p> 5. 留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実 <p>留学生の受入れの促進のため多様で魅力的な国際プログラムを開発するとともに留学生支援を充実させる。また、質の高い海外研鑽プログラムを数多く開発し、学生の国際体験の機会を飛躍的に増大させる。</p> 6. 自己発展力のある主体的学生を育成する総合的学生の支援の推進 <p>社会における自分の役割を模索し、道徳的価値観を形成し、職業準備を行い、アイデンティティを確立する青年後期の課題に対応し、心身ともに豊かな個人としての学生の成長を支援する総合的学生の支援を推進する。</p> 7. 東北大学型A0入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ <p>社会的に受容される選抜指標や合理的選抜方法の開発、実施負担の抑制・軽減、入学者の人物、能力の評価、試験方法の公平性、公正性、追跡調査による効果実証を進める。</p> 8. 教職員個人の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援 <p>研究・教育・社会サービス・管理運営など大学教員に求められる全体的な能力を、各ライフ・ステージに沿って発達させるための各種支援、および職員の能力開発を支援するプログラムを開発し推進する。</p> 	

<p>◆ 中期目標の期間 平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。</p>	
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 【I】は、対応する全学の中期計画</p>	<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p>
<p>1 教育に関する目標 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標</p> <p>1. 【1】学部・研究科及び教育・学習支援組織と連携し、学士課程・大学院教育を通じて高度教養教育を研究開発・実施し、学生を現代社会に対応したリテラシーとキィ・コンピテンシーを身に着け、教養ある専門性を備えた市民に成長させる。</p> <p>2. 【4】高度教養教育と専門教育との密接な連携の下で、学部・大学院の一貫した教育プログラムを実践し、多様なキャリアパス教育を進め、学生が主体的に自己決定し、社会に巣立つ基盤を作る。</p> <p>3. 【6】高度教養教育・学生支援機構各部門、センターの活動をエクステンションとして発信する。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>1. 【8】部局及び教育・学習支援組織が一体となって、効果的な教育・学習を実施し、多様な学生の能力を引き出すために、教学IR機能を強化・確立する。</p> <p>2. 【9】教育・研究・実務の各種業務を遂行でき、高度教養教育・学生支援機構の使命を達成できる、国籍、年齢、ジェンダーなど多様でポテンシャルの高い教員集団を形成する。</p> <p>3. 【12】高度教養教育・学生支援機構の特質を活かし、教育関係共同利用拠点などを通じて、日本の大学全体の教育機能強化に貢献する。</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標</p> <p>1. 【14】すべての学生が、心身ともに健康な学生生活を送れるように、多様な学生のニーズに応じた個別支援及び全学的支援連携体制を強化する。</p>	<p>1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 世界的な高等教育改革の研究を進め、部局、教育・学習支援組織と連携して、グローバル化社会にふさわしい高度教養教育の理念、カリキュラム、教育内容、アクティブ・ラーニングなど教育・学習方法の体系的な開発・提供を行う。</p> <p>2-1. 高度教養教育・学生支援機構が現在提供しているキャリア関係科目の評価点検を行い、内容の精査と高度化を図り、初年次から大学院博士課程まで視野に入れたキャリア教育関係科目の提供を行う。</p> <p>3-1. 拠点活動の成果を社会に還元するために、「アカデミック・リーダー育成プログラム」を継続して実施し、平成33年度までに全国の大学等からの修了者を拡大し、ワークショップ・成果報告会・出版などを行う。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 学務審議会、IR室、評価分析室等との協働の下、学生の人格的発達を含む学習成果を測定し、教育・学習支援の効果と課題が明確になる全学的な教育・学習マネジメント体制を構築し、教育改革の推進を支援する。</p> <p>1-2. 高度教養教育・学生支援機構の部門・センターがそれぞれの特色を生かして授業科目の開発と提供を行い、体系的な高度教養教育を組織的に推進するために、機構内に高度教養教育推進の責任体制を確立する。</p> <p>2-1. 高度教養教育・学生支援機構の使命と目標に沿い、多様でモラルと能力の高い教員集団を形成するために、能力と業績を踏まえた昇任を進めるなど、採用・昇進・研修の人事政策と教育研究支援を体系的かつ戦略的に推進する。</p> <p>3-1. キャリアステージに対応して教員に必要な能力の育成を図るPDプログラムを持続的に開発・提供するとともに、国内外の大学・学術団体等と連携し、語学教育及び数理学教育の指導力を育成するプログラムを開発し、提供する。</p> <p>3-2. 日本の大学教育の水準向上に寄与するために、学内機関とも連携した教育関係共同利用拠点の新たな認定や、全国の拠点等、大学教職員の能力開発組織と連携して、全国的な大学教育開発のネットワークを形成し、プログラム等の共同開発・相互提供を進める。</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 多様な学生のニーズに応じた支援活動をより発展させるために、学生相談や特別支援等に関するピアサポートを含めた個別支援、及び各部局との連絡会議の強化を含めた全学的連</p>

<p>2. 【15】 総合的体系的なキャリア支援を進めることで、学生が広い視野と展望をもって東北大学で培った能力を活かし発展させ、社会で活躍し、意義のある進路を選択し、実現できることを目指す。</p>	<p>携体制を整備・充実させる。さらにバリアフリー化を含めた学生支援の質の向上、及びメンタルヘルスやハラスメント防止等に関する予防活動を推進する。</p> <p>2-1. キャリア開発室が、臨床教育開発室、臨床医学開発室、国際化教育開発室、部局及び教育・学習支援組織と連携し、日本人・留学生・社会人・女子学生・特別な支援を要する学生など多様な学生のニーズと生涯を通じたキャリア形成に効果的な支援を体系的に進める。</p> <p>2-2. イノベーション創発塾の規模を拡大し、知的財産、アントレプレナーシップなど大学院博士レベルの専門性を活かす科目を開発・提供する。</p>
--	--

<p>(4) 入学者選抜に関する目標</p> <p>1. 【17】【18】 アドミッションポリシーに適合する、優秀で意欲的な学生が国内外から受験する入試戦略を展開し、より多面的・総合的な選抜を実施する。</p>	<p>(4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 学部と連携し、A0 入試や特別入試などの多様な入試を拡大して全入学者に占める A0 入試等の募集人員・入学者の割合を30%程度に引き上げる。このために入試センターの体制を整備して機能を強化し、A0 入試等の実施主体である学部に対し全学的支援を強化するとともに、入試説明会、進学説明会をはじめとした入試広報活動を一層広範活発に実施し、オープンキャンパスや高校訪問など学部の広報活動を支援する。</p> <p>1-2. 学部と連携し、国内外から受験するグローバル人材育成のための入試を導入・拡大するとともに、優秀な受験者を獲得するための様々な広報活動、英語ウェブページの改善、海外拠点を利用したリクルート活動、海外の教育課程を踏まえた柔軟な入学者選抜方法の改善のための調査研究などを展開する。</p> <p>1-3. 平成 32 年度から実施予定とされる大学入試センター試験に代わる新テストに連動した「多面的・総合的な」個別選抜のあり方について、追跡調査をはじめとした入試データの分析、国内外調査、高校との連絡協議などによる調査研究を行い、その成果をもとに新たな選抜方式を企画・実施する。</p>
---	---

<p>2 研究に関する目標</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標</p> <p>1. 【19】【20】 高度教養教育及び学習・学生支援に関する先導的研究を推進し、実践を支える理論を国際的な水準で発展させる。</p>	<p>2 研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 高等教育研究、高等教育国際化論、専門分野の教育論、語学教育論、学生発達論、臨床医学、臨床心理など高度教養教育及び学習・学生支援を支える先導的研究を推進し、理論と実践双方を深化させ、国内外に発信する。</p>
<p>(2) 研究実施体制等に関する目標</p> <p>1. 【31】 国際的なネットワークと連携し、国内の研究拠点を形成する。</p>	<p>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 高等教育のグローバル化に対応した研究を国内外の高等教育研究者・機関と連携して推進し、日本における高度教養教育及び学習・学生支援を支える先導的研究拠点を形成する。</p> <p>1-2. 客員教授・研究員制度を活用し、高度教養教育・学生支援機構を支える先導的研究の国際的なネットワークの強化を図るとともに、サバティカル制度などによる若手教員の能力開発を支援する。</p>

<p>3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標</p> <p>1. 【35】高度教養教育・学生支援機構のポテンシャルを活かした社会連携と社会貢献活動を推進する。</p>	<p>3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 地方自治体、高校、高等教育機関、民間企業、NPO 法人などと連携し、高等教育フォーラム、理数科教育、英語教育など従来取り組んでいる高大連携事業やPDプログラムの開放を推進し、社会貢献活動を充実させる。</p>
<p>4 災害からの復興・新生に関する目標</p> <p>1. 【37】高度教養教育・学生支援機構のポテンシャルを活かし、東日本大震災からの復興・再生を支援する。</p>	<p>4 災害からの復興・新生に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 課外・ボランティア活動支援センターを通じて、東日本大震災からの復興・再生の支援を行うほか、心理学、言語学、歴史学、社会倫理学、自然科学等の各分野からの視座を通じて災害復興を目指す授業科目を開発・提供する。</p>
<p>5 その他の目標</p> <p>(1) グローバル化に関する目標</p> <p>1. 【42】【43】【44】【45】学生の流動性を促進する双方向の海外留学プログラムを拡充するとともに、グローバルな修学環境の整備や教育プログラムの充実を行い、東北大学グローバルイニシアティブ構想を積極的に推進し、グローバル社会における指導的人材の育成を進める。</p>	<p>5 その他の目標を達成するための措置</p> <p>(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 国際連携推進機構との協力の下、教育国際交流に資する海外拠点形成や海外有力大学との積極的な協定締結を行い、学生交流を活性化。数週間から1年にわたる多様な双方向の海外留学プログラムの開発・実施を主導し、学生の国際交流を促進する。また、多様な日本語能力を持つ外国人留学生の増加に対応するため、日本語教育体制を強化する。</p> <p>1-2. Future Global Leadership プログラムをさらに発展させ、外国人留学生に魅力的な学位取得プログラムの開発・実施・支援を行う。また、ダブルディグリーやジョイントディグリー等の国際共同教育の推進を支援するとともに、国際共同大学院プログラムの推進に協力する。</p> <p>1-3. 東北大学グローバルリーダー育成プログラムを継続的に実施し、さらに発展させる。国際共修授業等の異文化理解や実践的なコミュニケーション能力の養成に資する教育プログラムの開発・実施を主導し、学務審議会と連携しグローバルマインドを醸成する授業科目群を設置し、体系化したカリキュラムの構築を図る。また国際社会で活躍するために必要な英語を含む外国語の教育体制を強化する。</p> <p>1-4. 東北大学グローバルイニシアティブ構想を発展させ、グローバル化の更なる推進のため、業務センター間の連携を格段に進め、取り組みの組織的な強化を図る。</p>
<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p> <p>(1) 組織運営の改善に関する目標</p> <p>1. 高度教養教育・学生支援機構の組織運営の不断の点検・評価を行い、高度教養教育と学生支援を高度化するのにふさわしい運営を目指す。</p>	<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 運営の効率と効果を高めるため、機構長補佐会議、教授会議、人事委員会、総務委員会などの各種運営組織や支援業務の点検・評価を行い、改善を行う。</p> <p>1-2. 教育研究支援組織を確立し、教職員が協力し高度教養教育・学生支援活動に邁進できるよう組織の活性化を目指す。</p>

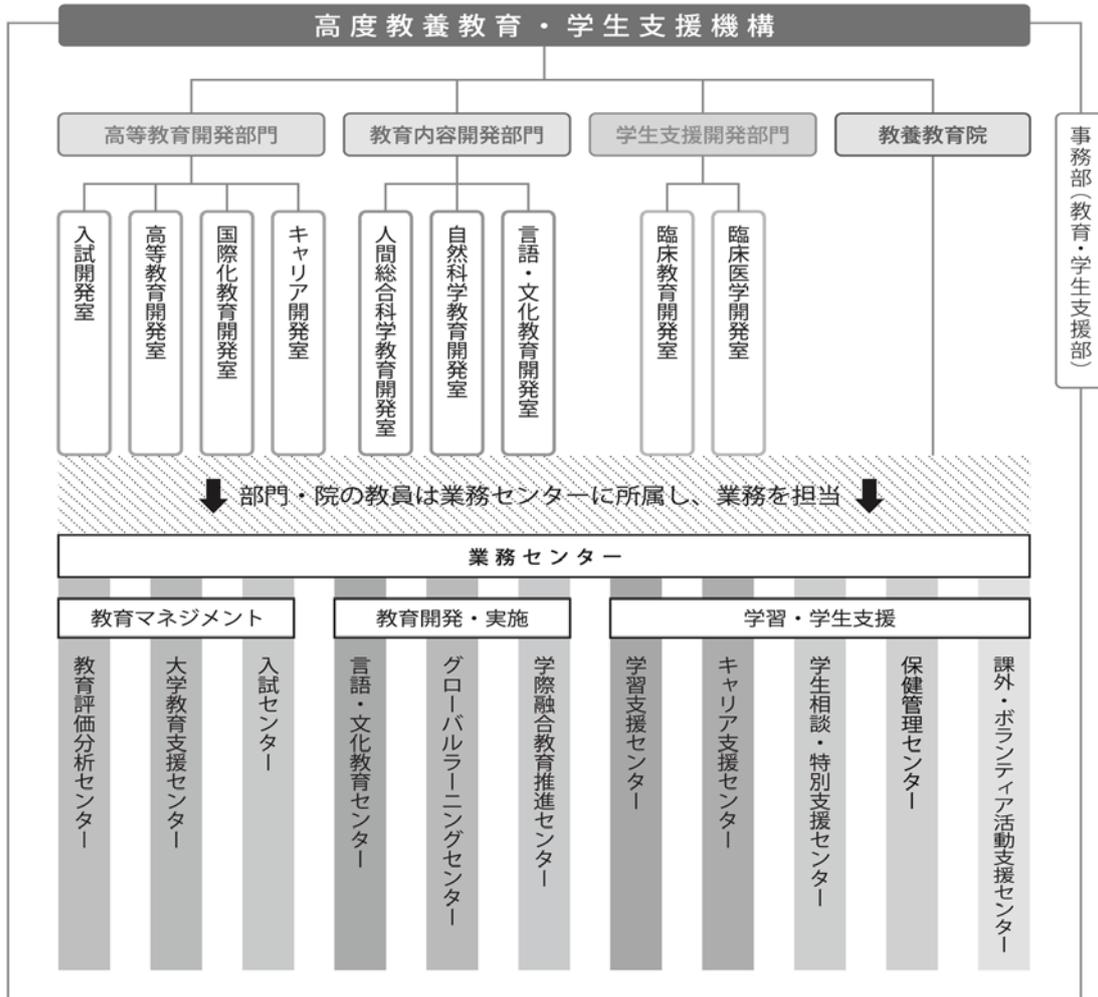
<p>(2) 教育研究組織の見直しに関する目標</p> <p>1. 教育研究組織の不断の点検・評価を行い、高度教養教育と学生支援を高度化するのにふさわしい組織の確立を目指す。</p>	<p>(2) 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 全学教育および高度教養教育の充実のための活動を継続的に進め、業務センター等の点検・評価を行い、機構の使命を達成するために、必要な内部組織の改革を行う。</p>
<p>III 財務内容の改善に関する目標</p> <p>1. 科学的合理的な予算を確立し、教育研究の質を向上させるために効果的効率的な運営を目指す。</p>	<p>III 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1-1. 業務センター等多様な組織に対応し、多面的な財源を統合した合理的予算を確立し、効果的効率的な運営を目指す。</p> <p>1-2. 競争的資金の拡充を図り、機構内での申請支援や情報収集・分析・提供を行うなど外部資金獲得の支援体制を強化する。</p>
<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>1. 点検・評価を通じた組織改善の組織文化を醸成する。</p>	<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1-1. 組織と運営の改善を行い、教員個人及び機構を活性化させるために、個人評価、活動状況の公表、自己点検・評価、外部評価を定期的実施する。</p>
<p>V その他業務運営に関する重要目標</p> <p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標</p> <p>1. 高度教養教育と学習・学生支援を深化・発展させるための施設環境を整備する。</p> <p>2 安全管理に関する目標</p> <p>1. 教職員・学生が安全で健康的な環境下で教育研究に取り組めるよう安全管理体制の充実を進める。</p> <p>3 法令遵守に関する目標</p> <p>1. 法令及び社会規範を守り、高い倫理規範を確立する。</p> <p>4 その他業務運営に関する重要目標</p>	<p>V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 東北大学における教育の質の向上やグローバル人材育成を進めるため、機構内のセンター連携を促進させ、高度教養教育を効率的かつ効果的に進めるためのキャンパス施設整備の施策を策定し、課題探究型学習をはじめとする高等教育の研究・開発を推進し、学習支援と学生支援を含むキャンパス全体の学習空間化を進める。</p> <p>2 安全管理に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 学生の国際交流のための危機管理体制の強化、及び感染症や結核に対する感染管理対策を実施するとともに、全学的な環境保全・安全管理に関する計画に協力し、教育研究環境の安全向上に努める。</p> <p>3 法令遵守に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 本学のコンプライアンス活動を積極的に推進するとともに、多分野にわたる機構構成員が公正な研究活動・研究費の適切な使用を遂行するため、その環境整備を着実に実施する。</p> <p>4 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</p>

4. 高度教養教育・学生支援機構の沿革

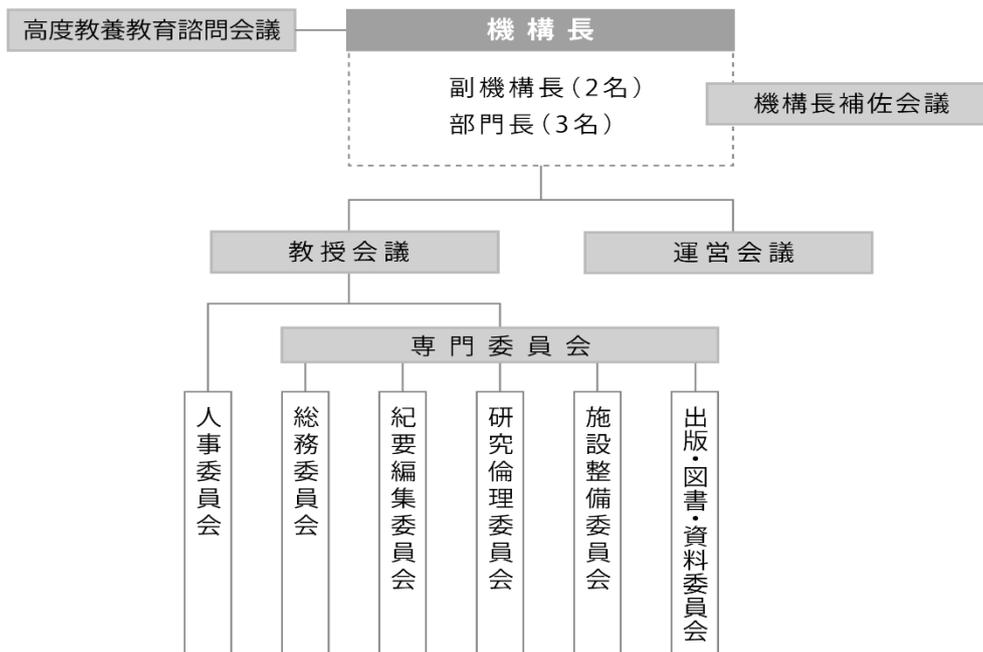
昭和 31 年 6 月	学生相談所設置。
昭和 44 年 6 月	保健管理センター設置。
平成 5 年 4 月	大学教育研究センター設置。 留学生センター設置。
平成 11 年 4 月	アドミッションセンター設置。
平成 13 年 4 月	情報シナジーセンター設置。
平成 16 年 10 月	高等教育開発推進センター設置。アドミッションセンター，大学教育研究センター，保健管理センター，学生相談所，情報シナジーセンター情報教育研究部，留学生センター（一部）を改組・統合。
平成 17 年 4 月	アドミッションセンターを入試センターに改称。
平成 17 年 4 月	留学生センターを国際交流センターに改組。
平成 20 年 4 月	教養教育院設置。
平成 21 年 7 月	高度イノベーション博士人財育成センター設置。
平成 21 年 11 月	国際教育院設置。
平成 26 年 4 月	高度教養教育・学生支援機構設置。 高等教育開発推進センター，国際交流センター，国際教育院，グローバルラーニングセンター，教養教育院，高度イノベーション博士人財育成センターを改組・統合。 花輪公雄理事（教育・学生支援・教育国際交流担当）が初代機構長に就任。
平成 26 年 7 月	機構発足記念シンポジウム「21 世紀グローバル世界が求める人間像と教養教育」開催。
平成 26 年 8 月	文部科学省より，「知識基盤社会を担う専門教育指導力育成拠点－大学教員のキャリア成長を支える日本版 S o T L の開発」が教育関係共同利用拠点（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）として認定（～平成 27 年度）。
平成 27 年 3 月	『高度教養教育・学生支援機構紀要』創刊。
平成 27 年 7 月	文部科学省より，「教職員の組織的な研修等の共同利用拠点」が教育関係共同利用拠点（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）として認定（～平成 32 年度）。

5. 高度教養教育・学生支援機構の組織

(1) 組織構成図



(2) 運営部門



Ⅱ 機構各組織の事業内容及び活動状況

1. 部門・院

(1) 高等教育開発部門

高等教育開発部門は、入試開発室、高等教育開発室、国際化教育開発室とキャリア開発室から成り、高大接続・入試の研究、教育・学習活動の研究、大学教員研究、国際化教育研究、キャリア開発研究などの高等教育に関する調査研究を行っている。これらの研究成果をもとに、各教員はそれぞれ業務センターに所属し、本学における教育の質の向上と国際化に資する多彩な活動を展開している。

入試開発室

入試開発室は、業務センターである入試センターと一体的に、東北大学の入試改善に関わる調査研究、入試全般に関する研究、入試広報および高大連携の企画・実施、A0 入試・一般入試の企画・コンサルテーションおよび実施などの活動を行っている。

高等教育開発室

高等教育開発室は、①高等教育に関する政策・実践等の調査・研究、②東北大学における教育内容・方法、教育マネジメント、学習支援等に関する調査・研究・提案、③教育改善に資する教職員専門性開発の企画・実施の3つを柱に活動を推進している。高等教育開発室所属の教員は、教育評価分析センター、大学教育支援センター、学際融合教育推進センター、学習支援センターに所属し、その専門や適性に応じて、各センターが取り組む各種の業務やプロジェクトを推進している。

国際化教育開発室

国際化教育開発室は、グローバルラーニングセンターと一体となり、国際教育、異文化間教育、高等教育の国際化施策、多文化共生、留学生支援、国際キャリア教育、異文化適応、言語教育等の、グローバル人材育成に関連した研究活動と、海外派遣・受入留学プログラムの開発・実践、国際教育カリキュラムと国際必修科目の開発・改善、日本人学生を含む国際学生への教育・支援の充実化などの教育活動を両輪とし、幅広い活動を展開している。

キャリア開発室

キャリア開発室は、キャリア支援センターと一体となり、キャリア、キャリア形成支援に関連する調査・研究、プログラム開発を推進している。教育面では、正課教育として全学教育でキャリア教育科目を開講するとともに、正課外で全学学生を対象とした各種の進路・就職支援プログラムや個別相談等も実施している。

(2) 教育内容開発部門

教育内容開発部門は、人間総合科学教育開発室、自然科学教育開発室、言語・文化教育開発室の3室から構成される組織であり、東北大学の教養教育の根幹を担う部門である。全学教育授業を実践するとともに、各室・部門間および業務センター等との連携により、教育プログラムやカリキュラムの調査、企画、開発、教育環境整備等を含む“高度教養教育の開発と実践”にあたる。

人間総合科学教育開発室

人間総合科学教育開発室は、歴史学を中心とした人文科学と運動生理学との観点から、以下のような研究・教育を行っている。

[1] 人文・社会科学系教養教育に関する調査・研究・実践

①ユーラシア大陸におけるヘレニズム文明の美術考古学的研究。中央アジアのウズベキスタン共和国におけるギリシア・クシアン系都市カンピール・テパの発掘調査。西洋中心史観、中華史観等に囚われないユーラシア大陸からみた相対的史観の研究と教育。

②国際的な現代社会における経済学・経営学の観点からの研究と教育。

- ③日本近世における儀礼・年中行事の政治文化史的研究。自校史教育の比較研究とその実践。
- ④日本近世における兵学に関する政治思想史的研究。日本思想史の視点を生かした、特に知識人と政治の関係の軸にした東北大学史の研究と教育。

[2] 人文・社会科学系教養教育に関する教育活動およびカリキュラム開発

全学教育科目「芸術の世界」「人間と文化」「歴史と人間社会」「歴史学」「基礎ゼミ」「展開ゼミ」等の授業を担当。

[3] 運動生理学の観点からの研究

東北大学におけるスポーツ科学の目標は人生の生活基盤を形成する一助となることである。近年はストレス社会であり、在学中も卒業後も身体の健康はもちろん精神の健康維持も重要な課題である。スポーツ科学教育室では身体の健康の維持増進と「こころ」の健康との関連に注目し研究を行っている。この研究は毎日少しでも、またできる範囲で運動を継続することの意味を検証するものである。東日本大震災において被災された方々の「こころ」の健康の維持にも役立てたい。

[4] 運動生理学の研究成果の授業への展開

全学教育科目「生命と自然」「基礎ゼミ」「展開ゼミ」「スポーツA」「スポーツB」「体と健康」等の授業を担当。

自然科学教育開発室

自然科学教育開発室は、全学教育科目において理科実験科目を担当するユニットと自然科学系科目（英語クラス）を担当するユニットからなる。

「自然科学総合実験」(平成16年度開講)は、理系初年次学生約1,700名を対象とした必修の理科実験科目であり、自然科学専門分野（物理、化学、生物、地学）を融合させたタイプ（融合型実験）の実験科目として、自然科学の学び方を知り、多角的な視点で物事を捉えることができるように設計された。平成19年度からは新たに文科系初年次学生を対象とした理科実験科目「文科系のための自然科学総合実験」を開講した。本室教員は、実験科目の企画、教材作成、実験機材や設備を含む教育環境の整備と保守管理、授業の実施・支援、レポート指導、履修指導、成績評価、セメスタごとの実践的FD活動および独自のアンケート調査など、中心的な役割を果たしている。また、出席・成績情報システムの開発により、受講者の出欠、レポート提出状況、成績状況等を容易に把握することができ、それを履修指導にフィードバックさせ、学生相談所、保健管理センター、教育・学生支援部や学部の教育支援室等との協力体制のもとに学生支援を行っていることも特徴である。

東北大学におけるグローバル教育推進のため、3つの学士課程の英語コース（全学教育科目を含む）が平成23年度に開設されたが、本室教員は、自然科学系ディシプリンに含まれる多種多数の基礎教育プログラムの企画、開発、実施、改善活動を行っている。また、諸外国における「留学生フェア」等にも参加して積極的な広報活動も務め、東北大学の教育研究の認知度アップにも貢献しながら、本学の教育の国際化に貢献している。

言語・文化教育開発室

言語・文化教育開発室は、全学教育や留学生特別課程等において外国語及び日本語科目を担当するとともに、言語教育に関する教授法の研究および実態調査を行う。あわせて、全学教育を中心に本学の語学授業に関わる学習環境を整備し、カリキュラムの開発・設計・実施、CALL語学演習施設を活用した語学学習支援、e-learningを利用した語学学習教材とシステムの開発等に関して各種提案を行うことを主たる使命・目標とする。外国語科目では、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語を担当し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の運用能力を高めるだけでなく、外国語圏の社会・文化・歴史の学習を通して多言語・多文化間の相互理解を深めることを目指した教育を実践する。日本語科目では、全学の各部署に在籍する留学生や外国人研究者を対象として、それぞれの専門課程において要求されるより高度な日本語運用能力を育成するとともに、日本人学生との共修授業等を通じて日本文化への理解を促進することを目指す。

(3) 学生支援開発部門

本部門は、臨床教育開発室と臨床医学開発室から構成され、所属する教員はそれぞれ学生相談・特別支援センター、保健管理センターでの業務を主に担当している。大学生活のなかで経験する身体的、精神的問題、種々の悩みなど問題を抱えている学生への個別カウンセリングや、ハラスメント等の問題解決に向けての支援、身体障害・発達障害を

持つ学生の支援の実践とともに、その環境整備を進め、臨床教育および臨床医学関係の教育・研究を行っていく部門である。

臨床教育開発室

臨床教育開発室は、主に学生相談・特別支援センターの業務を担当する教員によって構成され、「学生が本学での経験から最大限の利益をひきだすことができるよう、学生及び大学コミュニティへの支援を行うこと」を使命および目標として、学生相談・援助活動の充実に努め、大学生活の中で問題を抱えている学生へのカウンセリングや身体障害・発達障害等の障害を持つ学生の支援活動及びその環境整備を進めている。

臨床医学開発室

臨床医学開発室は、保健管理センターと一体的に学生の心身の保健管理を行うことを使命として、健康相談、診療、定期健康診断・特殊健康診断とその事後処置、栄養相談に加え、健康科学セミナーの開催、健康に関するリーフレットの発行などを行っている。また保健管理センターで得られた健康情報を解析し、有効な保健対策を企画・立案するとともに、学生の健康を脅かす疾患の病因・病態の研究ならびに治療法の開発を行っている。

(4)教養教育院

教養教育院は、教養教育充実の方策の一つとして平成20年4月に設置され、平成26年4月に本機構に統合された。本院は、総長特命教授と教養教育特任教員で構成されている。教養教育の中でもとりわけ重要な初年次教育において、学生の学びへのモチベーションを高める授業を創り出し、教養教育改革の先導的な役割を果たしている。また、教養教育特別セミナーの共催、総長特命教授合同講義の実施を通じて、通常の授業とは違った機会を学生に提供している。主な活動・取組は以下のとおりである。

①基礎ゼミクラスの担当

高校までの「受験勉強中心の学び」から「自ら探究する大学での学び」への転換を目的に、初年次学生全員が受講する学部横断型少人数科目（基礎ゼミ）が毎年約160コマ開講されており、総長特命教授はそれぞれ2クラス（各クラス20～25名）を担当している。「研究をするには何が必要か」、「大学に入学した段階でまず何をしなければならないのか」、そうした疑問に対して、学生とのコミュニケーションを密にし、グループによる課題研究・調査、図書館・インターネットによる情報収集、現場の見学、レポート作成、発表、討論を通じて学生たちが自ら答えが出せるように支援している。

②全学教育（基幹科目・総合科目・語学教育）での新たな試み

初年次・2年次学生を対象にして行われる全学教育は、基幹科目（人間論、社会論、自然論）、展開科目（理科実験、カレントトピックス科目、総合科目等）、共通科目（基礎ゼミ、外国語科目、情報科目、保健体育科目）で構成されている。教養教育院の特命教授と特任教員は得意分野の科目を担当し、授業を活性化させるためのさまざまな試みを行っている。

③教養教育への理解を深める

毎年、教養教育をテーマにしたセミナーや合同講義を企画しており、「教養教育とは何か」について教員と学生が語り合うことにより、学生たちにとっては教養教育の中で自分自身の知性を高めることがいかに重要かを知る、また教員たちにとっては教養教育を考え深化させるよい機会となっている。

④小冊子『読書の年輪』の発行

初年次学生が「大学での学び」を始める上で一つのガイドブックとなる『読書の年輪～研究と講義への案内』を毎年刊行しており、教養教育院特命教授が、自らの教育・研究活動の経験を基に、大学での学びや生活に役立つ本を各自が6冊選び、内容を紹介している。

⑤教養教育への提言

教養教育院の院長（教育担当理事）が主催する教養教育院懇談会（年4回開催）や総長との懇談会の機会に、自らの教養教育での実践に基づいた意見を述べ、東北大学の教養教育改革に寄与している。

2. 業務センター

(1) 教育評価分析センター

使命

- (1) 国内外の高等教育動向および実践に関する調査研究を実施し、教育および学習に関する評価の理論を発展させ、その成果を国際的に発信する。
- (2) 本学の教育学習活動に係る意思決定に資するデータ収集・分析・提供のための効果的システムの開発・運用を通して、本学における持続的な教育改革・改善や学生の幅広い学習活動の実現を支援する。
- (3) 学務審議会、教育改革推進本部、高度教養教育・学生支援機構（業務センター）、各部局、事務組織の有機的連携に基づく一体的な教育マネジメント体制の確立に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) 本学の教育学習活動・環境に関する基礎的データ収集システム（授業評価アンケート、成績評価・GPA 実施状況、学務情報システムとの連動）を整備する。

平成 28 年度は、機構ビジョン推進経費事業として、教育学習活動に関する IR システムの導入・運用を目指す「国際的通用性のある総合的な『東北大学教育・学習改善システム』構築による IR 活用推進事業」を実施した。本学の教育・学習データに関するデータベース構築のため、データベース・サーバの整備と、サーバへの学内外の各種教育・学習データの収集・保存を進めた。

- (2) 新入生調査、卒業時調査、学習経験調査（学士課程レベル、大学院課程レベル）、卒業生調査、学生生活調査、雇用者調査、教職員調査の体系的な設計・実施・分析を通して、東北大学における教育の効果点検・質向上を推進する。

①平成 28 年 1 月に学務審議会と連携して実施した「第 1 回東北大学の教員の教育活動に関する調査」のデータ整理・分析を行い、「時間外学修」と「アクティブラーニング」に焦点を当てた詳細な分析内容と、結果に対する各部局からの所見をまとめた報告書を作成・発行し（平成 28 年 11 月）、広く学内配布を行った。
②学務審議会の下に設置された「教育と学修成果に関する調査設計ワーキング・グループ」と協働し、「第 3 回 東北大学の教育と学修成果に関する調査」の設計を進め、平成 29 年 2-3 月に実施した（回収率:66.3%）。
③単位取得だけではない目的を持った履修および学習行動の促進や各部局での教育活動の改善につなげてもらうことを目的とした季刊誌 CIR Insights を創刊した（創刊号 6,000 部印刷）。学内教職員全員に配布するとともに生協、学習支援センター、図書館など広く学生にリーチする場所への設置を行った。

- (3) 本学の教育学習活動に係るデータの収集・分析・提供を行うシステムの開発・運用を通して、本学における効果的な意思決定および教育マネジメントを支援する。

①本学における意思決定や教育マネジメントの支援に向けて、「第 1 回東北大学教員の教育活動に関する調査」の結果に基づいて第 2 回東北大学教育調査研究会を開催し（平成 28 年 7 月 4 日学務審議会後）、調査結果に基づいて本学教員の教育活動の全体像について共有するとともに、「授業外学修時間」に関する教員の認識状況、「アクティブラーニング」の取組状況を軸に議論を行った。さらに、平成 29 年 1 月 25 日には同調査結果について総長レクを行った。
②CIR セミナー/ワークショップとして、(1) 平成 28 年 9 月 2 日に CIR ワークショップ「大学 IR データの分析・解釈・活用」、(2) 同 12 月 7 日に CIR セミナー「授業評価データの活用と組織的な教育改善」（学内限定）、(3) 平成 29 年 1 月 23 日に CIR セミナー「アメリカ高等教育における IR とアカデミック・リーダーシップ」を開催し、CIR による知見の獲得とその活用・普及を進めるとともに、学内部局との連携を深めた。
③学内 IR 関係者による CIR 勉強会として、外部講師を招聘して①平成 28 年 8 月 5 日に「研究大学学生経験調査（SERU）」、②平成 28 年 11 月 2 日に「学位授与の方針達成状況自己評価システム『In Folio』の開発と IR への活用」を開催し、IR に関する知見を深めた。

(2)大学教育支援センター

使命

- (1) 国際的な連携を基盤に、大学教育内容・方法開発及び教職員の能力開発を推進するための調査研究を行い、その成果に基づくプログラムを開発し、教育関係共同利用拠点として成果を積極的に学内外へ発信し、日本全体の大学教育改革の推進に寄与する。
- (2) 学際融合教育センターと協働した探求型学習や学際融合プログラムの開発、言語・文化教育センター、グローバルラーニングセンターはじめ、各業務センター及び学内部局・教職員と連携した各種専門性開発活動を行い、全学的な教育改革の推進に寄与する。
- (3) 教育マネジメントを担う教職員の職能開発プログラムを開発・提供し、教育マネジメントの向上に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) 学習効果を高め、教養ある専門人材を育成する大学教育内容・方法、大学教職員のキャリア開発のための調査研究の推進

「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」(代表者羽田貴史, 科学研究費基盤研究 A, 2014~2017), 「博士課程出身の大学非正規職員に関する探索的研究: 高学歴ワーキングプアか新専門職か」(代表者大森不二雄, 科学研究費挑戦的萌芽研究, 2016~2018), 「大学教育の内部質保証を担うミドルマネジメント人材の専門性開発に関する国際比較研究」(代表者杉本和弘, 科学研究費基盤研究 B, 2014~2016), 「教員のキャリアステージに対応したリフレクションによる教授設計研修プログラムの開発」(代表者今野女子, 科学研究費若手研究 B, 2015~2017) を獲得し、機構内外の研究者と連携し、研究およびプログラム開発を行っている。

- (2) 教員のキャリアステージに対応した各種の専門性開発プログラムの開発と提供

平成 28 年度のプログラムについて、4 ゾーンに 51 のプログラムを企画、実施し、計 2,284 名が参加した。

- (3) 国際連携を活用し、大学教員を目指す大学院生のための大学教員準備プログラムの開発と提供

大学教員準備プログラム (PFFP) と新任教員プログラム (NFP) を合わせてジュニアファカルティ・プログラムとして実施し、大学教員の仕事について総合的に学べるフルコースに PFFP 3 名、NFP 3 名、また、教育実践に主眼を置いたショートコースには PFFP 4 名、NFP 18 名が参加した。フルコースでは、国内他大学調査として大阪大学・立命館大学・同志社大学の 3 大学へ研修 (平成 28 年 10 月 26~28 日) に計 5 名、海外他大学訪問調査 (平成 29 年 2 月 26 日~3 月 5 日) では UC バークレーへ計 6 名が参加した。また、PFFP および NFP の OB/OG を対象としたユーズ会議 (平成 28 年 12 月 26~27 日) を宮城蔵王ロイヤルホテルで実施し、2011~2014 年度受講者 13 名が参加した。

- (4) 教育マネジメントリーダーを育成する教育マネジメントプログラム (履修証明プログラム) の実施

平成 25 年度に開始した大学教育人材育成プログラムを改編し、履修証明プログラム「アカデミック・リーダー育成プログラム」(平成 27~28 年, 2 ヶ年) を昨年度に引き続き実施し、5 大学 9 名が修了した。

- (5) 各業務センター及び学内部局及び教職員と連携した専門性開発のための諸活動と組織文化の醸成

教育評価分析センターとの共催セミナー 2 回、学際融合教育推進センターとの共催セミナー 14 回、学生相談・特別支援センターとの共催セミナー 1 回、言語・文化教育センターとの共催セミナー 4 回、保健管理センターとの共催セミナー 4 回を開催した。部局との連携は、教育情報基盤センターとの共催でセミナー 1 回開催した。

- (6) 高度教養教育・学生支援機構に係る教育関係の共同利用に関する業務

分野別に提供する PD セミナー、キャリア別に構成された PFFP, NFP, LAD, SDP (大学職員能力開発プログラム) と、新規に開発している DTP (専門教育指導力育成プログラム) を体系的に企画・実施し、学内および全国に広く開かれており、日本の大学教職員の専門性能力開発に寄与している。また、教職員の

能力開発や組織開発など、グッドプラクティスの普及を図るべく、教育関係共同利用拠点 12 組織および FD 関連ネットワーク 1 組織による「大学教育イノベーション日本 (HEIJ)」の設立 (平成 28 年 9 月 28 日) を主導し、羽田センター長が代表に就任、当センターが事務局を務めている。

(3)入試センター

使命

全学的な各種入試関係委員会との連携のもとに、本学入試の中長期的な企画や改善検討を行うとともに、大学入試センター試験や一般入試をはじめとする入試業務を中核的に担い、また入試広報活動や高大接続・連携事業を企画実施する。これらの活動を通じて、本学アドミッション・ポリシーに合致した優秀な学生の獲得に貢献する。

事業内容及び活動状況

- (1) 本学入試の中長期的な企画・改善検討（入試企画・広報委員会における検討，本学入試・国内外入試の調査研究，追跡調査，受験者・入学者へのアンケート，入試情報の提供，部局への助言・コンサルテーション，国大協・入研協等の外部組織・他大学・高等学校との連携・情報交換）

- ・入試企画・広報委員会にワーキング・グループを置き、広報関連，一般入試・AO入試Ⅲ期成績順位およびAO入試Ⅱ期成績の通知，国際バカロレア入試・グローバル入試等の企画実施，英語外部試験の入試への活用，大学院入試における国際学士コース卒業者の英語審査免除，AO入試拡大および全学支援体制構築，選抜要項・募集要項の用語整理等の検討を行った。
- ・入学者へのアンケートを例年どおり行い，入学者の動向を分析。回収率は99%
- ・入研協，国立大学アドミッションセンター連絡会議等の外部組織開催の会議に参加し，他大学との連携・情報交換を行った。
- ・県内高等学校との連絡協議会を開催し，入試に関する情報交換を行った。
- ・工学部入試検討委員会の委員・オブザーバーとなり，AO入試実施に関わる助言・実施協力を行うほか，文学部や医学部（医学科，保健学科），歯学部，農学部など各学部のAO入試に関し相談対応・助言，また国際学士コースの入試に関してFGL実施委員会などを通じて助言を行った。
- ・国の高大接続会改革における多面的・総合的評価による入学者選抜を本学においても取り組み，AO入試を定員の30%に拡大する方針を総長から指示を受け，同拡大戦略に関し入試企画・広報委員会やAO入試懇談会等で各学部と協議，全学支援体制の強化，広報活動の強化等を進めた。
- ・上記入試改革に関する調査研究を実施。シンポジウムを開催し，その成果を本機構「高等教育ライブラリ」として刊行した。文科省委託事業「大学入学者選抜改革推進」および科研費基盤A「高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価」に採択され，これらと連動して，国立大学入試問題の分析，記述式問題の高校モニター調査，外国調査（中国・韓国・アメリカ）等の調査研究を行った。

- (2) 入学者選抜の実施（入試実施本部，入試実施委員会構成員）

- ・入試実施本部（センター試験，一般入試前期・後期日程），センター試験監督，作題班支援
- ・入学試験審議会，入試実施委員会各委員
- ・AO入試Ⅱ期実施(志願者620人，合格者206人)
- ・科学オリンピック入試実施(志願者1人，合格者1人)
- ・AO入試Ⅲ期実施(志願者800人，合格者283人)
- ・国際バカロレア入試実施（志願者3人，合格者1人）
- ・グローバル入試Ⅰ期実施（志願者1人，合格者1人）
- ・帰国生徒入試実施（志願者11人，合格者3人）
- ・私費外国人留学生入試実施（志願者79人，合格者20人）
- ・一般入試（前期日程）実施（志願者4,927人，合格者1,915人）
- ・一般入試（後期日程）実施（志願者1,156人，合格者107人）

- (3) 入試広報活動（高校生・高校教員・保護者対象の説明会開催，高校等主催の説明会・相談会への参加，高校訪問・高校教員との懇談会，冊子・ウェブサイト等による入試情報の提供，学内への情報提供）

- ・入試説明会(高校教員対象)を全国20会場にて実施 参加者498人
- ・進学説明会(受験生・父兄対象)を3会場(札幌，静岡(新規)，東京，大阪)にて実施 参加者1,540人

- ・高校の大学見学の対応 50件
- ・民間業者等開催の説明会（高校教員との懇談会含む） 15件
- ・高校訪問 58校（入試センター教員 37校，学部教員 21校）
- ・東北大学案内の作成 78,000部発行
- ・入試センターウェブサイトによる情報の発信

(4) 高大接続・連携事業（フォーラム開催，アウトリーチプログラム，出前事業等の企画・学部支援，オープンキャンパスの企画開催・全学支援）

- ・第24回高等教育フォーラム（5月15日）「大学入試改革にどう向き合うか」参加者 355人
- ・オープンキャンパス（7月27，28日）参加者 64,448人 *H28年度入学者参加率 53%
- ・高校等主催の模擬授業，入試説明会・相談会に講師を派遣 112件

(4)言語・文化教育センター

使命

大学教養教育の基盤として広義のコミュニケーション能力獲得と多文化理解は重要な使命であり、自分の母語のみに限定されない総合的な言語運用能力を基盤として、幅広い価値観と世界観を涵養することは国際的なリーダーシップ力の育成にとって不可欠である。豊かな言語活動を実質化させるためには、言語4技能「聞く・話す・読む・書く」の総合力を備えた実践的運用能力の養成が不可欠であり、本センターは、国内外の高等教育機関における言語教授法と言語文化教育カリキュラム編成の在り方に関する調査研究を推進し実践するとともに、具体的かつ実行可能な言語文化教育改善のための提言を行い学生教育に反映することによって、言語文化に関わる教養教育の高度化と更なる発展に寄与することを使命とする。

事業内容及び活動状況

(1) 全学教育「外国語科目」・「日本語科目」および高年次用英語教育カリキュラムを学務審議会との連携のもと企画・開発し、運営する。

- 全学教育「外国語科目」および「日本語科目」においては、学務審議会科目委員会とも連携し、実施方法やシラバスの見直しを進めている。また一部外国語において展開科目として高年次教育への継続を図っている。
- 英語教育では「多読」や e-learning を活用した授業方法、また4技能を伸ばす PDR メソッドの開発と実践を進めている。
- 英語教育では、学生の英語運用能力が多様化してきている現状、特に留学生、帰国子女、英語圏への留学経験者などが増加していることに鑑み、将来的な能力別クラス編成をも見据え、英語教科部会と連携して「上級者用クラス」を設置した。
- 高年次用英語教育カリキュラムの橋渡しとして、Practical English Skills (PES) においてプレゼンテーションスキルやライティング力を高めるための教材、教授法の開発、また実用的な環境で英語力を向上させるために IPLA の留学生との統合的英語クラスの運営を進めている。
- 全学部の1, 2年次学生を対象に実施されている TOEFL ITP テスト[®]について、英語教科部会と協力し、スコアの変化や英語の授業内容との相関性などについての分析を行っている。
- 初修語教育では、検定試験対策を目的とした授業の開設（スペイン語、DELE 対策）や実践練習を目的とした夏季・春季集中講座（実践ドイツ語 I・II）の開設、外国人留学生との定期的な交流の実施（中国語、韓国語）など、学生の海外留学などへの対応、実践的言語運用能力の強化や異文化理解の促進などについて幅広い事業を展開しつつある。その一環として、学生および社会人を対象として、定期的に「韓国語と韓国文化に関する勉強会」および「中国語と中国文化に関する勉強会」を実施した。
- 今後も引き続き、全学教育から高年次教育につながる語学教育の中心的な役割を担っていく体制を構築する。具体的には、スペイン語圏文化の理解のための映画上映、韓国文化講演会などを行っている。
- 高度教養教育開発推進事業の一環として、初年次生向けのライティング教材『東北大学レポート指南書』を開発した。
- 平成 29 年度より配布予定の「スペイン語圏文化入門」のリーフレットを作成し、学生のスペイン語学習への動機づけを強化している。

(2) 全学留学生対象「日本語教育プログラム」をグローバルラーニングセンターと連携して企画・開発し、運営する。

- 外国人留学生等特別課程を企画・運営し、のべ約 850 名が受講している。
- 外国人留学生日本語研修コースおよび日韓共同理工系学部留学生プログラム（定員：各学期合わせて 30 名）を企画・運営し、研修生の教育指導を担当している。
- 短期留学受入プログラム JYPE（理系）、COLABS（理系大学院）、IPLA（文系）の日本語コースを企画・運営している。
- グローバルラーニングセンターと協力し、協定校の日本語既習者（N3 以上、文系）を対象とする、日本語教育と専門教育のハイブリッド型プログラム「DEEp-Bridge」を企画し、開設した。平成 28 年度後期には学部生 20 名、大学院生 7 名を受け入れた。

(3) e-learning 環境を改善し、コミュニケーション能力育成のための学習コンテンツを開発する。

- 平成 26 年度に CALL システムの大幅な機種変更が行われ、機能強化が図られたところである。英語だけでなく、初修語における e-learning 環境整備についても検討を開始している。
- 英語 CALL 教育においては、学習者の興味や関心、専門性を図るために、内容重視の英語教育を目的とする、Web 上のオープンソースコンテンツを活用した Authentic メディア教材の開発を進めている。

(4) 外国語教育研究の成果に基づいて、多読、多聴、速読、CALL 教育等の外国語教授法を改善・開発し、実践する。

- 「多読」については、平成 27 年度から補助金を得て、附属図書館本館のグローバル学習室における蔵書の強化を図っているところである。平成 27,28 年度において、英語関係で 1,500 冊以上（電子ブックを含む）に加え、初修外国語（ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及び朝鮮語）についても約 900 冊の整備を行った。あわせて日本語学習書や多読用図書の選定・設置も行った。さらに、「多聴」についても整備に着手し、教材として英語 DVD の導入を開始した。
- オンライン学習支援システムを用いて、反転授業を展開し、十分な課外学習時間の確保と 4 技能を伸ばす英語教育の実践（PDR メソッド）を進めている。
- 海外、特に日本と同じ非（または準）英語圏における英語教育の先進的事例についての調査を平成 27 年度から開始したところだが、平成 27 年度の韓国ソウル大学及び高麗大学への訪問調査に引き続き、他のプロジェクトとの連携もあって、香港において英語教育に関する先進的な取り組みをしている香港理工大学、香港中文大学、香港城市大学、香港科技大学への訪問調査を行った。
- 中国語ブレンディッドラーニング用教科書・指導法、及びスマートフォン利用の復習教材の開発に取り組んだ。具体的には、ブレンディッドラーニング用教科書及び指導法と評価法の具体的な設計手法を明らかにするとともに、東北大学の初修中国語ブレンディッドラーニング用教科書、指導用映像 DVD 教材、評価用各課小テスト及び平成 29 年度から実施されるクォーター制への対応が可能な試験問題を開発した。さらに、これら教材はいずれも、別途課題として新たに開発したスマートフォン利用復習用 e ラーニングシステムと連携するようにした。

(5) 教育評価分析センターおよび大学教育支援センターと連携し、言語文化教育に携わる教員の教育能力を向上させるためのプログラム開発を推進する。

- 平成 28 年度は、各センターと連携して語学教育に関するセミナーを開催した。
- 大学教育支援センターと連携し、英語で実施される授業について、11 月には「効果的な授業運営方法」について、12 月には「発音指導のコツ」について、それぞれセミナーを開催した。
- 大学教育支援センターと共同で 6 月に「第二言語習得論と外国語教育」を開催した。
- グローバルラーニングセンターとの連携のもとに、イントネーションに焦点をおいた発音指導に関する日本語教育研修会を開催した。
- 大学教育支援センターと連携し、東北大学専門教育指導力育成プログラムの一環として、外国語教育指導能力の開発支援を目的に、12 月に「大学ドイツ語教授法強化講座」を、平成 29 年 3 月に「大学スペイン語教授法強化講座」を、それぞれ開催した。
- 大学教育支援センターと連携し、東北大学専門教育指導力育成プログラムの一環として、全国 13 の大学の 15 名の大学中国語教員に対し北京語言大学での中国語教育指導能力の開発支援研修を実施した。

(6) グローバルラーニングセンターと連携し、海外派遣留学プログラム、外国語・コミュニケーション能力教育プログラムの充実化を図る。

- グローバルラーニングセンターと協力し、平成 26 年度の夏から韓国のソウル大学と短期海外研修スタディアブロードプログラム (SAP) を実施するなど Native 教員を通じた海外留学先との連携やプログラム開発への協力を進めている。また、SAP プログラムの支援活動として、グローバルラーニングセンターと米カリフォルニア大学リバーサイド校との共同開発で、「留学準備実践」を開講実施した。
- 全学教育と、Practical English Skills, グローバルラーニングセンターでの特別講座など英語教育活動

への協力と推進を図っている。

- グローバルラーニングセンター及びマンスフィールド財団と連携し、米国モンタナ大学の訪問・調査を行い、大学間協定の締結、共同研究の推進、学生・教職員の交流、単位取得を伴うグローバル・イニシアティブプログラムの開発及び実施を進めている。
- グローバルラーニングセンターと連携して外国人留学生等特別課程（日本語）の授業と合同の形で国際共修ゼミを開講し、国際理解教育を推進している。平成 28 年度は、28 クラスの国際共修ゼミを開講し、受講者のコミュニケーション能力、情報発信力、異文化理解能力等の向上を図った。

(5)グローバルラーニングセンター

使命

東北大学の教育国際化戦略の策定・実行と国際交流活動の推進に中心的な役割を果たす。優秀な留学生の戦略的受け入れ推進と教育・支援プログラムの開発・充実及び多様な海外派遣プログラムの開発・実施，教育の国際化の推進等の実践的活動を通じて，国際的な視野を持ち指導的な役割を果たすグローバル人材の育成に大きく貢献する。また，学内外の連携を強化し，グローバルキャンパス構築に寄与するとともに，広報活動や社会連携を推し進める。

事業内容及び活動状況

- (1) 教育国際化戦略の策定・実行のために，国内外における高等教育関連の情報収集，本学の国際競争力やネットワークの拡大を目指した発展的な戦略の策定および大学執行部・他部局への情報提供・提言を行う。学術間交流協定校をはじめとする世界各国の有力校との関係構築・強化・連携を強め，国際戦略に基づいた国際交流活動を実施する。

「東北大学グローバルイニシアティブ」構想の中核の一つをなすグローバル教育基盤整備に関して，グローバルラーニングセンターが開発・実施にあたり中心的な役割を果たしている。

学生の留学希望が多い欧米の大学を中心に協定締結のための大学訪問等を積極的に実施した。

海外拠点の整備について，①ベトナム貿易大学の共同事務所及びカリフォルニア大学リバーサイド校東北大学センターにおいて，短期海外派遣プログラムの実施や留学生のリクルートを展開した。②東北大学タイ代表事務所設置（平成 28 年 8 月）において中核的な役割を果たした。③メルボルン大学との戦略的パートナーシップ締結に積極的に参画し，東北大学ディ@メルボルン（平成 28 年 11 月）に参加した。

- (2) 優秀な留学生を獲得するため，多様で魅力的な国際プログラムを開発し，支援を行う。また，留学生支援（学業・生活支援，就職支援，危機管理，相談等）を充実する。

国際教育院がこれまで担当してきた英語による学士課程留学生プログラム「国際学士コース」の運営や全学教育の実施等を改組後引き続きグローバルラーニングセンターが行ってきた。特に，10名の国費留学生配置枠を得，3コースの協力のもと「理・工・農協働プログラム」を継続実施した。また，ウェブや現地高校訪問等を通じた国際学士コースの広報の結果，優秀な志願者・入学者を確保することができた。英語コースに関する教員に対するアンケートを基に，英語での教育力の向上を支援する PD プログラムを開発し，教育指導に関する改善を図った。

また，JYPE や IPLA プログラム等の英語で教授する交換留学生の受入プログラムについて，留学生課と協力してグローバルラーニングセンターが運営の中核的役割を果たしている。新たに人文社会科学系の受入プログラムにおいて，高度な専門教育に加え日本語・日本文化を集中的に教授するプログラム（DEEp-Bridge）を開発・実施した。大学院生を対象にして COLABS プログラムを実施し，世界各地から優秀な大学院生を本学の先端的な研究環境に交換留学生として受け入れている。グローバルラーニングセンターはこのプログラムのとりまとめを行うと同時にこれらの留学生に対しフィールドトリップや各種イベントを実施し，日本および大学への適応を支援している。また，理系・文系それぞれにおいて協定校からの学生を受け入れるサマープログラムを実施している。

これらのプログラムにおいて，グローバルラーニングセンターの教員が留学生に対する学業や生活上での支援や相談業務を行っている。また，本学学生による支援団体を統括し，学生による留学生支援の拡大を図っている。学生相談所での対留学生相談に通訳として教員を派遣するなど機構内の組織との連携も図っている。経済支援については，グローバルラーニングセンターが中心となって JASSO への奨学金の申請を行い，それを留学生の経済支援に充てている。さらに，キャリア支援センターに協力して留学生に対する就職説明会を定期的開催している。

平成 28 年度通年で外国人留学生数は 3,187 人に達し，平成 32 年（2020 年）度の達成目標である 3,000 人を突破した。

- (3) 国際戦略に基づき、質の高い海外研鑽プログラムを開発し、派遣留学生支援、派遣留学促進のための教育・支援を充実させる。

3～5週間の短期海外派遣プログラムである「Study Abroad Program (SAP)」を開発し実施した。今年度は夏休み・春休み合わせ、約330名の学部学生がSAPに参加している。SAPにおいては、語学研修だけでなく様々なテーマを設定してのアクティブラーニングや現地の大学生や地域住民などとの交流の場を設けており、質の高い国際経験ができるプログラムとしている。昨年度に引き続き海外体験プログラムを単位化し事前・事後研究の充実を図るとともに、新たに教員引率型の海外研修プログラムを開発した。さらに、ワシントン大学において理工系の大学院生向けの短期海外派遣プログラムを実施した。

交換留学を希望する学生に対して、グローバルラーニングセンターの教員が留学アドバイジングを行っている。交換留学を希望する学生並びに交換留学が決まった学生に対して、留学準備教育を行っている。

SAPや交換留学に対するJASSOの奨学金を獲得する努力を行い、派遣留学参加者の経済的支援に貢献している。また、交換留学における単位認定・単位互換に関するラーニングアグリーメントについて、全学的な導入の準備を行っている。

昨年度に引き続き5月及び10月を留学強化月間として留学に興味を持ってもらう様々なイベントを催し、同時に留学に関する情報提供を行った。

本学は平成26年3月にはAOII期・推薦入試合格者を対象に国立大学では初めてとなる「入学前海外派遣プログラム」を実施したが、4年目となる今年度は平成29年3月にカリフォルニア大学リバーサイド校(アメリカ)での派遣プログラムを実施するとともに、工学部と協力してオークランド大学(ニュージーランド)でも同様のプログラムを実施した。

- (4) 国際社会でリーダーとして活躍する人材を育成するために、国際教養力、行動力、語学・コミュニケーション力等を育む多様な教育プログラムを開発・実施する。

東北大学グローバルリーダー育成プログラムの責任部署として、プログラムの策定・実施にあたっている。このプログラムは、本学学部生を対象として、語学・コミュニケーション力、国際教養力、行動力を養成する3つのサブプログラムと、海外研鑽サブプログラムからなり、グローバルラーニングセンターは、これらプログラムの方針の決定、指定科目の選別、ポイントの認定、学習アドバイジング、プログラム修了やリーダー認定の判断等多くの事を行っている。平成28年度の登録学生数は2,562名に増加した。また、本プログラムに提供する正課・課外の授業の一部を実施している。特に、外国人留学生と日本人学生が共に学ぶ課題解決型授業「国際共修ゼミ」や、グローバルに活躍する個人や企業人等を招いての「グローバルキャリアセミナー」、グローバルリーダー認定コースの必修科目である「グローバルゼミ」等を実施し、グローバル人材の育成に貢献している。

課外での英語学習の強化のため、平成27年に開設した東北大学イングリッシュアカデミー(TEA)において、課外英語学習講座、英語アドバイジング、TOEFL-iBT、TOEFL-ITPの試験実施などを引き続き行った。特に課外英語学習講座であるTEA's Englishには平成28年度延べ432名の学生が参加した。

- (5) 学内外との連携を強化し、グローバルキャンパスの実現に寄与する。また、本学の教育国際化について積極的な広報活動を行い、広く社会との連携を図る。

各部局の国際交流担当教職員や、東北大学留学生協会(TUFSA)等の学生団体等との学内諸団体との連携を強化している。

世界各国の国際教育・交流教職員が一堂に会す国際学会や協議会(NAFSA, EAIE, APAIE)等に教職員を派遣し、本学の取り組みや調査結果を積極的に情報発信するとともに国際ネットワークの拡大に努めている。

グローバルラーニングセンターのホームページを抜本的に改修し、国内外への訴求力を高めた。また、本学の教育国際化の取組についてリーフレットを作成し、民間企業、保護者等を含む一般の方々への広報活動を行っている。

(6)学際融合教育推進センター

使命

- (1) 世界的な視点で、大学における教養教育のありかたを調査研究し、東北大学の学士課程教育、大学院教育の発展に資する提言を行う。
- (2) 全学教育の分野別教育を開発・提供するとともに、学士課程教育、大学院教育を視野に入れ、各分野内の総合科目（自然科学、人文科学、社会科学、スポーツ）、分野を超えて人類社会の課題に応える学際融合型教育科目の開発・実施を行う。
- (3) 学際融合型教育を英語など多言語で提供し、東北大学の教育を国際的視野で推進する。

事業内容及び活動状況

- (1) 人類社会の課題に応える部局横断的な学際融合教育課題・教育プログラムに関わる調査研究とカリキュラムの策定

1. 調査研究については、12月12日に大阪大学で開催された学際融合教育/高度教養教育に関するラウンドテーブルに参加し、全国の国立大学が実施している学際融合教育や高度教養教育の事例を学んだ。その成果は機構セミナーにて報告した。3月4・5日に京都で開催された第22回FDフォーラムにセンター教員とともに参加した。また、電気通信研究所共同プロジェクト「科学の客観性と人間性との調和を目指す化学教育のあり方と実施方法-現代科学の問題点と人類の未来のために-」に関して、沢田康次（学際高等研究教育員シニアメンター）先生と羽田教授（センター兼務教員）とともに話し合いを行い、今後の学際融合教育の方向性について議論した。
2. 平成28年度の開講科目として、カレントトピックス・展開ゼミ「アジアを知ろう、感じよう」（学士課程1,2年生対象科目、全学教育開講）を開講し、東アジアの歴史・文化・政治・経済・環境の多方面からとらえる学際融合型授業を提供した。担当教員は、外部講師として、桃木至朗、末永恵子を招いた。※コーディネーター：芳賀満（代表、高度教養教育・学生支援機構）・中川学（同機構）受講者は9名であった。
3. 昨年度に開催された体育を通して人間教育セミナーに関する報告書を作成・刊行した。

- (2) 学部から大学院にいたる学際融合型授業の開発推進

1. 平成27年度から構想されていた学際融合教育推進センター連続セミナーを「これからどうする？科学技術と社会」と題して、外部講師4名を招聘して実施した。担当教員は、外部講師として、松本三和夫、小林傳司、吉岡斎、原山優子を招いた。参加者は学部1年生からシニアまで世代を超えて、所属部局も文系理系織り交ぜられていて、合計97名であった。※コーディネーター：中村教博（代表、高度教養教育・学生支援機構）・山内保典（同機構）
2. 全学教育の基幹科目に科学技術社会論を扱う学際融合教育科目「社会の中の科学技術」を新たに開講した。専門科目を学ぶ前の学生に対し、社会と科学技術（特に自身の希望する専門分野）の関係について、異なる分野の学生と議論をしながら考える科目である。受講者は12名であった。
3. 全学教育の基幹科目に研究倫理を扱う学際融合教育科目「あなたの選択：事例で考える研究倫理」を新たに開講した。「学習・研究倫理教材」とリンクした授業で、専門分野を学ぶ前の学生に対して研究における5つの価値「正直・信頼・公平・尊敬・責任」を、身近な事例に基づいて考える科目である。受講者は7名であった。
4. 平成29年度に全学教育科目として開講予定の新しい学際融合教育科目と高度教養教育科目を教育評価分析センターの教員と協力して開発した。学際融合教育科目としては「遊学:ためして、つないで、ふりかえる(カレントトピックス科目)」、「ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学(基幹科目)」、「スポーツとコーチングの融合(カレントトピックス科目)」を開発し、学部3・4年生対象の高度教養教育科目としては「みせる、学び:大学で何を学んだの?」を企画し、平成29年度からの継続実施を予定している。

- (3) 教育プログラムの実施に必要な実装組織の構築

平成27年度から学務審議会に設置された「高度教養教育開発検討ワーキング・グループ」において、3名の所属教員がグループメンバーとして改革に従事している。

(7)学習支援センター

使命

- (1) 学生の主体的・自律的な学習を実践的に促進・支援し、研究大学で学ぶ学生が習得すべきコンピテンシーを育成する。
- (2) 初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し、大学における学習支援の質的向上に寄与する。
- (3) 教職員・学生の中に「学び合い」文化を醸成し、学習共同体（ラーニング・コミュニティ）の形成に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) スチューデント・ラーニング・アドバイザー（SLA, Student Learning Adviser）制度の運用を基盤とした学習支援の開発・実施

本センターの提供する学習支援の主要事業が、SLA, Student Learning Adviser による学習支援である。SLA とは本学学生による学生のための学習支援スタッフを指し、主に学部 1,2 年生の授業時間外の学習に対する支援を行っている。2016 年度の SLA 数は、前期 50 名（学部学生 13 名、修士学生 24 名、博士学生 13 名）、後期は 55 名（学部学生 17 名、修士学生 27 名、博士学生 11 名）であった。うち 2016 年度中に新規採用した SLA は 23 名である。

この SLA による学習支援は大きく、①理系科目の学習支援、②英会話支援、③ライティング支援、④科目を超えた学習企画の実施に分けられる。

①理系科目の学習支援は、質問受付カウンターで SLA が学生への学習支援にあたる個別対応型を中心としている。平日 2 限から 5 限の間、ドロップイン（予約不要）の形態で、個別もしくはグループでの質問を受けるといった窓口対応を行った。また、OJT や Off-JT、学生対応の標準化と研修機会の拡充を通して学習支援の質向上を推進した。2016 年度の利用者数は延べ 1767 名、実数 356 名であった。

②英会話は「英会話カフェ」と「1 on 1 英会話」の 2 形態を通して、利用学生の多様なニーズに応じた学習支援を行った。「英会話カフェ」「1 on 1 英会話」とともに学生対応の標準化を進め、学習支援の質保証を図った。英会話支援の 2016 年度の利用者数は延べ 518 名、実数で 130 名であった。

③ライティング支援としては、個別対応型の支援やアカデミックスキルセミナーを実施すると共に、留学生への日本語ライティング支援体制を構築するべく様々な準備を進めた。ライティング支援の 2016 年度の窓口利用者は延べ 61 名、実数 56 名、セミナー参加者延べ 40 名であった。

④学習企画実施については、2016 年度に「企画担当 SLA」（詳細以下参照）を新設し、運営体制の強化を実現した。

- (2) 学習支援の組織開発および支援者育成システムの開発・実践

2016 年度は学習支援のための組織体制の強化を目指し、SLA 制度を基盤とした学習支援事業の運営体制を見直した。SLA の日常的な業務や実践の中で蓄積されていく知見を個人の経験に基づく暗黙知に留めるのではなく、センタースタッフの間で効果的に共有する環境を整備し、学習支援の質の向上に資する教育プログラムの開発・実践と組織体制の構築を図った。

SLA のサポート機能とセンターの業務運営の一部を担う役割を期待して昨年度新設した「シニア SLA」については、制度の設計と運用の両面から見直しを図った。活動内容を整理・精査し、SLA が「シニア SLA」となるための要件を見直して対象を広げた。シニア SLA によるプロジェクトとして、ピアレビューシートの作成・実施に取り組み、SLA による学生対応方法の標準化を図ると共に、日常的な学生対応について SLA が相互に検討し合う雰囲気の醸成を企望した。

当該年度には、科目の枠組みを超える学習支援体制の強化を図るため、「企画担当 SLA」を新設した。「企画担当 SLA」は、主に初年次学生に向けた様々な学習情報の発信や企画の実施を活動内容としている。これらを通して、学生が大学で習得すべき各種のコンピテンシーの習得と向上、学問に対する興味を喚起し、教養の希求や学習意欲の向上、学際的な研究への理解などを促進する役割を担うことを目指す。

(3) 情報還元による正課カリキュラムの改善・充実への貢献

前年度に引き続き、学務審議会において、センターの利用状況・活動報告を行った。

その他、2016年度は、理系の初年次基礎科目を中心として、学習支援センターに集まる学生の学修情報を担当教員に効果的かつ効率的にフィードバックするシステムの設計と試行、そして改良を目指した。その中で、担当教員・担当委員会との密な連携を前提としたフィードバックシステムに、業務の効率性の観点から多くの課題が見出された。そこで本年度は全理系科目において基礎データを蓄積すると同時に、学修情報の安定的かつ効率的なフィードバックを実施するための制度やシステムを確立するため、センターにおける質問事例の蓄積方法および活用方法の見直しを図った。

(4) 正課カリキュラム外における学生の自主的な学習の支援・促進

学生の学習意欲の向上や教養への興味喚起、正課カリキュラム外での学習活動推進を図るため、SLAによる学習支援活動を中心に、様々な学習企画や学習支援活動を実施した。「大学での学び」に対する学生の意欲と理解を深めることを目的として、9回にわたるアカデミックスキルセミナーを実施したほか、教養への関心を喚起することを目的とした「音楽」についての学際的なイベントや、留学生と日本人学生の交流と相互学習を意図したイベントを行った。これらのイベントには、総じて40名程の参加者があった。その他、附属図書館との協働企画を実施した。図書館内のグローバル学習室にて「音楽」をテーマとした特別展示を行い、本の展示のみならず、本についてのポップや視聴コーナー、参加型アンケート企画などの工夫を凝らした内容により、学生の読書推進や学問的観点からの音楽への興味喚起につなげることができた。

他には、前年度同様、教務課と連携して正課外で自主的に学習活動を行う「自主ゼミ」に対して活動場所を提供したり、「自主ゼミ」活動を推進するためのイベントも実施した。

(5) 学内外における学習支援ネットワークの構築

学内においては、学生相談・特別支援センター等の協力を得てSLA研修を実施し、グローバルラーニングセンターとの連携下でFGLの留学生に対する授業連携型の支援を試行した。そのほか、附属図書館との協働企画として、学生の教養への興味を喚起することを目的とした特別展示を約2ヶ月に渡って開催することができた。

学外との学習支援ネットワークとしては、同志社大学、関西大学、早稲田大学等での学習支援の取組を視察する等を通して、他大学の学習支援組織との継続的な連携・協働関係を構築することができた。また、このような学習支援ネットワークを介して、学外講師招聘型のセミナーを3回開催すると共に、同志社大学と本学の学生スタッフ研修を合同で実施した。

(8)キャリア支援センター

使命

- (1) 学部・大学院全体に対するキャリア支援を充実し、東北大学の学生が大学での学びを基盤に社会に巣立ち、生涯にわたって発達し、社会に貢献できるよう支援する。
- (2) 就職動向や就業実態、大卒者のキャリア発達など進路選択に関する情報収集・調査研究を行い、各種のキャリア支援・就職支援に活用する。
- (3) 学生個人に対する相談業務を通じて、学生が進路選択を適切に行えるよう支援する。
- (4) 学生相談・特別支援センター、グローバルラーニングセンター及び部局等との連携を強化し、情報共有を進め、東北大学全体のキャリア支援力を向上させる。

事業内容及び活動状況

- (1) キャリア教育としての正課教育の改善・充実を図る。学士課程教育から大学院教育にわたり、学生の成長・発達の節目に対応し、自らのキャリア・デザインを構築する機会を提供するために正課教育を充実させていく。

平成 28 年度はキャリア教育科目として全学教育で 6 科目を開講した。フィールドワークを取り入れた PBL 科目として「フィールドワーク実践：地域とビジネス」を新たに開設するなど、体系的整備を進めている。

また、経済学研究科でのキャリア教育科目実施への協力を継続することに加え、学部・大学院と連携したキャリア教育科目の開講に向けて企画・調整に当たった。29 年度には文学部と生命科学研究科で授業科目やその一部として新たに開講することが決まり、それらの実施にも協力することとしている。

- (2) 部局と連携し、正課外としてのキャリア支援の改善・充実を図る。学生個人の発達課題に対応したキャリア相談、就職相談等個別対応を重視し、進路・就職ガイダンス、キャリア支援セミナー、業界仕事研究講座、キャリア・就職フェアなどを企画・実施し、学生の出口支援の充実を図る。

学部 1・2 年次学生から大学院学生までを対象とした「キャリア支援プログラム」を実施している。大人数のセミナーから少人数のワークショップ、個別相談まで、幅広いテーマのプログラムを多様な実施形態で提供している。28 年度は、セミナー 28 回（参加学生数延べ 2,518 名）、ワークショップ 21 日間（同 412 名）、キャリア就職フェア 6 日間（同 8,716 名、参加企業数 300 社）など。また個別相談では、3,254 件（川内）に対応した。また、部局等で開催されるセミナーや F D 等に講師を派遣するなどの協力も行っており、部局との連携強化を図っている。

- (3) 研究科と連携・協力し、学部から大学院への選択・移行・適応を適切に行えるプログラムを開発し、実施する。

大学院進学は進路形成における主要な選択肢の一つであり、大学院生や大学院進学希望者を対象としたセミナー等を主催した。また、各学部・研究科におけるセミナー・ガイダンス等への講師派遣や、キャリア教育科目の実施協力などを通じて大学院進学希望者や大学院からの就職希望者への支援充実に取り組んでいる。生命科学研究科では、ライフサイエンス系大学院生を対象とした進路ガイダンス、キャリアフェアを連携して実施した。

- (4) 大学院生後期課程を主な対象としたイノベーション創発塾を拡大・推進し、社会が求める博士課程修了者の幅広いキャリア支援プログラムを開発・実施する。

「イノベーション創発塾」を開講し、様々な問題を俯瞰した上で自ら課題を設定・解決できる人材の育成に取り組んだ。イノベーションスキルやマネジメントスキル、社会人基礎力、グローバルコミュニケーション力等の効果的向上を図るためのプログラムを展開した。平成 28 年度の卒塾者は 40 名。

また、中長期インターンシップの推進や、専門スタッフによる個別面談、博士・ポスドクのための Job Fair の開催等のキャリアパス支援を通じて、博士人財の産業界への輩出を推進するとともに、安心して博士後期課程に進学できるよう出口支援の充実を図っている。平成 28 年度は、中長期インターンシップへの参加学生数 6 名、個別面談 406 回実施（青葉山）、Job Fair への参加学生数 108 名および参加企業数 21 社であつ

た。

さらに、文部科学省「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業 連携型博士研究人材総合育成システムの構築事業」において北海道大学や名古屋大学と連携して「イノベーション創出人材連携育成プログラム」にも継続して取り組んでおり、博士後期課程学生やポスドクを対象としたキャリア支援の充実を進めている。

- (5) 進路選択に関する情報提供の充実を図る。全学の学生がすべてのキャンパスで等しく進路・就職に関する情報が得られる、ワンストップの支援体制（支援環境）を整備する。

多様な学生の多岐にわたるニーズに対し、進路選択に関する情報を各学生のメインキャンパスにかかわらず均等かつ速やかに提供するため、電子メールや SNS，ホームページを活用した情報提供の充実を進めている。キャリア支援センターホームページは、ワンストップの支援体制を支える重要な柱のひとつとして位置づけており、平成 28 年度、ホームページをリニューアルして新ページの運用を開始した。

- (6) キャリア支援に関する専門的知見を高め、特にキャリア支援担当者としての資質を高める専門性開発を重視する。

キャリア支援に関する教職員のスキル向上を目的とする研修を実施し、15 の部局から 47 名の教職員が参加した。

また、『教職員用キャリア支援ガイド』を制作し、全部局に配布した。

(9) 学生相談・特別支援センター

使命

「すべての学生がその学びと成長のプロセスにおいて、本学での経験から最大限の利益を引き出すことができるように、学生および大学コミュニティへの支援を行う」ことを目指して、大学教育の一環としての学生支援において核となる役割を担い、学生の人間形成の促進および大学の学生支援力の向上に寄与する。

事業内容及び活動状況

(1) 相談援助活動

来談学生（留学生を含む）への個別支援、教職員および家族へのコンサルテーション、来談者間の交流支援等

- 学生相談所への来談学生に対して個別面接を通しての支援を行っており、必要に応じて指導教員や事務職員と連携している。また、学生の生活指導に関連して教職員や学生の家族からの相談にも応じている。平成 28 年度の学生相談に対する個別支援：来談者数 729 名、対応回数 4370 回（川内南キャンパスでのキャリア・カウンセリング、雨宮および星陵キャンパスでの出張相談も含む）。
- 受付兼インターカーの職員が、待合室兼グループ室を居場所として利用している学生に対する働きかけや学生間の交流支援を行っている。こういった活動も学生が相談しやすい環境整備に有用であり、また相談業務の大きな支えになっている（平成 28 年度：利用者数延べ 172 名）。
- これまで実施してきた川内南キャンパスでのキャリア・カウンセリング、雨宮キャンパスでの出張相談に加え、平成 26 年 12 月から星陵地区での相談対応を開始しており、各キャンパスとの相談業務の連携を図っている。川内南キャンパスでのキャリア・カウンセリング：来談者数 10 名、相談回数 11 回、雨宮キャンパスでの出張相談：来談者数 7 名、相談回数 22 回、星陵キャンパスでの出張相談：来談者数 14 名、相談回数 45 回。

(2) 特別支援活動

特別な支援を必要とする学生への対応策の調査および開発実践

- 入試時における特別措置申請のあった学生や、修学上のつまずき等を契機に来談した学生について、特別な支援が必要と判断された場合、個別面接を行うと同時に、授業担当教員や教務事務職員と連携しつつ支援を行っている。また、学生への関わりや支援等に関する教職員・家族からの相談にも対応している。平成 28 年度：来談者 81 名、対応回数 1,997 回。
- 障害のある学生への個別支援、オープンキャンパス来場者のための情報保障や移動支援、キャンパスバリアフリーマップの作成等のために、学生ピアサポーターの募集・養成を行っている。平成 28 年 8 月には学内外の講師陣による「学生サポーター養成講座」を開催し 19 名が受講した。
- 聴覚障害や視覚障害、肢体不自由の学生等の支援に関して、支援機器の整備・活用、設備・施設の改善等に部局と連携しつつ取り組んでいる。また、キャンパスのバリアフリー化に関するチェックを進めるほか、学生ピアサポーターの協力を得て、川内北キャンパスのバリアフリーマップを完成させた。
- 修学上の配慮を提供する流れについて、学生生活支援審議会における審議・決定内容をもとに冊子「修学上の合理的配慮の提供に関する対応について」を作成し、全教職員に配付し周知に努めた。

(3) 予防・教育・広報活動

予防教育、全学 FD、部局オリエンテーション・パンフレット等での広報活動等

- 学生相談・特別支援センターのスタッフ全員の担当で、全学教育科目「学生生活概論－学生が出会う学生生活の危機と予防」（全学教育・第 1 セメスター）を開講した。
- 全学 FD として、学生生活支援審議会 FD を年 4 回実施している。平成 28 年度は、ハラスメントに関するテーマ 2 回、障害学生支援に関するテーマ 1 回、学生支援の今日的課題に関するテーマ（特別支援、保健管理、キャリア支援）1 回を実施した。加えて、SD（教務系職員実務研修）、部局 FD において、学生支援やハラスメント、障害学生支援に関するテーマでの講演を実施している（平成 28 年度：合計 13 回）。
- 全新生入生に対して学生相談・特別支援センターのリーフレットを配付して広報に努めると同時に、新入

生特別セミナーや部局オリエンテーションにて学生相談・特別支援センターの利用案内等を行っている（平成 28 年度：合計 17 回）。また、メンタルヘルスやハラスメント防止に関するテーマで、部局と連携した学生対象の講演会を実施している（平成 28 年度：8 回）。

- 工学部・工学研究科の学生支援連絡会議，理学部・理学研究科のキャンパスライフ支援室連絡会議に出席し，部局の学生相談・学生支援担当部署との連携を図った。

(4) 調査・研究活動教育活動

学生相談および特別支援の実践法および学生支援活動に関わる研究

- 学生の心身の健康状態や大学生活への適応の把握を目的とした全学生対象調査を実施し，結果に応じて個別支援につなげた。平成 28 年度：調査の回答者数 10,979 名（回収率 61.0%），そのうち，大学生活への不適応ハイリスク群が学部新入生で 169 名，学部 2 年生以上で 339 名おり，PTSD ハイリスク群は 393 名であった。また，震災ボランティアに関わる学生の心理的ケアに関する調査研究を行った。

(5) 大学としての学生支援施策および危機管理への提言

学内委員会等を通じた提案，ハラスメント全学学生相談窓口における相談対応

- センター教員は，学生生活支援審議会，男女共同参画委員会，東日本大震災学生ボランティア活動支援運営委員会，ハラスメント全学防止対策委員会専門委員会の委員を務めている。
- ハラスメント全学学生相談窓口相談員として，来談者への個別支援等を行っている。平成 28 年度：相談件数 24 件，対応回数 95 回。

(6) 他大学の学生支援活動との連携および地域連携

他大学等における講演，学生相談・特別支援担当者間の研究会の実施

- 他大学等の依頼を受け，FD 等においてハラスメントや障害学生支援に関する講演を実施した（平成 28 年度：8 回）。また，第 53 回全国学生相談研修会の講師を務めた。
- 仙台学生相談事例研究会，第 7 回発達障害学生修学支援体制構築に関する合同研究協議会，みやぎ学生相談連絡協議会に出席した。
- 仙台市自殺防止対策連絡協議会の委員を務め，仙台市における自殺対策推進に寄与している。

(10)保健管理センター

使命

保健管理に関する専門的業務及び保健管理についての専門的調査，研究を行い，本学における学生の健康教育及び健康の保持，増進を図ることを目的とする。

事業内容及び活動状況

(1) 保健業務の実行についての企画，立案

- 1) 定期健康診断の企画・実施。
- 2) 特殊健康診断（放射線取扱学生特殊健康診断，有機溶剤特定化学物質取扱学生特殊健康診断，VDT 作業従事学生特殊健康診断，結核検診）の企画・実施。昨年度は医学的な理由により，ツベルクリン反応を用いた結核検診を廃止し，秋胸部X線検診を導入した。
- 3) 健康科学セミナーの企画・実施。
- 4) 健康科学講演会の企画・実施。
- 5) 禁煙外来の企画・実施

(2) 保健管理についての専門的調査，研究

- 1) 学生の尿検査異常からみた改善すべき生活習慣の推測
- 2) 若年化の進む心血管病発症年齢の新しい機序解明と予防法の開発
- 3) ライフスタイルと肥満・高血圧・喫煙習慣の関連
- 4) 学生の難病に関する病因・病態・治療に関する研究

(3) 健康教育に関する専門的業務

- 1) 宮城県内の大学保健施設教職員を対象とした「健康科学セミナー」を5回実施。(第1回：保健管理に関わる最近の話題(木内)，第2回：統合失調症について(伊藤)，第3回：肥満，腎臓の役割と疾患(小川)，第4回：喫煙と健康障害(北)，第5回：心臓と血管のお話(佐藤))。
- 2) 全学教育「体と健康II」の実施。
- 3) 健康科学講演会「喫煙と健康障害」(北)

(4) 健康診断及びその事後措置

- 1) 定期健康診断を4～5月に実施(受診率75.4%)，事後措置を必要とした学生は1,560名であった。事後処置として精密検査及び健康教育，さらに必要に応じて大学病院などへ紹介を行った。
- 2) 6・12月に放射線取扱学生特殊健康診断，7・11月に有機溶剤・特定化学物質取扱学生特殊健康診断，10月にVDT作業従事学生特殊健康診断，11月に秋季胸部X線検診を実施。
- 3) 健康診断証明書の発行(1,992通)

(5) 5保健室(川内地区，片平地区，星陵地区，青葉山地区，雨宮地区)における健康相談，メンタルヘルスケア及び救急措置

- 1) 川内地区では，月～金の午前・午後に医師による健康相談，救急措置を実施し，火・木・金の午前・午後に精神科医師によるメンタルヘルスケア，火・金の午前と月の午後に歯科医師による健康相談，月～金の午前・午後に管理栄養士による栄養相談を実施した。また，片平地区では金の午後，星陵地区では木の午後，青葉山地区では火の午後，雨宮地区では月・水の午後に医師による健康相談，救急措置を実施した。また平成29年1月からは，雨宮地区の保健室は新青葉山キャンパスに移転して活動を行った。

(6) 学内の環境衛生及び感染症予防の措置についての指導援助

- 1) 中東呼吸器症候群・ジカ熱・鳥インフルエンザに関する注意喚起の掲示を行った。
- 2) 大学寮における小児ウイルス感染症対策，ウイルス性胃腸炎対策を行った。
- 3) 学内寮から発生した結核罹患者に対する対応を行った。

(7) その他健康の保持，増進についての必要な専門的業務

- 1) 東北大学の結核対策について検討した。
- 2) 各種大学行事への医師・看護師の派遣・対応（各種入学試験，入学式，新入生オリエンテーション，北
雄杯駅伝大会，オープンキャンパス，キャリア就職フェア，学位授与式，大学祭，深夜マラソンなど）
- 3) 「保健のしおり」の発行

(11) 課外・ボランティア活動支援センター

使命

本学学生の社会性を涵養し、主体的な問題解決能力を備えた指導的人材を育成するために、学生の自主的な課外・ボランティア活動を総合的に支援するとともに、社会貢献型の体験学習を実施し、学生の心身の健康増進に寄与する。

事業内容及び活動状況

(1) 本学学生の自主的な課外活動、文化やスポーツ・ボランティア活動の総合的な支援

平成 28 年度に本学学生の自主的なボランティア活動の支援として、以下を実施した。

【スタートアップフェア、ボランティアフェスタ】

学外・学内のボランティア団体がブース出展し、東北大学生を対象にボランティア活動の説明会を開催し、東北大学生の自主的なボランティア活動への参加を促す「スタートアップフェア」、同じく学外・学内のボランティア団体が、スライド等で説明を行う「ボランティアフェスタ」等を以下の通り開催した（人数は参加した東北大学生数）。

4月8日・11日・14日・20日・21日・26日	237名（昨年度同シーズン 246名）
6月27日～7月1日	13名（昨年度同シーズン、21名）
11月9日～11日	38名（昨年度同シーズン、30名）
1月20日・27日	1名（昨年度同シーズン、8名）

合計で延べ 289 名の参加を得た。

【スタディツアー、ボランティアツアーの実施】

東北大学生に東日本大震災被災地とそこでのボランティア活動に関心を持ってもらうことを目的とした「スタディツアー」および、実際に被災地でのボランティア活動を行ってもらう「ボランティアツアー」を 66 回実施し、延 664 人×回数（延 1153 人×日）の東北大学生が参加した。

【学生アシスタントグループの育成】

東北大学のボランティア活動を促進する事業を支援する、ボランティア（無償）の学生アシスタントグループ「東北大学東日本大震災ボランティア支援室学生スタッフ SCRUM」の育成を行い 40 名（昨年度 13 名）の学生がスタッフとなった。週 1 回のペースでアシスタントとの会議（3h）を実施し、また年 3 回、長時間（8h～16h）の研修合宿・会議を行った。上記のスタートアップフェアやボランティアツアーの実施について、企画立案から実施支援まで学生アシスタントの助力を得て行っている。またオープンキャンパスや東北大学祭等で、東北大学生のボランティア活動を紹介する展示等の企画も、学生スタッフが実施した。

【広報誌「ボランティアセミナージャーナル」の発行】

東北大学生のボランティア活動への関心を喚起する目的で「ボランティアセミナージャーナル」の 11 号（20 頁、5,000 部）を発行した。

【心の復興事業】

復興庁が公募する「心の復興事業」に学生スタッフチーム SCRUM が 8 月に事業採択され、岩手・宮城・福島への復興住宅を中心に被災者の心のケアに取り組む（ボランティアツアーとして実施。前項参照）。また、事業遂行のために常勤のコーディネータを雇用し、また学生コーディネータ 2 名をバイトで雇用して、事業遂行に取り組んだ。

【各団体・個人のボランティア活動実施支援】

東北大学の学生ボランティア団体や個人の学生によるボランティア活動の実施について、実施方法や交通費について相談対応業務を行った。2016 年度中に延 106 名の学生が活動した。

【熊本地震の被災地支援】

4 月に発生した熊本地震の被災地に SCRUM と登録学生ボランティア団体 HARU のメンバーを派遣し、熊本大学や熊本県立大学の学生ボランティア団体と連携して活動した。今年度は 5 月 2 日から最初の派遣を行い、その後、2 月の第 6 次派遣まで計 6 回で延 30 名の学生と教職員が熊本を訪問し、がれき（瓦やブロック塀等）の収集・撤去、自宅の片付け、テント村の引っ越し手伝い、避難所や仮設住宅での足湯ボランティア等といった支援活動を行った。また SCRUM では、8 月の台風 10 号で大きな被害のあった、岩手県岩泉町にも 3 回で延 11 名のボランティアを派遣した。

【井戸端会議】

スタートアップフェア等に参加している学外・学内のボランティア団体やNPO等を集めて、ボランティア支援についての相談や各団体の活動報告・交流等を行う「井戸端会議」を、5月、6月、7月、9月、11月、12月、1月、3月の8回実施した。

【東日本大震災学生ボランティア活動支援運営委員会】

「東日本大震災学生ボランティア支援に関する要項」に基づき、7月13日及び11月18日に開催した。

平成28年度、本学学生の自主的な課外活動の支援として、以下を実施した。

自主的な課外活動の各種支援は、教育・学生支援部学生支援課活動支援係ならびに支援企画係の事務職員6名が中心に実施している。また、これら支援に関わる諸判断は、学生生活支援審議会、学友会等々の全学的教員を含む組織委員会を通してなされている。主な支援について以下に記した。

【学生団体への登録ならびに説明会の開催】

今年度の学友会団体は、全173団体、約10,000名の総数の学生から、団体継続・新規実施届を受付、これら団体の自主的な活動支援を行った。また、10月21日には、全ての届出のなされた団体の代表者に対する説明会を開催し、当日、159団体の代表者ならびに顧問教員が参加し、課外活動時における様々な注意喚起を行った。

【七大戦の開催支援】

平成28年度は東京大学が七大戦の主管大学となり、本学は学友会体育部常任委員会を中心として、サポートを行った。なお、10競技で1位を獲得する結果で終わった。

【新歓および大学祭の支援】

平成28年度の新入生歓迎行事ならびに大学祭においては、それぞれ学生の自主的な実行委員会が組織され運営は全て学生に任されているが、それら運営を指導・サポートする教職員による体制を構築し支援を行ってきた。大学祭では、延べ32,400名の来場者（大学祭実行委員会報告）があり、無事、成功裏に終えることができた。

【課外・ボランティア活動団体の合同研修会の実施】

課外活動に取り組むリーダー層の学生の育成を目的とした「課外・ボランティア活動団体合同研修会」を、11月17日に実施し、SCRUMから4名、大学祭全学実行委員会から5名、東北大学生協学生委員会（おおわん）から2名の学生が参加した。

以上、学生の正規な課外活動の支援を通して、主体的に活動できる強い人材育成にも貢献している。

(2) 東日本大震災被災地復興および地域社会・国際社会に貢献し得る人材の育成を目的とした、社会貢献型の体験学習（サービスマーケティング）の企画・実施

平成28年度に、東日本大震災被災地復興および地域社会・国際社会に貢献し得る人材の育成を目的として、正課授業やTGLプログラム等と連携し、社会貢献型の体験学習（サービスマーケティング）の企画・実施を以下の通り行う計画である。

【課外・ボランティア活動関連科目の開講】

課外・ボランティア活動支援センターとして、下記の科目を開講した。担当は藤室特任准教授。

前期 基礎ゼミ「地域復興とボランティア活動」（受講生19名）

総合科目「震災復興とボランティア」（オムニバス講義）（受講生19名）

なお基礎ゼミの取り組みから、ボランティアサークル「たなぼた」（単位が無くてもボランティアしたい）が生まれ、あすと長町第1・2・3市営住宅、石巻市新蛇田団地などで活動を継続している。

後期 展開ゼミ「地域復興とボランティア活動」（受講生4名）

展開ゼミ「課外活動とキャリア形成」（受講生2名）

【ボランティアを通じた人権教育に関する開発】

江口特任助教を中心に、「ポスト震災」を見すえて、ボランティア活動を通して、日常の地域社会やキャンパス内にある人権課題について学ぶ授業科目について、開発を行っている。開発の一環として連続講座「共生社会に向けたボランティア活動—人権・多様性・エンパワーメント」を開催し、4回実施した。

【グローバルラーニングセンターとの連携】

グローバルラーニングセンターと連携し、海外からの留学生で東日本大震災の被災地に関心のある学生を主な対象にして、6月11日・12日に女川ラーニングツアー（Onagawa Learning Tour）を実施した（学生26名参加、内16名が留学生）。11月4日にワークショップ（The Great East Japan Earthquake Workshop）を実施した。

今後、12月17日～18日には、グローバルラーニングセンターと連携し「留学生と行く陸前高田ボランティアツアー」を開催した（学生33名参加、内16名が留学生）。2月8日には「ハラルフードで世界に挑戦する石巻スタディツアー」（学生24名参加、内17名が留学生）を開催した。

また支援センターが主催ないし紹介するボランティア活動への参加については東北大学グローバル人材育成プログラム（TGL）の「スペシャルポイント」として認定される。

(3) 国内外の大学との課外・ボランティア活動における交流・連携の促進

平成28年度に、国内外の大学・高校との課外・ボランティア活動における交流・連携の促進として、以下を実施した。

【ベイラー大学生との交流】

6月21日に、アメリカのベイラー大学生9名が東北大学を訪問し、キャンパス見学・被災者による講演会に参加し、被災地で活動している東北大生と交流した。またその後、6月24日まで気仙沼市・南三陸町で被災地視察を行った。本年度から初めて東北大学の特別訪問研修生として受け入れた。

【メリーランド大学との交流】

3月21日～24日にかけてアメリカのメリーランド大学の学生数名が東北大学を訪問し、東北大学生ボランティアと交流を行った（東北大学国際交流オアシス主催、グローバルラーニングセンターと本センター共催とし、連携して受け入れた）。

【「あしながインターンシップ」のインターン生との交流】

「あしなが育英会」の依頼により、同会が海外より募集したインターン生との交流事業を実施する。7月1日～3日にかけて、インターン生20名および東北大学生6名との交流事業を仙台市等で実施した。また9月23日～25日にかけて、インターン生20名、東北大生10名とともに交流事業を石巻市等で実施した。

【神戸大学との交流】

神戸大学側の予算および兵庫ボランティアプラザからのご提案により、神戸大学生若干名が東北の被災地視察を行うプログラムを昨年度に引き続き実施し、神戸大学生2名を10月1日に行われた石巻専修大学での日本災害復興学会にお招きした。

また12月16日に神戸大学附属中等教育学校の生徒若干名が東北大学を訪問し、東北大学生ボランティアと交流した。

【学生ボランティアに関するシンポジウムと多大学合同被災地ツアーの実施】

10月1日に石巻専修大学での日本災害復興学会において学生ボランティアに関するシンポジウム「大学生の被災地での学びと貢献—学生ボランティア支援・サービスラーニング・COCプログラムの課題と可能性—」を開催し、熊本大学・福島大学・神戸大学・東北大学の4大学が報告した。またその前に「多大学合同被災地ツアー」（9月29日～30日）を実施し、複数大学で東日本大震災被災地を視察しながら相互研修を行った。東北大学の他、岩手大学と熊本大学が参加した。

【オープンキャンパス等での高校生との交流】

オープンキャンパスに参加し174名の高校生が展示を見て、大学生ボランティアと交流した。7月27日には兵庫県より神戸高校・御影高校・東灘高校・葺合高校の4校合同の訪問団（合計29名）が来校、7月28日には富山県より魚津高校生28名が来校し、それぞれ東北大学生ボランティアと交流した。なおこの内、東灘高校生とは、8月5日の熊本派遣の際に、西原村で共同でボランティア活動を行った。また3月28日～29日に静岡市立高校生10名が訪問し、本学の学生ボランティアと交流し、また石巻市の仮設住宅で活動を行った。

Ⅲ 平成 28 年度の機構全体の活動

1. 機構主催のシンポジウム・研究会・セミナー等

No.	開催日	事業名	参加者数
高等教育のリテラシー形成関連			
1	2016 4.29	「大学カリキュラムの構造と編成原理」 講師：吉田 文（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）	67
2	2016 5.23	第24回東北大学高等教育フォーラム（新時代の大学教育を考える [13]） 「大学入試における共通試験の役割 —センター試験の評価と新制度の課題—」 基調講演1「共通試験と個別試験に求められるもの—測定論の観点から—」 南風原 朝和（東京大学理事・副学長） 基調講演2「大学入試制度改革の論理に迫る—センター試験『廃止』の理由—」 倉元 直樹（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授） 現状報告1「センター試験運営の実際と課題」 大塚 雄作（大学入試センター 副所長） 現状報告2「センター試験を『受けとめて』—高校の教員として 受験者の保護者として—」 駒形 一路（静岡県立掛川西高等学校 教諭）	374
3	2016 7.7	「『しまった!!』とならないために —ICT 時代の教育で押さえておきたい法」 講師：三石 大（東北大学教育情報基盤センター 准教授） 金谷 吉成（東北大学大学院法学研究科 講師）	31
4	2016 8.9	「インストラクショナルデザインへの誘い」 講師：鈴木 克明（熊本大学大学院社会文化科学研究科 教授）	49
5	2016 8.25	「授業デザインとシラバス作成」 講師：串本 剛（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	39
6	2016 9.14	「授業づくり：準備と運営」 講師：呂本 俊亮（東北大学災害科学国際研究所 教授）	51
7	2016 10.14	「本当のかしこさとは何か —感情知性と大学教育—」 講師：箱田 裕司（京都女子大学発達教育学部 教授）	45
8	2016 11.23	「21世紀の教養と教養教育を求めて」 講演1「日本学術会議『答申 21世紀の教養と教養教育』の背景と今後」 藤田 英典（共栄大学 教授） 講演2「大学生のための社会学入門—日本学術会議参照基準を活かした授業科目編成」 篠原 清夫（三育学院大学看護学部 教授） 講演3「批判的思考と市民リテラシー」 楠見 孝（京都大学大学院教育学研究科 教授）	50
9	2016 12.23	「グローバル化する高等教育における国際化戦略・政策・実践」 講師：太田 浩（一橋大学国際教育センター教授）	42
専門教育での指導力形成関連（各専門分野）			
10	2016 7.9	研究倫理シリーズ 第4回「発表倫理を考える」 基調講演「発表倫理を考える」 山崎 茂明（愛知淑徳大学人間情報学部 教授） 発表倫理の教育1「生命科学における発表倫理」 大隅 典子（東北大学大学院医学系研究科 教授） 発表倫理の教育2「人文社会科学における発表倫理—私的経験から—」 羽田 貴史（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授） 発表倫理の教育3「言語学習から盗用を考える」 吉村 富美子（東北学院大学文学部 教授）	49

No.	開催日	事業名	参加者数
11	2016 9.2-10	専門教育指導力育成プログラム 「大学中国語教育法強化講座：中国語を教える大学教員のためのスキルアップコース（海外集中コース，1週間）」 場所：東北大学東京分室・北京語言大学	21
12	2016 9.9	専門教育指導力育成プログラム 「数理科学教育シンポジウム：市民的教養としての数理科学 —大学教育で数量的リテラシーを育てる—」 報告1「教養教育としての数理科学教育」 北原 和夫（東京理科大学大学院科学教育研究科 教授） 報告2「国民の数量的リテラシーに求められるもの—科学技術立国を支える基盤—」 桑原 輝隆（政策研究大学院大学 教授） 報告3「文理融合の新潮流を拓く—滋賀大学データサイエンス学部の挑戦—」 佐和 隆光（滋賀大学 特別招聘教授） 報告4「イノベーション人材育成に資する数学教員養成の在り方」 根上 生也（横浜国立大学大学院環境情報研究院 教授）	59
13	2016 11.11	「Classroom Management Techniques for Classes Conducted in English」 講師：Todd Enslin（東北大学高度教養教育・学生支援機構講師） Barry Kavanagh（東北大学高度教養教育・学生支援機構講師）	24
14	2016 12.9	「コーチング技能を活用した院生指導」 講演「コーチングを活用した院生指導」 出江 紳一（東北大学医工学研究科長，教授） ワークショップ 倉重 知也（株式会社イグニタス 代表取締役）	33
15	2016 12.11	専門教育指導力育成プログラム 「大学ドイツ語教授法強化講座：学習者中心のドイツ語教育のために」 ワークショップ1「自律的学習を促す練習形態・作業形態」 境 一三（慶應義塾大学経済学部 教授） 森田 昌美（神戸学院大学共通教育センター 准教授） ワークショップ2「動機づけとストラテジーの活性化を促すドイツ語授業—学習者の視点から—」 藤原 三枝子（甲南大学国際言語文化センター 教授） 太田 達也（南山大学外国語学部 教授）	28
16	2016 12.16	「Classroom English : Pronunciation」 講師：Vincent Scura（東北大学高度教養教育・学生支援機構講師）	23
17	2017 3.18	専門教育指導力育成プログラム 「大学スペイン語教授法強化講座：スペイン語教育力向上を目指して」 第1セッション「スペイン語授業におけるアクティブ・ラーニング—異文化能力育成の視点から—」 四宮 瑞枝（早稲田大学文学学術院 講師） 第2セッション「教育文化としての『スペイン語初級文法』」 小川 雅美（京都大学非常勤講師）	17
学生支援力形成関連			
18	2016 11.8	障害学生教育・支援セミナー 「高等教育機関における障害学生の学修の保証とキャリア発達支援—授業等での合理的配慮と実践をどうすすめるか—」 講演1「聴覚・視覚障害学生のイコールアクセスの理念に基づく授業環境の整備」 石原 保志、三好 茂樹、宮城 愛美、宇都野 康子（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター） 講演2「聴覚障害学生の語学授業の配慮と課題」 須藤 正彦（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター）	74

No.	開催日	事業名	参加者数
		講演3「聴覚・視覚障害学生の体育授業における配慮と工夫」 栗原 浩一（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター） 講演4「発達障害を含む精神障害のある学生への合理的配慮と相談支援のあり方について」 長友 周悟（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師） 講演5「障害学生の発達の課題と支援のあり方」 石原 保志（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター）	
19	2017 1.17	「ディスレクシア —読み書き困難—への気づきと支援」 講師：川崎 聡大（東北大学大学院教育学研究科 准教授）	34
マネジメントカ			
20	2016 4.29	「大学職員の専門性開発 —その現状と課題—」 講師：大場 淳（広島大学 准教授）	60
21	2016 6.30	「組織のパフォーマンスを向上させるリーダーシップ」 講師：藤本 雅彦（東北大学経済学研究科 教授）	22
22	2016 7.23	「若手職員のための大学職員論（6）—大学職員として学ぶ!!を考える—」 話題提供：「大学職員として学ぶ!を考える」 山内 尚子（京都産業大学教育支援研究開発センター事務室 事務長補佐） ワークショップ： 山内 尚子 川面 きよ（東北大学高度教養教育・学生支援機構 特任講師）	29
23	2016 8.7	「機関戦略と資源配分」 講師：水田 健輔（大正大学地域創生学部 教授）	33
24	2016 8.7	「研究評価の手法とマネジメント」 講師：林 隆之（大学改革支援・学位授与機構 教授）	37
25	2016 8.20 8.27 9.3 10.1 10.15 12.3	「大学職員のための『大学変革力』育成講座」 オリエンテーション ～大学変革力とは～ ワークショップⅠ ～SWOT分析をやってみよう～ ワークショップⅡ ～他大学と比較してみよう～ ワークショップⅢ ～アクションプランをたてよう～ ワークショップⅣ ～プレゼンテーションスキルを磨こう～ 企画提案会議 ～改革案を提案しよう～	26
26	2016 9.2	「大学 IR データの分析・解釈・活用」 講師：串本 剛（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授） 松河 秀哉（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	33
27	2016 11.21	IDE 大学セミナー 「地域人材育成のために大学は何ができるか —大学と地域の連携の新しい課題—」 基調講演「地域が求める人材育成と大学・高等教育機関の課題」 吉本 圭一（九州大学大学院人間環境学研究院 教授） 講演「石川の地域づくりと大学の役割～COC事業、COCプラス事業、地域連携への期待～」 高山 純一（金沢大学理工研究域環境デザイン学系 系長・教授） 講演「地域産業振興と大学」 枳原 克彦（日本商工会議所 理事） 講演「大学と地域の連携を通じた人材育成—青森型地方創成サイクル—」 吉澤 篤（弘前大学 理事） 討議「東北を担う人材育成の課題と期待」 コメンテータ 岩瀬 恵一（東北経済産業局 地域経済部長）	83

No.	開催日	事業名	参加者数
28	2016 11.24	International Seminar 「Academic Leadership: Effective Coordination among the Interests of Different Faculties」 講師：Richard James（メルボルン大学 副学長）	21
29	2016 12.7	「授業評価データの活用と組織的な教育改善」[学内限定] 「授業評価データから見る全学教育科目の傾向と課題」 串本 剛（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授） 「文学部における授業評価への取り組みとその特徴について」 阿部 宏（東北大学大学院文学研究科 教授） 「医学部における授業評価活用の取り組み」 岩崎 淳也（東北大学大学院医学系研究科 助教） 「授業評価の自由記述分析」 松河 秀哉（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	22
30	2017 2.4	「若手職員のための大学職員論（7）—先達の『一皮むけた経験』に学ぶ Vol.2— 話題提供：大坪 恭子（早稲田大学 秘書課長） 村山 孝道（京都文教大学 教務課長） ワークショップ：川面 きよ（東北大学高度教養教育・学生支援機構 特任講師）	28
正午 PD 会			
31	2016 4.22	正午 PD 会 第 26 回「授業評価アンケート分析の可能性」 講師：松河 秀哉（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	25
32	2016 5.11	正午 PD 会 第 27 回「共通教育マネジメントの現状と課題：全国調査の結果から」 講師：岡田 有司（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	18
33	2016 5.25	正午 PD 会 第 28 回「東アジアの大学入試と国際連携の可能性」 講師：田中 光晴（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	18
34	2016 6.8	正午 PD 会 第 29 回「課外・ボランティア活動支援から、人権と多様性が尊重されるキャンパス空間の創出へ」 講師：藤室 玲治（東北大学高度教養教育・学生支援機構 特任准教授）	22
35	2016 7.5	正午 PD 会 第 30 回「大学院留学生交流を考えましょう」 講師：粕壁 善隆（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	18
36	2016 7.12	正午 PD 会 第 31 回「学際融合教育の課題」 講師：山内 保典（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	20
37	2016 7.20	正午 PD 会 第 32 回「大学における学習支援の理論的基礎と課題」 講師：佐藤 智子（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	20
38	2016 10.17	正午 PD 会 第 33 回「『参加型職場環境改善』とその効果」 講師：高橋 修（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	20
39	2016 10.25	正午 PD 会 第 34 回「高等教育機関における障害学生支援の実際 ～東北大学における取り組み～」 講師：佐々木 真理（東北大学高度教養教育・学生支援機構 助手）	20
40	2016 11.22	正午 PD 会 第 35 回「大学生における歯科的問題」 講師：北 浩樹（東北大学高度教養教育・学生支援機構 助教）	11
41	2016 12.7	正午 PD 会 第 36 回「第二外国語としてのフランス語を発音する学習者の母音挿入について」 講師：ベルトラン・ソゼド（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	21

No.	開催日	事業名	参加者数
42	2017 1.18	正午 PD 会 第 37 回「ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学」 講師：中村 教博（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	19
43	2017 1.20	正午 PD 会 第 38 回「内容言語統一型学習を通じた国際的コラボレーション —留学生・日本人学生の合同授業について」 講師：バリー・カヴァナ（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	16
44	2017 2.1	正午 PD 会 第 39 回「『ドン・キホーテ』の狂気を読む」 講師：田林 洋一（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	11
健康科学セミナー			
45	2016 10.18	2016 年度第 1 回健康科学セミナー 「保健管理に関わる最近の話題」 講師：木内 喜孝（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	12
46	2016 11.22	2016 年度第 2 回健康科学セミナー 「統合失調症について」 講師：伊藤 千裕（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	14
47	2016 12.13	2016 年度第 3 回健康科学セミナー 「腎臓の役割と疾患」 講師：小川 晋（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	12
48	2017 1.17	2016 年度第 4 回健康科学セミナー 「喫煙と健康障害」 講師：北 浩樹（東北大学高度教養教育・学生支援機構 助教）	14
49	2017 2.21	2016 年度第 5 回健康科学セミナー 「心臓と血管のお話」 講師：佐藤 公雄（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	12
その他			
50	2016 7.30	公開シンポジウム「ICT を利用した英語教育支援ツールの開発とその活用方法」 「英語論文サポートツール AWSuM の開発と今後の展望」 水本 篤（関西大学外国語学部准教授） 「EFL 対面式授業とクラス外学修を統括する e ラーニングシステムの構築」 岡田 毅（東北大学大学院国際文化研究科教授） 「教育用例文コーパス SCoRE 第三次開発とデータ駆動型英語学習の実践例」 中條 清美（日本大学生産工学部教授） 「リーダビリティ式自動生成による英文リーディング用 e ラーニングソフト開発」 宮崎 佳典（静岡大学情報学部准教授）	50
51	2016 9.28	大学教育イノベーション日本（仮称）キックオフ・シンポジウム 「大学教育におけるイノベーション創出」—世界に通用する人材育成をめざして— 基調講演「これからの働き方と今後の教育のあり方」 柳川 範之（東京大学 大学院経済学研究科・経済学部 教授） 報告 1 「組織(大学) 内起業から全国展開へー日本のリーダーシップ教育の発展ー」 日向野 幹也（早稲田大学 大学総合研究センター 教授） 報告 2 「大学教職員の能力開発：広がりと深まり」 竹内 比呂也（千葉大学 学修支援担当副学長） 報告 3 「教育マネジメントと IR」 佛淵 孝夫（佐賀大学 前学長）	70

No.	開催日	事業名	参加者数
52	2017 1.18	International Symposium on Project/Problem Based Learning: 「Reality or Myth?」 Keynote speech 1 “PBL at WPI – A Historical Perspective” Prof. Kaveh Pahlavan (Worcester Polytechnic Institute, USA) Keynote speech 2 “Problem- and Project-Based Learning for Knowledge and Research Competence in ICT” Prof. Albena Mihovska (Aalborg University, Denmark) “PBL in Kanazawa Institute of Technology : KIT Project Design Program” Prof. Takao Ito (Kanazawa Institute of Technology) “Introduction of PBL Programs in Kumamoto KOSEN” Prof. Hiroyuki Odagawa (National Institute of Technology, Kumamoto College) “Pros and Cons of PBL Education: Goal of PBL Education” Prof. Shu Kato (Tohoku University)	30
53	2017 1.23	CIR セミナー 「アメリカ高等教育における IR とアカデミック・リーダーシップ」 Institutional Research and Academic Leadership in American Higher Education 講師：スーン・マーツ（米国オースティン・コミュニティカレッジ 副学長） (Soon Merz , Vice President Effectiveness & Accountability, Austin Community College)	21
54	2017 1.29	高大連携英語教育セミナー2016 「新しい日本の英語教育の方向性－英語学習は受信型から4技能の時代へ」 基調講演：「4技能試験の導入～大学のグローバル化に備えるために～」 安河内 哲也 報告1：「4技能と英語のセンスを高める授業改革～ Before & After 全てお話しします～」 西山 哲郎（東大寺学園中・高等学校 教諭） 報告2：「進学校と普通校では何が違うか？ ～意欲・学力の違いと指導方法のバリエーション～」 大槻 欣史（宮城県名取北高等学校 教諭） 報告3：「掴んで・離さず・その気にさせる ICT 活用法」 唐澤 博（浦和実業学園高校 教諭） 報告4：「大学に期待する英語教育－東北大学での実践事例」 橘 由加（東北大学 言語・文化教育センター 教授） Richard Meres（東北大学 言語・文化教育センター 講師） 報告5：「工学部における TOEFL ITP スコアアップを通じた英語運用能力の向上」 安藤 晃（東北大学 高度教養教育・学生支援機構副機構長、言語・文化教育センター長）	136
55	2017 2.15	CLS セミナー 「自立した書き手」を育てる文章チュータリング ー気づきを促す質問をしようー 講師：太田 裕子（早稲田大学グローバルエデュケーションセンター 准教授）	33

2. 刊行物一覧

発行年月	発行	刊行物名
2016.3	高度教養教育・学生支援機構	東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 第2号 2016
2016.5	高度教養教育・学生支援機構	高等教育ライブラリ 10 「高大接続改革にどう向き合うか」
2016.7	高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 67 「体育を通してみる人間教育セミナー」報告書
2016.11	高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 68 第24回東北大学高等教育フォーラム／新時代の大学教育を考える [13]報告書 大学入試における共通試験の役割ーセンター試験の評価と新制度の課題ー
2017.2	学務審議会 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 69 「第10回東北大学基礎ゼミFD・ワークショップ」報告書
2017.2	IDE 大学協会東北支部 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 70 平成28年度 IDE 東北支部 IDE 大学セミナー／第25回東北大学高等教育フォーラム 報告書 平成28年度 IDE 大学セミナー「地域人材育成のために大学は何ができるかー大学と地域の連携の新しい課題ー」
2017.2	高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 71 東北大学大学中国語教授法強化講座 2016年度実施報告書
2017.3	学務審議会 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 72 「第11回東北大学全学教育FD」報告書
2017.3	高度教養教育・学生支援機構	高等教育ライブラリ 11 「大学入試における共通試験」
2017.3	高度教養教育・学生支援機構	高等教育ライブラリ 12 「責任ある研究のための発表倫理を考える」
2017.3	高度教養教育・学生支援機構	PD ブックレット Vol.8 「授業参観のすすめ」

3. 教員の活動（平成28年4月～平成29年3月の主な活動）

所 属	職 名	氏 名	掲載ページ
機構長	東北大学理事	花 輪 公 雄	-
副機構長	教 授	関 根 勉	47
副機構長	工学研究科教授	安 藤 晃	-
副機構長の補佐	特任教授	関 内 隆	47
教育評価分析 センター (Center for Institutional Research)	センター長/教授	杉 本 和 弘	48
	副センター長/准教授	串 本 剛	49
	講 師	松 河 秀 哉	49
	特任講師	川 面 きよ	50
大学教育支援 センター (Center for Professional Development)	センター長/教授	羽 田 貴 史	50
	副センター長/教授	大 森 不 二 雄	51
	教 授	杉 本 和 弘 (兼)	(48)
	准教授	岡 田 有 司	52
	講 師	今 野 文 子	52
入試センター (Admission Center)	センター長/国際文化研究科教授	鈴 木 道 男	-
	副センター長/教授	石 井 光 夫	53
	教 授	倉 元 直 樹	54
	特任教授	石 上 正 敏	55
	特任教授	庄 司 強	55
	特任教授	樫 田 豪 利	55
	准教授	宮 本 友 弘	55
	講 師	田 中 光 晴	56
言語・文化教育 センター (Center for Culture and Language Education)	センター長/副機構長/工学研究科教授	安 藤 晃	-
	副センター長/教授	吉 本 啓	56
	教 授	北 原 良 夫	57
	教 授	上 原 聡	58
	教 授	佐 藤 勢 紀 子	58
	教 授	橘 由 加	59
	准教授	カン・ミンギョン (Minkyong KANG)	59
	准教授	田 林 洋 一	60
	准教授	菅 谷 奈 津 恵	60
	准教授	副 島 健 作	61
	准教授	中 村 渉	61
	講 師	ダニエル・アイコースト (Daniel EICHHORST)	62
	講 師	トッド・エンズレン (Todd ENSLEN)	63
	講 師	ベン・シャーロン (Ben SHEARON)	64
	講 師	ビンセント・スクラ (Vincent SCURA)	65
	講 師	ジョセフ・スタヴォイ (Joseph STAVOY)	65
	講 師	ライアン・スプリング (Ryan SPRING)	66
	講 師	リチャード・メレス (Richard MERES)	66
	講 師	バリー・カヴァナ (Barry KAVANAGH)	68
	講 師	三 上 傑	69
	講 師	ベルント・シャハト (Bernd SCHACHT)	70
	講 師	遠 藤 スサンネ (Susanne ENDO)	70
	講 師	ベルトラン・ソゼド (Bertrand SAUZEDDE)	70
講 師	セシリア・シルバ (Cecilia SILVA)	71	
講 師	張 立 波 (チョウ・リツハ)	72	
講 師	趙 秀 敏 (チョウ・シュウミン)	72	
講 師	金 鉉 哲 (キム・ヒョンチョル)	73	
講 師	林 雅 子	73	

所 属	職 名	氏 名	掲載ページ
グローバルラーニング センター (Global Learning Center)	センター長/理学研究科教授	山 口 昌 弘	-
	副センター長/教授	粕 壁 善 隆	74
	副センター長/教授	末 松 和 子	75
	教 授	フランク・ハンセン (Frank HANSEN)	76
	教 授	渡 邊 由美子	77
	准教授	高 橋 美 能	77
	准教授	富 田 真 紀	78
	准教授	島 田 和 久	78
	准教授	ノルボシン・ザンペイソフ (Nurbosyn ZHANPEISOV)	78
	准教授	イゴール・トルシン (Igor TRUSHIN)	79
	准教授	マルタン・ロベール (Martin ROBERT)	79
	特任准教授	田 口 香 織	81
	特任准教授	坂 本 友 香	81
	講 師	島 崎 薫	81
特任助教	水 松 巳 奈	82	
学際融合教育推進 センター (Center for Interdisciplinary Studies and Education)	センター長/教授	中 村 教 博	83
	副センター長/教授	芳 賀 満	84
	総長特命教授	工 藤 昭 彦	85
	総長特命教授	野 家 啓 一	85
	総長特命教授	吉 野 博	86
	総長特命教授	座小田 豊	86
	総長特命教授/医工学研究科特任教授	山 口 隆 美	-
	総長特命教授	宮 岡 礼 子	87
	総長特命教授	米 倉 等	87
	副機構長/教授	関 根 勉	(47)
	教 授	羽 田 貴 史 (兼)	(50)
	准教授	葛 生 政 則	88
	准教授	田 嶋 玄 一	88
	准教授	藤 本 敏 彦	88
	准教授	中 川 学	89
	准教授	山 内 保 典	90
	助 教	高 橋 禎 雄	90
	助 教	太 田 宏	90
	助 教	岡 壽 崇	91
	助 教	小 俣 乾 二	92
助 教	永 尾 翔	92	
助 教	高 柳 栄 子	92	
助 教	伊 藤 弘 毅	93	
助 教	大 下 慶 次 郎	93	
学習支援センター (Center for Learning Support)	センター長/副機構長/教授	関 根 勉	(47)
	副センター長/准教授	中 川 学	(89)
	副センター長/准教授	佐 藤 智 子	93
	助 教	小 俣 乾 二 (兼)	(92)
	助 手	足 立 佳 菜	93
キャリア支援センター (Center for Career Support)	センター長/教授	羽 田 貴 史	(50)
	副センター長/理学研究科教授	松 澤 暢	-
	副センター長/准教授	猪 股 歳 之	94
	特任教授	田 中 泰 光	94
	准教授	高 橋 修	95
特任准教授	富 田 京 子	95	

所 属	職 名	氏 名	掲載ページ
学生相談・特別支援センター (Center for Counseling and Disability Services)	センター長/歯学研究科教授	菅原 俊二	-
	副センター長/副機構長/工学研究科教授	安藤 晃	-
	副センター長/教授	池田 忠義	96
	特任教授	吉武 清實	97
	准教授	中島 正雄	97
	講 師	小島 奈々恵	97
	講 師	中岡 千幸	98
	助 手	佐藤 静香	98
	助 教	松川 春樹	99
	講 師	長友 周悟	99
	特任講師	榑原 佐和子	100
助 手	佐々木 真理	100	
保健管理センター (Student Health Care Center)	センター長/教授	木内 喜孝	100
	副センター長/教授	伊藤 千裕	101
	准教授	小川 晋	101
	准教授	佐藤 公雄	102
	助 教	石田 晶玄	103
	助 教	嘉数 英二	103
	助 教	北 浩樹	103
	助 教	玉井 ときわ	103
	助 教	原 康之	103
助 教	山本 沙織	104	
課外・ボランティア活動支援センター (Center for Service Learning and Extracurricular Activities)	センター長/経済学研究科教授	小田中 直樹	-
	副センター長/医工学研究科教授	永富 良一	-
	特任准教授	藤室 玲治	104
	特任助教	江口 怜	105

関根 勉 教授

〔専門分野〕 放射化学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育：自然科学総合実験（代表）、文科系のための自然科学総合実験、化学B（工2、医歯1）、大学院教育：先端理化学特論（理学研究科化学専攻）

学位論文指導・審査：博士1名（副査）／修士6名（主査1名、副査5名）

教育支援活動：“自然科学総合実験2017”（分担執筆）

留学生等受け入れ：学振特別研究員1名（DC1）

その他：1) 医学部保健学科FD（平成28年度）特別講演「学生の文章力を高めるための取り組み」、2) 指導学生の受賞：①優秀発表賞（日本放射線影響学会第59回大会、2016年10月）（DC1）、②若手優秀講演賞（第53回アイソトープ・放射線化学研究発表会、2016年7月）（MC1）

〔研究活動〕

研究業績：1) 90Sr in teeth of cattle abandoned in evacuation zone: Record of pollution from the Fukushima-Daiichi Nuclear Power Plant accident, Scientific Reports, 6, 24077 (2016). 2) Software development for estimating the concentration of radioactive cesium in the skeletal muscles of cattle from blood samples, Animal Science Journal, 87, Issue 6, June 2016 pp. 842-847. 3) Analysis of plasma protein concentrations and enzyme activities in cattle within the ex-evacuation zone of the Fukushima Daiichi Nuclear Plant accident, PLOS ONE 11(2016) e0155069 (13 pp). 4) 野生日本ザルにおける福島原発事故由来放射性物質の影響評価、無菌生物、46, 19-21(2016).

外部資金：1) 基盤研究(A)「科学の多様な不定性と意思決定：当事者性から考えるトランスサイエンス」（分担）、2) 挑戦的萌芽研究「バイオフィームによる放射性セシウムの生体除染」（分担）、3) [環境省：放射線の健康影響に係る調査]乳歯を用いた福島県在住小児の被曝線量評価（分担）

〔大学運営〕

大学運営：副機構長、教育研究評議員、学習支援センター長

全学委員会：1) 学務審議会副委員長 2) 学務審議会教務委員会委員 3) 学務審議会基幹科目委員会委員長 4) 実験科目委員会委員 5) 同 実施委員会委員長 6) 同 計画委員会委員 7) サイクロトロン RI センター 予算委員会委員 8) 同 課題採択委員会委員 9) 運輸交通専門委員会委員

部局内委員会：1) 総務委員会委員長 2) 施設整備委員会委員

〔業務活動〕

学生支援業務：1) 自然科学総合実験における連携支援（自然科学教育開発室、学習支援センター、特別学生支援センター、工学教育院、教育学生支援部）、2) 学習支援センターにおける連携支援（特別学生支援センター、工学教育院等）

機構業務：機構運営（補佐会議、総務委員会、ワーキンググループ（施設整備、予算編成、業績評価））

センター業務：学習支援センター運営業務（定例会議、人事運営など）

室業務：自然科学教育開発室運営（定例ミーティング、学生実験棟及び理科実験のための維持管理等）、理系・文系向けの自然科学総合実験の実施・運営

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 宮城県女川原子力発電所環境調査測定技術会委員 2) 女川原子力発電所2号機の安全性に関する検討会構成員 3) 宮城県環境放射能監視検討委員会委員 4) 東京学芸大学「教員養成大学の特徴を活かした高度原子力教育カリキュラムの開発事業」諮問委員会委員

社会教育活動：1) 出前授業 サイエンス・コラボ（仙台育英高校） 2) 教師のための化学教育講座（第39回）招待講演 3) RI 技術講習会（第2回）「加速器による短寿命 RI の生成とその取り扱い」講師

関内 隆 特任教授

〔専門分野〕 西洋史 経済史 高等教育

〔教育活動〕

授業担当：全学教育科目の「転換少人数科目・基礎ゼミ」を授業題目『東日本大震災から復興へ—感じ、考え、議論する—』として、また「基幹科目・人間と文化」を授業題目『【展開ゼミ】自らの眼で確かめ、議論し、発表しよう—「復興」を学際的に考えよう—』（代表者）として担当した。

教育支援活動：大学教育支援センターが実施する PFFP、NFP 等の大学院生や新任教員の教育支援活動において「先達教員」として、模擬授業へのアドバイス等の教育活動支援業務を行った。

〔研究活動〕

1) (報告：分担執筆)「被災地の復興を考える学際的アクティブ・ラーニングの開発研究」,(東北大学学務審議会/高度教養教育・学生支援機構,平成29年3月,74-79ページ), 2) (編集協力)今野文子編著『授業参観のすすめ』,(東北大学高度教養教育・学生

支援機構, PD ブックレット 8, 平成 29 年 3 月, 16-22 ページ), 3) 学務審議会が所掌する高度教養教育開発推進事業に応募採択された「被災地の復興を考える学際的アクティブ・ラーニングの開発研究」の代表者として活動した。

〔大学運営〕

大学運営: 総長特別補佐(評価担当)および評価分析室副室長として、第 2 期中期目標期間評価結果への対応作業を担い、部局評価に関わる業務では、評価分析室員の評価作業を全体的に取りまとめる任務を行った。

部局内委員会: 副機構長補佐として、本機構の運営に関して次のような支援活動の業務を行った。原則毎日、副機構長と打ち合わせを行い、機構全体の運営が円滑に進展するよう機構内の状況を点検しつつ意見交換を行った。また、機構長補佐会議、事務連絡会議、総務委員会、出版・図書・資料委員会などの諸会議に参加した。教務関係の取りまとめ役として、機構教員による全学教育授業科目の担当数など、教員の授業コマ数(外国語科目を除く)の管理を副機構長と協力しつつ実施した。さらに、『機構教養教育推進ワーキンググループ』のヘッドとして WG を開催し(第 1~11 回)、高度教養教育科目構築と全学教育カリキュラムの改革に向けた提案を取りまとめるための検討作業を行った。

各種支援活動: 機構教養教育推進ワーキンググループにおいて、年度末には平成 29 年度版の機構が推薦する全学教育科目「学びの転換科目パッケージ」のパンフレットを作成し、初年次学生の履修選択等の支援活動充実化を図った。また、『IEHE 教育開発セミナー』を企画開催し(第 1~4 回)、機構内の業務センターの活動状況と取り組んでいる課題等をめぐって意見交換を行い、機構全体のミッションを共有化を図る取組を推進した。

〔業務活動〕

センター業務: 教育評価分析センターの活動をより一層推進するために、毎週開催されるセンター教員会議に出席し、センターの業務計画に関する意見交換に参加した。また、全学的な視点から他部局や各種委員会との連携を進めるための情報交換を行い、センターの業務充実化に向けた支援を行った。

〔社会貢献〕

各種委員等: 公益財団法人大学基準協会の大学基準委員会委員、大学評価委員会委員。岩手県地方行政評価委員会専門委員。東北学院大学外部評価委員会委員。

学会活動: 社会経済史学会評議員、東北史学会理事、岩手史学会評議員

杉本 和弘 教授

〔専門分野〕 比較教育学, 高等教育論

〔教育活動〕

授業担当: 1) 全学教育基礎ゼミ「多文化共生社会へのアプローチを探る」担当(受講者数 10 名), 2) 全学教育展開科目(社会学)「現代大学論」担当(受講者数 25 名),

〔研究活動〕

研究業績: 1) (分担執筆)「大学評価の体系化」(東信堂, 2016 年 10 月 20 日, 第 3 部第 5 章第 3 節, 248-255 頁), 2) (単著)「高等教育を担うアカデミック・リーダーの育成—東北大学の挑戦」(大学時報, No.369, 76-81 頁), 3) (共著)「高等教育のイノベーションを担う次世代大学教育人材の育成—東北大学履修証明プログラムの開発と成果—」(京都大学高等教育研究, 22 巻, 31-41 頁), 4) 「高等教育機関におけるミドルマネジメント人材の特性と能力育成に向けての課題」(日本高等教育学会第 19 回大会, 共同発表, 2016 年 6 月 25 日)

招待講演: 1) 「効果的な大学ガバナンスを実現するためのアカデミック・リーダーの能力開発」(東北大学「中日俄大学治理与発展」国際会議, 2016 年 11 月 28 日, 中国・瀋陽), 2) 'The Development of NQFs in the Asia-Pacific Region: A Challenge for Japan' (TVET Qualifications Approaches in Tertiary Education in Asia, 2017 年 1 月 26 日, 福岡), 3) 「豪州高等教育における教職員の能力開発と組織開発」(第 1 回大学教育イノベーションフォーラム, 2017 年 3 月 9 日, 東京)

外部資金: 1) 基盤研究(B)「大学教育の内部質保証を担うミドルマネジメント人材の専門性開発に関する国際比較研究」(代表), 2014~16 年, 2) 基盤研究(A)「グローバル社会におけるコンピテンシーを育成する高度教養教育カリキュラムの開発研究」(分担), 2014~17 年, 3) 基盤研究(B)「大学の教学マネジメントにおける教育情報の実践的活用及び公表のシステムに関する研究」(分担), 2014~16 年, 4) 基盤研究(B)「外国人大学教員の採用に関する国際比較研究」(分担), 2015~18 年, 5) 基盤研究(B)「教養教育の導入・改革と高等教育システムの変容—日・英・豪・中・香港の比較」(分担), 2016~19 年

〔大学運営〕

全学委員会: 1) 学務審議会委員, 2) 同教育情報・評価改善委員会委員, 3) グローバル人材育成推進事業実施委員会委員, 4) 評価分析室員

部局内委員会: 1) 教育評価分析センター長, 2) 総務委員会委員, 3) 人事委員会委員

〔業務活動〕

機構業務: 教養教育推進 WG における議論や広報(「転換科目パッケージ」パンフレット作成等)を推進

センター業務: 1) 教育評価分析センター長として、「第 3 回 東北大学の教育と学修成果に関する調査」の実施, CIR Insights 等による学習・教育データの分析・広報を推進, 2) 大学教育支援センターにおいて、履修証明プログラム「アカデミック・リーダー

育成プログラム (LAD)」の開発・提供, 大学職員能力開発プログラム (SDP) の開発・提供, 各種 PD プログラムの企画・提供を担当

〔社会貢献〕

学会活動: オセアニア教育学会理事・編集委員, 日本高等教育学会編集委員, 日本比較教育学会編集委員, 大学教育学会国際委員

国際交流活動: 国際シンポジウム「高等教育における戦略的データ活用とリーダーシップ」(2017.1.20 開催) の企画・運営

社会教育活動: 平成 28 年度 第 3 回宮崎大学 FD/SD 研修会講師

串本 剛 准教授

〔専門分野〕 高等教育論

〔教育活動〕

授業担当: 基礎ゼミ「社会調査入門」, 人間と文化「大学教育論」, カレント「文章による議論の方法」, カレント「大学生のレポート作成入門」(オムニバス)

教育支援活動: レポート WG の一員として『東北大学レポート指南書』を分担執筆

〔研究活動〕

研究業績: 1) 単著「学士課程教育における形成的評価と学修成果の関係: 国立研究総合大学を事例とした分析」『大学教育学会誌』第 38 巻第 1 号 137-143 頁, 2) 共著「東北大学全学教育におけるレポート作成指導: 講義担当教員を対象とした面接調査の知見」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第 2 号 233-242 頁, 3) 単著「卒業研究の研究: 割当単位数に注目して」『大学教育学会第 38 回大会』立命館大学(茨木市、6 月 12 日)

外部資金: 科学研究費補助金(基盤 A)「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」2014~2017 年度(3,000 万円、分担)

〔大学運営〕

全学委員会: 1) 学務審議会委員, 2) 同教務委員, 3) 同教育情報・評価改善委員, 4) 基礎ゼミ委員, 5) 基幹科目委員, 6) 評価分析室員, 7) 附属図書館学習支援委員会委員

部局内委員会: 1) 教育評価分析センター副センター長, 2) 図書・出版・資料委員会委員, 3) 教養教育改革 WG メンバー, 4) 広報活動に関する WG 座長

各種支援活動: 「授業デザインとシラバス作成」教育関係共同利用拠点提供プログラム『PDP/PFFP/NFP』東北大学(仙台市、8 月 25 日) 講師

〔業務活動〕

センター業務: 串本剛(2016)「授業時間外学修の認識と想定: 45 時間学習を前提とした授業設計」東北大学学務審議会/高度教養教育・学生支援機構 教育評価分析センター編『第 1 回東北大学教員の教育活動に関する調査報告書』12-19 頁を執筆, 「授業時間外学修の認識と想定: 45 時間学習を前提とした授業設計」『東北大学教育調査研究会(第 2 回)』東北大学(仙台市、7 月 4 日) 講師, 「大学 IR データの分析・解釈・活用」『CIR ワークショップ』東北大学(仙台市、9 月 2 日) 講師, 「授業評価データから見る全学教育科目の傾向と課題」CIR セミナー『授業評価データの活用と組織的な教育改善』東北大学(仙台市、12 月 7 日) 講師, 「第 3 回 東北大学の教育と学修成果に関する調査」を企画

〔社会貢献〕

各種委員: 国立教育政策研究所「学生の成長を支える教育学習環境に関する調査研究」委員

学会活動: 大学教育学会編集幹事

その他: 「単位の実質化に向けた取り組みについて」『大学基準協会 2016 年度短期大学シンポジウム』大学基準協会(新宿区、4 月 15 日) 講師, 「授業デザインとシラバス作成」岩手県立大学看護学部主催 FD 研修会、岩手県立大学(滝沢市、11 月 9 日) 講師

松河 秀哉 講師

〔専門分野〕 教育工学

〔教育活動〕

授業担当: 基幹科目 人間と文化(情報社会と教育)(前期、後期), 基礎ゼミ(大学で学ぶ意味を考える)(前期), 展開ゼミ(テクノロジー社会で学ぶ意味を考える)(後期)

〔研究活動〕

研究業績: 1) (共著) A Computer-Supported Collaborative Learning Design for Quality Interaction, IEEE Multimedia, 23, 48-59. doi:10.1109/MMUL.2015.95, 2) (共著) What kind of anxiety do parents have during raising children, 17th PECERA(Pacific Early Childhood Education Research Association) ANNUAL CONFERENCE, Bangkok, Thailand, p.187, 2016.7.7

外部資金: (科研費)(基盤研究(B))(代表)「ビッグデータを用いた子育て不安の分析と保護者の支援に関する研究」平成 26-29 年

〔大学運営〕

部局内委員会: 1) 機構教養教育開発 WG

〔業務活動〕

機構業務：機構教養教育開発 WG 委員としてアンケートの分析・結果の報告を行った。

センター業務：教育調査研究会で、教員調査の分析結果に関して発表 質疑を行った。第 2 回基幹科目担当教員会議において、過去の授業評価アンケートの自由記述を自動分類した結果について情報提供を行った。

〔社会貢献〕

学会活動：日本教育工学会大会企画委員，日本教育工学会大会実行委員，日本教育工学会特集号編集委員，日本乳幼児教育学会広報・企画委員，高等教育学会大会実行委員会事務局員

川面 きよ 特任講師

〔専門分野〕 高等教育における組織開発・職能開発

〔研究活動〕

研究業績：1) 単著、学習支援担当者の実践知をつなぐ・関西ラーニングコモンズ担当者ネットワークの試み・[東北大学高度教養教育・学生支援機構 紀要第 3 号 2017,(2017),213-220]，2) 共著、大学職員を対象とした変革力育成プログラムの開発.[東北大学高度教養教育・学生支援機構 紀要 第 3 号 2017,(2017),345-354]

〔業務活動〕

センター業務：教育評価分析センターの業務として主に以下の業務に従事

- ・第 1 回東北大学教員の教育活動に関する調査の報告書作成
- ・第 3 回東北大学の教育と学修成果に関する調査の企画・実施
- ・季刊広報誌「IR Insights」企画・発行
- ・CIR データベースの開発
- ・CIR ウェブサイト改修作業
- ・CIR 関連経費の予算管理

高等教育開発部門業務：教育関係共同利用拠点における SD 事業

- ・「若手職員のための大学職員論」7 月および 2 月の企画、運営、講師
- ・「大学職員のための『大学変革力』育成講座」の企画、運営

〔社会貢献〕

学会活動：日本高等教育学会第 20 回大会実行委員会委員，日本教育工学会第回企画委員会委員

その他：関西の大学における学習支援担当者が実践知を共有し、交流するための場（関西ラーニングコモンズ担当者ネットワーク）の定期的なミーティング実施（計 3 回）をコーディネート

羽田 貴史 教授

〔専門分野〕 高等教育論

〔教育活動〕

1) 東北大学新任教員研修「大学教員の役割とキャリアステージ」2016 年 4 月 13 日（東北大学）. 2) 東北大学大学院歯学研究科「医の倫理・社会の倫理 第 4 回講義 学術研究の倫理」2016 年 5 月 12 日（東北大学）. 3) 信州大学研究者倫理特別講義「研究不正・防止方策に関するケーススタディ」2016 年 7 月 1 日（信州大学）. 4) 八戸工業大学 研究倫理講演会「大学で研究倫理体制をどう構築するかー東北大学の取り組みと課題ー」2016 年 8 月 10 日（八戸工業大学）. 5) 石巻専修大学 研究倫理講演会「公正な研究活動推進に関する東北大学の取り組みと課題」2016 年 10 月 6 日（石巻専修大学）.

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著)「目指すべき機能の分化・強化と大学の適正な規模・範囲・形態を考える」、『高等教育叢書 133 大学の統合・連携とガバナンス～地域分散，適正規模，機能分化の在り方を巡って～』広島大学高等教育研究開発センター，2016. p.1-12.

2) (単著)「研究倫理推進の制度化の課題」，「人文・社会科学における研究倫理の課題」，『責任ある研究のための発表倫理を考える』東北大学出版会，2017. P.3-22, p.65-84.

講演：1) 日本高等教育学会第 19 回大会 課題研究 2 大学の教育マネジメントとガバナンス「高等教育における組織・ガバナンス・マネジメント・リーダーシップ」2016 年 6 月 25 日（追手門学院大学）. 2) 国立大学協会大学マネジメントセミナー 教育研究組織の改革～社会的要請と大学改革～「大学の組織改革はどのようにおこなわれるべきか：複雑化した大学組織の戦略を探る」2016 年 9 月 16 日（学術総合センター）.

外部資金：(科研費)「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」(基盤研究 (A) 2014～2017)

〔大学運営〕

大学運営：総長特別補佐（研究倫理担当）及び公正な研究活動推進委員会副委員長，同専門委員会委員長

全学委員会：学術資源研究公開センター運営専門委員会史料館部会委員

部局内委員会：機構長補佐会議メンバー，大学教育支援センター長，キャリア支援センター長，出版・図書・資料委員会委員長

【業務活動】

大学教育支援センター長として、教育関係共同利用拠点事業を推進した。

【社会貢献】

学会活動：1) 日本高等教育学会理事，2) 大学教育学会理事，同常務理事

社会教育活動：1) 文部科学省 研究活動における不正行為への対応等に関する説明会講演「公正な研究活動推進に関する東北大学の取り組み」2016年7月4日（東京大学），2) 東北大学高度教養教育・学生支援機構 PD セミナー「発表倫理を考える 研究倫理シリーズ No.4 人文・社会科学系の発表倫理を考えるー私的経験からー」2016年7月8日（東北大学），3) 公立大学協会 公立大学創生フォーラム講演「大学の教職員能力開発の課題ー東北大学教育関係共同利用拠点事業の目指すものー」2016年11月10日（国立オリンピック記念青少年総合センター）。

大森 不二雄 教授

【専門分野】教育社会学、教育政策、高等教育

【教育活動】

授業担当：

1) 全学教育・基礎ゼミ・「あなたは大学で何を何のために学ぶのか？」（授業題目）

本学着任初年度の新たな授業科目として開発・実施した。

文献講読等の予習を課すことにより、顕著に長い授業外学習時間を実現できた。

このこととも関係して、学習成果として受講生が獲得したとする知識・技能の評価も高くなった。

2) 全学教育・基幹科目・「社会の構造」（科目名）・「社会人になるための社会分析」（授業題目）

本学着任初年度の新たな授業科目として開発・実施した。

教材（論文等）を読んで短文を提出する予習を課した上で、ディスカッションや質疑応答を含む双方向・参加型の授業を行い、授業後には復習として学習成果を振り返り言葉化することを求める、能動的学習（アクティブ・ラーニング）を設計・実践した。予習・復習ではISTUを活用した。こうした授業方法により、顕著に長い授業外学習時間を確保するとともに、意欲的な取組（エンゲージメント）を得ることができた。

その他：熊本大学大学院社会文化科学研究科客員教授として、同研究科教授システム学専攻の公開学位審査会等において、博士前期課程及び後期課程の学生に対する指導等並びに専任教員に対する助言等を行った。

【研究活動】

研究業績：1) 図書（共著）「大学の国際化対応」生和秀敏編『大学評価の体系化』東信堂，62-81頁（第2章第2節），2016，2) 図書（共著）「内部質保証の効果的運用のための道標」早田幸政・工藤潤編『内部質保証システムと認証評価の新段階』エイデル研究所，90-110頁，2017，3) 論文（共著）「教育の『質保証』を学生の『学習』に連結させるための課題ー大学の内部質保証観と学生の学習観への合理的選択理論からのアプローチー」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第3号，75-88頁。【査読あり】

招待講演・基調講演：1) 招待講演「英国高等教育における教職員の能力開発と組織開発」第1回大学教育イノベーションフォーラム（SD義務化と大学の未来），2017年3月9日（於：東京国際交流館），2) 基調講演「大学教育の質保証は学習成果につながっているか」東日本国際大学APキックオフ・シンポジウム，2017年1月11日（於：東日本国際大学）

外部研究資金：1) 科研費・挑戦的萌芽研究「博士課程出身の大学非正規職員に関する探索的研究：高学歴ワーキングプアか新専門職か」（平成28年度～平成30年度）研究代表者，2) 科研費・基盤研究（B）「高等教育機関におけるFD・SDを目的としたOR支援型IRシステムの開発」（平成26年度～平成28年度）研究分担者，3) 広島大学高等教育研究開発センター国際共同研究推進事業 B. 共同研究（プロジェクト申請型）「大学の『内部質保証』観と学生の『学習』観の乖離とその克服ー教育の生産性を高める教学マネジメントの条件ー」（平成28年度）研究代表者

【大学運営】

全学委員会：学務審議会委員、同審議会教育情報・評価改善委員会委員、高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員等として、本学の教育に関する管理運営に参画した。

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センター副センター長を務め、センター長の下で教育関係共同利用拠点事業の運営に当たった。高度教養教育・学生支援機構教養教育推進ワーキンググループのメンバーとして、本学の全学教育カリキュラムの見直し、高度教養教育科目の開発及び新カリキュラム構造の構想等の検討、並びに、「学びの転換科目パッケージ」のコンセプトづくり及びパンフレット作成に貢献した。

【業務活動】

機構業務及びセンター業務：高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センター副センター長、同センター共同利用運営委員会委員等として、教育関係共同利用拠点事業の推進等を通じ、大学教員・職員の職能開発等に貢献した。企画・運営に参画した教育関係共同利用拠点提供プログラムは、25に上った。

部門業務：高度教養教育・学生支援機構高等教育開発部門高等教育開発室の一員として、高等教育に関する研究成果から得られた知見を基に、所属委員会等における審議・検討を通じ、全学教育など大学教育の改善・改革に貢献した。

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 独立行政法人日本学術振興会 平成 28 年度大学教育再生加速プログラム(A P)委員会専門委員, 2) 公益財団法人国連大学協力会助成諮問委員, 3) 日本私立大学協会附置私学高等教育研究所研究員, 4) 大阪市特別顧問: 学校の自律性に必要な人事・予算権限を担う校長の方針の下で教職員のチームワークによって学力向上等の課題に取り組む「スーパーリーダーシップ特例校」(仮称) を構想・提案し、市の方針として決定されるなど、大阪市総合教育会議における施策の検討・企画に貢献した。

学会活動：大学教育学会代議員, 国際教育学会副会長, 高等教育質保証学会評議員

国際交流活動：英国への 2 度の渡航において、次の研究者と面談し、研究交流を行った。

・ Professor Robin Middlehurst, Professor of Higher Education, Kingston University

・ Professor Simon Marginson and Dr Celia Whitechurch, UCL Institute of Education, University College London

社会教育活動：1) 平成 28 年度 I D E 大学セミナー／第 25 回東北大学高等教育フォーラム (2016 年 11 月 21 日、於：仙台ガーデンパレス)：討議「東北を担う人材育成の課題と期待」の司会, 2) 数理科学教育シンポジウム「市民的教養としての数理科学」(2016 年 9 月 9 日、於：TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター)：主催者として企画・運営, 3) 「大学教育イノベーション日本」キックオフ・シンポジウム (2016 年 9 月 28 日、於：TKP ガーデンシティ永田町)：主催者として企画・運営およびディスカッションの司会, 4) 第 1 回大学教育イノベーションフォーラム「SD 義務化と大学の未来」(2017 年 3 月 9 日・10 日、於：東京国際交流館)：主催者として企画・運営および趣旨説明

岡田 有司 准教授

〔専門分野〕 教育心理学・発達心理学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「コミュニケーションスキルとインタビュー調査」(基礎ゼミ), 全学教育「人間と文化(現代青年と心理)」(基幹科目), 全学教育「人間と文化(【展開ゼミ】批判的思考と学会活動)」(基幹科目), 人間科学部専門教育「ゼミⅣ」(高千穂大学人間科学部：兼任講師), 大学院教育「学校カウンセリング特論」(鳥取大学地域学研究科：非常勤講師)

学位論文指導・審査：学士 2 名(前任校の高千穂大学のゼミを兼任講師として担当し指導した)

教科書：『レクチャー青年心理学』2017, (分担執筆)

〔研究活動〕

研究業績：1) (分担執筆)「学校の中の青年『レクチャー 青年心理学』」, (風間書房, 2017 年 3 月, 第 10 章, pp147-163), 2) (共著) Achieving the Evidence-based Improvement and Transparency in Higher Education: Current Status and Challenges on Data Utilization and Disclosure in Japan. Higher Education Forum 14. pp35-49, 3) (共著) 教育の「質保証」を学生の「学習」に連結させるための課題—大学の内部質保証観と学生の学習観への合理的選択理論からのアプローチ 東北大学高度教養教育・学生支援機構 3. pp75-88

受賞：会長特別賞, 大学教育学会, 2016 年 3 月

シンポジウム提題者：1) 「教育情報マネジメントシステムに関する国内調査結果報告」, 国際シンポジウム高等教育における戦略的データ活用とリーダーシップ, 2017 年 1 月, 2) 「小中一貫化が児童生徒の適応に及ぼす影響」, 日本教育心理学会第 58 回総会, 2016 年 10 月

外部資金：1) 科研費：基盤研究 (B) 「大学の教学マネジメントにおける教育情報の実践的活用及び公表のシステムに関する研究」(分担), 2) 科研費：基盤研究 (B) 「小中一貫校の総合的な研究」(分担), 3) 平成 28 年度広島大学高等教育研究開発センター国際共同研究推進事業「大学の「内部質保証」観と学生の「学習」観の乖離とその克服」(分担)

〔大学運営〕

部局内委員会：1) 高度教養教育・学生支援機構教養教育推進 WG

〔業務活動〕

センター業務：大学教育支援センターにおける大学教員準備プログラム, 新任教員プログラムの運営・実施を担当した。その他, 大学教員の能力開発のためのセミナーの運営, 大学教育イノベーション日本のシンポジウムの運営等も行った。

〔社会貢献〕

学会活動：1) 日本発達心理学会学会誌編集委員, 国内研究交流委員, 2) パーソナリティ心理学会学会誌常任編集委員, 3) 大学教育学会学会誌編集委員

今野 文子 講師

〔専門分野〕 教育工学, 教師教育, インストラクショナル・デザイン, ICT 活用教育

〔教育活動〕

授業担当：

①全学教育 基礎ゼミ「映像作成を通して情報発信力を鍛えよう (前期開講・2 単位)」当該授業の受講学生は基礎ゼミ成果発表会にて学生審査員賞を受賞

②大学院教育 教育情報学教育部 自由聴講科目「リフレクションの理論と実践（後期開講・2単位）」

③大学院教育 教育情報学教育部 「研究方法入門セミナー（オムニバス形式）」1コマ担当

④多摩大学学部教育 「教育方法（前期集中講義・2単位）」授業評価アンケートでは教員に対する評価において全ての受講生から満点を獲得

教育支援活動：「国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点」として、大学教員準備プログラム（PFFP）、新任教員プログラム（NFP）等の開発・実施に携わり、将来大学教員を目指す大学院生・博士研究員、および新任教員の職能開発支援に従事。また、各種セミナーを動画コンテンツ化し、広く一般に公開する PDPonline の開発を実施

【研究活動】

研究業績：1) (分担執筆) "Faculty Development in Japanese universities", Education policy: Mapping the landscape and scope, Sandra Bohlinger, Thi Kim Anh Dang, Malgorzata Klatt (eds.), pp.145-171, Peter Lang Edition, (2016) 査読有. 2) (共著)「大学教職員向けセミナー動画配信サイト PDPonline の閲覧ログに基づく利用状況の確認」,『教育システム情報学会誌』, Vol. 34, No. 2, 184-189 頁, 教育システム情報学会, 査読有. 3) (共著)「LMS 上で配信する板書型授業を収録したビデオの復習教材としての可能性の検討」,『教育システム情報学会誌』, Vol. 34, No. 2, 144-154 頁, 教育システム情報学会, 査読有. 4) (共著)「香港教育大学における中国語教員養成のカリキュラム」,『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』, 3, 207-212 頁, 東北大学高度教養教育・学生支援機構, 査読有.

外部資金：1) (科研費) 若手研究 B, 「教員のキャリアステージに対応したリフレクションによる教授設計研修プログラムの開発」(代表：今野文子), 2015 年度～2018 年度. 2) (科研費) 基盤研究 A, 「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」(分担者, 代表：羽田貴史), 2014 年度～2018 年度.

【大学運営】

大学運営：高度教養教育・学生支援機構 広報ワーキンググループ

各種の支援活動：「国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点」として、大学教員準備プログラム（PFFP）、新任教員プログラム（NFP）等の開発・実施に携わり、将来大学教員を目指す大学院生・博士研究員、および新任教員の職能開発支援に従事。また、各種セミナーを動画コンテンツ化し、広く一般に公開する PDPonline の開発を実施

【業務活動】

センター業務：

①「国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点」として、大学教員準備プログラム（PFFP）、新任教員プログラム（NFP）等の開発・実施に携わり、将来大学教員を目指す大学院生・博士研究員、および新任教員の職能開発支援に従事。また、各種セミナーを動画コンテンツ化し、広く一般に公開する PDPonline の開発を実施

②大学教育支援センターのウェブサイトの構築、更新、Facebook、Twitter アカウントの管理、情報発信

部門業務：部門会議世話役

【社会貢献】

学会活動：

① 教育システム情報学会 大会プログラム委員

② 第 41 回教育システム情報学会全国大会 現地実行委員

社会教育活動：

① 宮城県委託「ICT 技術者 UIJ ターン等促進事業」伊達な ICT-WORK せんだい・みやぎ「ICT 人材定着研修」, セルフエンパワメント研修/職場の人間関係構築実践講座, 講師

② 宮城県委託「ICT 技術者 UIJ ターン等促進事業」伊達な ICT-WORK せんだい・みやぎ「高度 ICT 人材定着研修」, 短時間ワークショップ, IT エンジニアの将来を考えるワークショップ, 講師

③ 山形県立米沢女子短期大学 科研費獲得研修会, 講師

石井 光夫 教授

【専門分野】 入試制度論/比較教育学

【教育活動】

授業担当：大学院教育（教育学研究科 比較教育システム論・講義及び演習各 2 単位）

留学生等受け入れ：受け入れ留学生は持っていないが、授業を受講した中国人留学生に対し、個別に論文指導をしている。

【研究活動】

研究業績：1) (単著)「国立大学入試における個別選抜のゆくえ」『東北大学高等教育ライブラリ』第 10 号 221-242 頁(2016.5),

2) (単著)「中国の全国統一入試—総合試験と記述式問題を焦点にして—」『東北大学高等教育ライブラリ』第 12 号 185-216 頁(2017.3),

3) (書評)『比較教育学研究』第 53 号 162-164 頁

外部資金：1) 科研費基盤研究 (A)「「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」(課題番号 26245074 代表・羽田貴史), 研究分担者, 平成 24-28 年度, 2) 科研費基盤研究 (A)「高大接続改革の下での新しい選抜方法に対

する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価」(代表・倉元直樹), 研究分担者, 平成 28-32 年度

〔大学運営〕

全学委員会: 1) 入学試験審議会委員, 2) 入試企画・広報委員会副委員長, 3) 入試実施委員会委員, 4) 広報戦略室委員, 5) FGL 実施委員会委員, 6) 国際交流委員会委員

各種支援活動: 中国代表事務所所長補佐

〔業務活動〕

センター業務: 工学部入試検討委員会委員 (AO 入試実施業務 (作題, 選抜審査等) を含む) 他学部の AO 入試への情報提供・助言
入試広報活動 (大学案内編集, 各種説明会の主催, 高校訪問等) センター試験および一般入試の実施 (入試実施本部員) その他
関連入試業務

部門業務: 東北大学高等教育フォーラムの企画・運営

〔社会貢献〕

各種委員等: 1) IDE 大学協会 東北支部のセミナー開催 (実行委員), 2) 国立大学アドミッションセンター連絡会議 (幹事)

国際交流活動: 北京事務所所長補佐として 1) 希平会 (中国に事務所を置く大学の連絡団体) への出席, 2) 中国校友会 (同窓会) 活動
支援, 3) 学術交流協定式 (武漢理工大学)・日中大学フォーラム等の総長随員

社会教育活動: 1) 入試説明会 (高校教員対象) 20 会場のうち 6 会場担当, 2) 進学説明会 (札幌会場 6 月・静岡会場 6 月・東京会場
7 月・大阪会場 7 月) を担当, 3) 高校訪問 (3 校)・進学講演会講師 (2 会場), 4) 各種入試説明会・ガイダンスへの参加 (5 会
場), 5) TOEFL Junior セミナー講演 (8 月), 日本教育新聞セミナー講演 (8 月)

倉元 直樹 教授

〔専門分野〕 教育心理学

〔教育活動〕

授業担当: 大学院文学研究科「心理学特論 I」, 「心理学研究演習 VI」, 大学院教育情報学教育部「IT 教育基礎論特論 C」, 「研究方法
入門セミナー (1 コマ)」

学位論文指導・審査: 博士 3 名, 審査: 主査 2 名 (課程博士)

その他: 学内 FD 受講 2 回, 学外 FD 受講 1 回

〔研究活動〕

図書: 1) (共編著) 『高大接続改革にどう向き合うか』, 東北大学出版会, 2016, 1-4, 85-113, 243-248.; 2) (分担執筆) 『大学入試にお
ける共通試験』, 東北大学出版会, 2017, 47-82.

論文: 1) (共著) Current issues in large-scale educational assessment in Japan: focus on national assessment of academic ability
and university entrance examinations. Assessment in Education: Principles, Policy & Practice, in press. 他 1 編;

2) (単著) 「大学入試制度改革の論理に関する一考察——大学入試センター試験はなぜ廃止の危機に至ったのか——」『大学入試研究ジ
ャーナル』 27, 2017, 29-35.

総説・解説記事: (単著) 1 編.

学会発表: 単独発表 1 件, 共同発表 5 件.

招待講演: 2 件

外部資金: (科研費) (基盤研究 A) 「高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価」(代
表)(2016~2021), 他代表 1 件, 分担 3 件.

(受託研究) 大学入学者選抜改革推進委託事業 (文部科学省) 「個別学力試験「国語」が測定する資質・能力の分析・評価手法に関
する研究 ~記述式問題を中心に~」 (連携)(代表: 北海道大学)(2016~2019)

〔大学運営〕

全学委員会: 入試関連委員会委員等 6 件

各種支援活動:

東北大学入試センター新任教員対象 FD の企画, 同 12 回担当

学内入試関連 FD 企画運営, 講演, 講演会講師等 6 回担当

学部入試改善のためのコンサルテーションに力を注いだ。

〔業務活動〕

高度教養教育・学生支援機構の業務: 第 24 回東北大学高等教育フォーラム「大学入試における共通試験の役割——センター試験の
評価と新制度の課題——」の企画立案, 基調講演, 運営。参加者 374 名: 大学入試改革について測定論的観点と歴史的経緯に関する講
演を基に新共通試験制度構想に関する実情と問題点を伝えた。

入試センターの業務: 1) 本学主催教員対象入試説明会 8 回 (全て講演担当), 2) 高校主催教員対象入試説明会・研修会 5 回, 3) 本
学主催進学説明会 4 回 (全て講演担当), 4) 高校別東北大学入試説明会・相談会 (含, 教員との意見交換) 7 回, 5) 業者等主催合同進
学相談会等 8 回 (うち講演 4 回), 6) 高校訪問 (意見交換) 24 回, 7) 模擬講義等 1 回

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 入研協企画委員会委員，2) 公益財団法人日本英語検定協会理事，3) お茶の水女子大学新フンボルト入試外部評価委員，4) 国立教育政策研究所 eTIMSS 検討・準備委員会委員

学会活動：1) 日本テスト学会理事，2) 同編集出版委員会委員長，3) 国際教育学会（ISE）理事，4) 同学会誌編集委員，5) 同学会賞選考委員

社会教育活動：1) 業者主催講演会講師 3 回，2) 福山大学主催シンポジウム基調講演 1 回，3) 新聞・雑誌取材・記事掲載 4 件

石上 正敏 特任教授

〔専門分野〕 理科教育

〔研究活動〕

1) 学会発表 日本テスト学会第 14 回大会発表（共同研究）

1 「国立大学における個別学力試験の解答形式に関する研究（1）」

2 「国立大学における個別学力試験の解答形式に関する研究（2）」

2) その他 平成 28 年度文部科学省科学研究費助成事業「高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価」に関する研究の支援・補助（全国の高等学校におけるモニター調査の企画・立案・準備・実施等）

〔業務活動〕

入試センター業務

1 東北大学の入試改善に関わる調査研究

2 入試広報活動：「大学案内」の作成，入試説明会・進学説明会の実施，民間団体主催の入試説明会への参加，オープンキャンパスの企画・立案と視察・報告

3 高大接続事業：第 22 回東北大学高等教育フォーラム「大学入試における共通試験の役割」の実施

4 入試実務：主として AO 入試に係る，各学部（工学部，医学部，歯学部，文学部，経済学部等）に対するコンサルティング支援

庄司 強 特任教授

〔専門分野〕 数学教育

〔大学運営〕

・本学主催の高校教員対象の入試説明会（7 会場）を担当した。

・本学主催の高校生・保護者対象の進学説明会（4 会場）で、司会、進学相談等を行った。

・業者主催の進学相談会（3 会場）で高校生・保護者の進学相談に応じた。

・高校訪問（10 校）で、東北大学の紹介、高校教員との情報交換を行った。

・第 22 回東北大学高等教育フォーラム（5 月 23 日実施）の運営に携わった。

〔社会貢献〕

・文科省委託事業「大学入学者選抜改革推進」および科研費基盤 A「高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価」において、国立大学入試問題分析の数学の補助及び記述式問題の高校モニター調査の数学を担当した。

・第 14 回日本テスト学会（平成 28 年 9 月 9 日）で発表した。

・依頼のあった高校を訪問し、生徒対象の東北大学の紹介と相談会を行った。

・依頼のあった進学指導協議会（高校教員対象）に参加し、東北大学の紹介を行った。また、高校教員と情報交換を行った。

榎田 豪利 特任教授

〔専門分野〕 高校「化学」

〔大学運営〕

11 月から、東北大学入試センターに参加した。

〔業務活動〕

センター業務：高等学校の教科書分析を行い、参考資料として提供できるようにまとめた。

宮本 友弘 准教授

〔専門分野〕 教育心理学，教育情報学

〔教育活動〕

授業担当：大学院教育「インターネット調査演習」（教育情報学教育部）

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著)『大学入試における共通試験』，東北大学出版会，1 - 4 頁，217 - 219 頁，2017 年 3 月，2) (共著)「看護専門学校への進路選択理由—東北地方中核都市に立地する A 校における 5 年間の変化—」『大学入試研究ジャーナル』No.27, 129 - 134

頁, 2017年3月, 3) (共著) 「女子高校生の大学受験行動における心理的特性および学力の影響—自己決定と挑戦に注目して—」『聖徳大学研究紀要』第27号, 7-10頁, 2017年3月, 4) (単著) 「測定・評価技術とその具備すべき条件」『指導と評価』No.747, 12-14頁, 2017年3月

科研費: 1) 基盤研究(A) 「高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価」(分担),

2) 基盤研究(C) 「思春期女子における学業成績と自己概念形成プロセス—進路決定の支援に向けて—」(分担)

受託研究: 平成28年度大学入学者選抜改革推進委託事業 (分担)

〔大学運営〕

全学委員会: 1) 入試実施委員会委員, 2) 入試企画・広報委員会委員, 3) 大学入試センター試験気仙沼高等学校試験場本部員 (総括班長)

部局内委員会: 1) 高度教養教育・学生支援機構出版: 図書・資料委員会委員, 2) 工学部入試検討委員会委員

〔業務活動〕

機構業務: 第24回高等教育フォーラム事務局

センター業務: 東北大学の入試改善に関わる調査研究 (東北大学の追跡調査に関わる研究および実施, 一般入試の成績通知の検討, 入試選抜要項の改訂), 入試広報および高大連携の企画・実施 (「大学案内」の企画・作成, オープンキャンパスの企画・実施, 入試に関する各種説明会の開催および参加, 高校訪問), AO入試・一般入試の企画・コンサルテーションおよび実施 (AO入試懇談会, 学部コンサルテーション, センター試験, 一般入試, AO入試等の実施業務)

〔社会貢献〕

各種委員等: 国立教育政策研究所国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS) 国内専門委員

学会活動: 日本テスト学会第15回大会実行委員会事務局長

社会教育活動: 1) 小中高との連携 (高校個別訪問12校, 東北大学主催入試説明会9件担当, 東北大学主催進学説明会3件担当),

2) 出前授業 (掛川西高校), 3) 講演会 (高校3校, 小学校1校), 4) 展示会 (企業主催合同入試説明会6件担当)

その他: 1) 研究成果の新聞報道 (朝日新聞)

田中 光晴 講師

〔専門分野〕 比較教育学

〔教育活動〕

授業担当: 教育学部「海外教育演習」、教育学研究科「アジアの学校」

〔研究活動〕

論文: 1) (単著) Private and Vocational High Schools within the Expansion of Secondary Education: A Case Study of Korea, Expansion and Future of Upper Secondary Education: Comparative Analyses Across East Asia』平成25年度～平成27年度科研費補助事業最終報告書、76-92頁、2016年、2) (単著) 韓国のナショナルカリキュラムにおける「創意的体験活動」-特別活動と裁量活動の統合-、『特別活動学会紀要』第25号、29-38、日本特別活動学会、2017年3月、3) (単著) 韓国における大学入試の多様化とその後、『大学入試における共通試験』高等教育ライブラリ12、165-184、2016年3月

科研費: 基盤研究 (C) 「「国際的資質」形成プログラムに着目した東アジアにおける教師教育の比較研究」

学会発表: 1) (単独) 特別活動学会における『重点課題』の提案について、日本特別活動学会創立25周年記念研究会 (なんば道頓堀ホテル)、2016年6月、2) (単独) 国際交流系時限プロジェクトが抱える課題—なぜ学生は内向かざるをえないのか、日本比較教育学会第52回大会ラウンドテーブル (大阪大学)、2016年6月

〔社会貢献〕

①日本学術振興会 地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業 事業委員

②日本特別活動学会 理事

③アジア教育学会 紀要編集委員

吉本 啓 教授

〔専門分野〕 言語学

〔教育活動〕

英語による入門・初級日本語授業 (Basic Japanese) に関し、教材を含めた授業準備、授業の実施、および学生への補習を行う体制を菅谷准教授および非常勤講師、TAとともにさらに整備した。また引き続き、留学生日本語教育において、学生の勉学・生活への応用力向上を目指して、4技能のバランスの取れた学力の発展に努力した。

兼任する大学院国際文化研究科では、形式言語学にもとづく日本語解析をテーマとして講義「意味論」を行った。また、主指導教員として修士学位取得者1名を指導した。

〔研究活動〕

研究業績: 1) (分担執筆) 「文の統語・意味解析情報をタグ付けした日本語構造体コーパスの開発」KLS Proceedings. 「中国語名

詞句の内部構造について『言語処理学会第 23 回年次大会発表論文集』. “Keyaki Treebank segmentation and part-of-speech labelling.” 『言語処理学会第 23 回年次大会発表論文集』. “Treebank Annotation of FraCaS and JSeM”, LENLS, 人工知能学会.

2) (単著) “Tenses in Japanese Complex Sentences”, Workshop Philosophy of Mental Time V: Time in Language.

招待講演: 「統語・意味解析情報を伴う日本語コーパスの開発とその日本語教育・学習への応用」台湾日本語言文学研究学会第 15 回定例会, 長栄大学, 12 月 17 日

外部資金: 科研費基盤研究 (C) 「高度な統語・意味解析情報を持つコーパスの開発とその応用」, [研究代表者], 平成 28-30 年度 国立国語研究所共同研究プロジェクト「統語・意味解析コーパスの開発と言語研究」サブリーダー

〔大学運営〕

全学委員会: 学務審議会外国語委員会専門委員 (日本語), 学術資源研究公開センター運営専門委員会委員

部局内委員会: 言語・文化教育センター副センター長

〔業務活動〕

センター業務: オープンキャンパスに言語・文化教育センターが参加するに当たって、企画、運営を行った。

〔社会貢献〕

学会活動: Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation の運営委員を担当している。同学会は、東アジア地域のコンピュータ言語学、形式文法の活性化および研究者間の交流に貢献している。同学会を支える国内組織である言語情報科学会の会長をつとめた。また、人工知能学会国際ワークショップ Logic and Engineering of Natural Language Semantics の実施委員会の一員として、形式意味論を中心とするワークショップを各年行っている。国際的な学術交流の核として貢献している。

北原 良夫 教授

〔専門分野〕 英語学、英語教育、高等教育論

〔教育活動〕

授業担当: 全学教育「英語 A1」(医(保)1、農1)、「英語 A2」(歯薬1)、「英語 C1」(法1、工1)、「英語 C2」(文教1、農1、全1)、大学院教育(国際文化研究科)「言語データ解析論Ⅱ」×1、「応用言語研究総合演習 A 及び B」各1、「応用言語研究特別演習 A 及び B」各1、「応用言語研究特別研究 A 及び B」各1、「応用言語研究特別講義 A 及び B」各1

学位論文指導: 修士2名(副査2名)、試験委員2名

留学生受け入れ: 中国人留学生(1名)を国際文化研究科の修士学生として受け入れ

〔研究活動〕

研究業績: 1) (共著)「大韓民国ソウル大学及び高麗大学調査報告—東アジア・東南アジア地域における英語教育調査の一環として—」、『東北大学言語・文化教育センター年報』、第2号、15-23頁、2017年3月、2) (単著)「第1部 資料」、『平成27年度 TOEFL ITP®テスト実施報告書』、東北大学学務審議会外国語委員会英語教科部会、6-66頁、2016年6月、3) (共著)「継続的学習に繋がる英語聴解力伸張を目指した集中講義プログラム開発」、『現代社会の高度教養教育を創造するために—東北大学高度教養教育開発の取り組み(高度教養教育開発推進事業報告書)』、34-38頁、2017年3月

その他: 「建設的協働学習による企業・海外大学・全学参加型スキルアップ研修」(高度教養教育開発推進事業)、「新しいeラーニングシステムを活用した高年次学部生に対する EGAP 教育の展開」(同)、「東アジアの非英語圏・準英語圏における特色ある英語教育システムの実態調査と英語学習サポートシステムの開発研究」(同)、「継続的学習に繋がる英語聴解力伸張を目指した集中講義プログラム開発」(同)、「語学学習における能力獲得分析と語学授業への活用」(高度教養教育・学生支援機構部局ビジョン推進経費)等の共同研究にメンバーとして参画

〔大学運営〕

全学委員会: 1) 学務審議会委員、2) 同外国語委員会委員、3) 同外国語委員会学習専門部会委員(施設運用小委員会)、4) 同学務情報システム運営委員会委員、5) 同高度教養教育内容開発検討ワーキンググループメンバー、6) 人文・社会科学系学生交流実施委員会委員

部局内委員会: 1) 高度教養教育・学生支援機構言語・文化教育開発室室長、2) 同施設整備委員会委員長、3) 同総務委員会英語化ワーキンググループリーダー

〔業務活動〕

機構業務: 総務委員会に設置された「英語化ワーキンググループ」のリーダーとして、機構の規程(新規制定、改定)等、業務センターのホームページをはじめ各種の文書等の英語化に主体的に従事した。

センター業務: 言語・文化教育開発室室長として、言語・文化教育センターの運営業務、シンポジウムやセミナーの企画・実施などをはじめ、センターに関わるさまざまな業務に主体的に従事した。

部門業務: 言語・文化教育開発室についてもセンター業務と同じ(実質的には言語・文化教育センターと同じ組織であるため)

上原 聡 教授

〔専門分野〕 日本語教育、認知言語学、言語類型論

〔教育活動〕

授業担当：国際共修クラス（全学教育カレントトピックス展開ゼミ）「歌に学ぶ日本の言葉と心—国際共修ゼミ—」（前後期）、「日本語の文法を外から見て考える—国際共修ゼミ—」、日本語特別課程クラス「日本語読解中級前期」（自然科学系短期留学プログラム）、「日本語中級後期・上級応用（速習）」（日韓共同理工系プログラム）、特別課程+大学院教育「研究のための日本語スキル」、大学院教育「言語科学特別講義」「言語科学特別演習」「言語科学演習」（以上前後期）「認知言語学 II」

学位論文指導・審査：博士 5 名（主査 1 名）、修士 2 名

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著)「ラネカーの subjectivity 理論における「主体性」と「主観性」—言語類型論の観点から—」（『ラネカーの間』主観性とその展開』（開拓社、2016 年 11 月、pp.53-90.）、2) (共著)「日本語とタイ語の一人称代名詞使用に関する認知言語学的考察—出現数の差に注目したケーススタディー—」（『日本認知言語学会論文集』第 17 巻、採択済）

招待講演：1) 「The cognitive theory of subjectivity and the invisible speaker in a cross-linguistic perspective: Zero 1st pronouns in English, Thai and Japanese」、Japanese Linguistics Symposium, University of Sydney, 2017 年 3 月 17 日、2) 「Syntactic classification of particles in Japanese and how to teach them」、Japanese Language Education Workshop, University of Sydney, 2017 年 3 月 20 日

外部資金：(科研費) 基盤研究(C)、「主観性に基づく言語の類型化と他の言語類型との相関に関する認知類型論的実証研究」（代表）(2016-2019)

〔大学運営〕

全学委員会：1) 国際連携推進機構 国際交流委員会 日本語研修教育運営実施委員会委員、2) 同日本語研修教育運営専門委員会委員、3) 同日韓共同理工系学部留学生事業運営委員会委員、4) 広報（曙光）編集委員会委員

部局内委員会：1) 高教機構教育・学生支援機構総務委員会委員、2) 高教機構教育・学生支援機構出版・図書・資料委員会委員、3) 大学院国際文化研究科附属言語・脳・認知総合科学研究センター運営委員会委員 4) 東北大学国際文化学会役員会総務・監事
各種支援活動：言語・文化教育センター日本語教育セクション HP 管理

〔業務活動〕

学生支援支援：日本語特別課程・理系短プロ日本語プログラム・日韓共同理工系プログラムにおける学生支援（日本語オリエンテーションや履修相談会の開催など全学の留学生の履修上の問題や相談に対する対応）

センター業務：日韓共同理工系プログラムコーディネーター・理系短プロ日本語プログラムコーディネーター（カリキュラム編成およびクラス編成などの運営業務）、センター日本語教育セクションの HP 情報ネットワークの維持管理（和文・英文版合わせての更新、新短期留学プログラム DEEp-Bridge を含めた交換留学生プログラムの交流協定校のための全シラバス掲載の案内ページの編成）

〔社会貢献〕

国際交流活動：1) 協定校 University of Auckland (New Zealand) 皆川治美博士の講演会開催及び GLC との交流打ち合わせ設定、2) 特別訪問研修生受け入れ（2 月）

社会教育活動：1) Journal of Letters (タイ国チュラロンコン大学文学部発行) 編集委員、2) University of Sydney 日本語学科創立百周年記念事業招聘客員研究員

佐藤 勢紀子 教授

〔専門分野〕 日本思想史、日本文学、日本語教育

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「日本文化を考える」、大学院教育「日本文化基層論 II（宿世の思想—『源氏物語』を中心に—）」（国際文化研究科）、「国際日本研究総合演習・特別演習」（同）、「国際日本研究特別講義」（同）、「国際日本研究特別研究」（同）、その他「初級前期日本語応用速修（P1-E）」（日本語研修コース）、「初級後期日本語応用速修（P2-E）」（同）、「中級日本語読解（R4）」（外国人留学生等特別課程）、「中級後期日本語作文（W4）」（同）、「上級日本文化演習（日本文化を考える）（JC500）」（同）、「上級日本文化演習（古典入門）（CL5）」（同）、「上級研究ゼミ（RS630）」（同） 上記のうち「上級研究ゼミ」は平成 28 年 10 月に開設された DEEp-Bridge プログラムの必修科目

学位論文指導・審査：国際文化研究科にて博士 3 名、修士 1 名を指導、うち主査 2 名

教育支援活動：日本語研修コースの入門～初級レベルで使用している文化読解教材を刊行に向けて改訂

留学生等受け入れ：1) 日本語研修コース研修生 30 名を受け入れ・指導、2) 留学生 3 名を主指導教員として指導（国際文化研究科）

〔研究活動〕

研究業績：論文等：1) (共著)「文語文読解教材開発に向けての指針—中国・台湾の日本学研究者への調査から—」『日本語教育と日本学研究—大学日語教育研究国際研究会論文集（2015）』華東理工大学出版、2016 年 5 月、pp.12-16、2) (共著)「文語文を素材とした日本語・日本文化教育」『2016 年度日本語教育学会春季大会予稿集』、2016 年 5 月、pp.78-89、3) (共著)「日本語専攻学習者を対

象とする文語文教育』『専門日本語教育研究』18, 2016年12月, pp.55-60, 4) (共著)「非母語話者を対象とする日本語 e-learning 教材の開発」『東北大学高度教養教育・学生支援機構』3, 2017年3月, pp.307-320, 5) (共著)「海外における日本語文語文教育の現状—パネル・ディスカッション報告—」『東北大学言語・文化教育センター年報』2, 2017年3月, pp.7-14, 学会発表:(共同発表) ”E-learning Materials for Non-Native Learners of Classical Japanese”, Association for Asian Studies Annual Conference 2017, Toronto, March 17, 2017.

招待講演: 1) 「古典に学ぶ日本語・日本文化」, 山東大学 (中国), 2016年11月3日, 2) 『源氏物語』に見られる仏教思想とジェンダー (Buddhist Thought and Gender in The Tale of Genji), Princeton University (米国), 2017年3月20日

外部資金:(科研費) 基盤研究(C)「日本語学習者を対象とする文語文読解教育の実態調査および教材開発」(代表), 平成25年度～28年度

【大学運営】

全学委員会: 1) 日本語研修教育運営委員会委員, 2) 日本語研修教育運営専門委員会委員長, 3) 人文・社会科学系学生交流実施委員会委員

部局内委員会: 1) 高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員, 2) 同研究倫理委員会副委員長, 3) 同言語・文化教育センター運営委員会委員

各種支援活動: 大学教育支援センターの若手教員対象大学教員養成プログラム NFP に「先達教員」として協力(授業公開, 模擬授業へのコメント付与, 先達コンサルテーション等)

【業務活動】

学生支援業務: 1) 外国人留学生日本語研修コースの研修生の相談への対応(平成28年度前期), 2) 理系短期留学生受入プログラム (JYPE, COLABS)の交換留学生の相談への対応(同後期)

機構業務: 1) 日本語研修コースの企画・運営(平成28年度前期), 2) 理系短期留学生受入プログラムの日本語コースの企画・運営(同後期), 3) 夏季・冬季短期日本語・日本文化研修プログラム (KEYAKI) 参加者の機構特別訪問研修生としての受け入れに関するコーディネーションおよび研修生指導

センター業務: 言語・文化教育センターの運営に関する諸業務

部門業務: 言語・文化教育開発室の人事に関する諸業務

【社会貢献】

学会活動: 1) 日本語教育学会理事, 2) 日本文芸研究会代表委員(2016年7月～), 3) 専門日本語教育学会編集幹事

国際交流活動: 1) 山東大学(中国), プリンストン大学(米国)を訪問, 講演を行い, 教育・研究交流について協議(2016年11月, 2017年3月), 2) 東南大学(中国)からの客員研究員1名を受け入れ(国際文化研究科), 3) プリンストン大学, 天主教輔仁大学(台湾)から研究者を招聘, 共同発表(2016年5月), ヴェネツィア大学(イタリア)から研究者を招聘, 公開セミナーを開催(2017年3月), 4) (一財)東北多文化アカデミー主催行事として3つの短期日本語・日本文化研修プログラムを企画・実施, 参加学生を東北大学の特別訪問研修生として受け入れ(計50名, うち機構11名)

社会教育活動: 1) 南開大学夏季短期日本語・日本文化研修プログラムの参加者を対象に特別講義を実施(『源氏物語』におけるコミュニケーション), 2016年7月14日) 2) 吉林大学日本学教員研修プログラムの参加者を対象に特別講義を実施(『源氏物語』の仏教思想), 2017年2月7日)

その他:(一財)東北多文化アカデミー理事

橋 由加 教授

【専門分野】 英語教育、言語学、外国語教授法、CALL、高等教育論、日米比較文化論

【教育活動】

授業担当:(全学教育) 前期、後期トータルで12コマ担当。科目名: CALL 演習英語 B1, B2, C1, C2。

【業務活動】

機構業務: 高度教養教育・学生支援機構 出版・図書・資料委員会委員

カン ミンギョン 准教授

【専門分野】 ドイツ語学

【教育活動】

授業担当: 1) 基礎ドイツ語 I・II (前期4コマ、後期6コマ)、2) 展開ドイツ語 I・II (前期1コマ、後期1コマ)

教育支援活動: 1) 教育開発支援経費による「アクティブラーニングのためのドイツ語・ドイツ語圏地域文化の教材整備と授業開発」プロジェクトを進めた。2) 大学教育支援センターと連携し、ドイツ語教員を対象としたワークショップ「大学ドイツ語教授法強化講座: 学習者中心のドイツ語授業のために」を企画・開催した。

【研究活動】

研究業績: 1) (単著) 論文「使役構文における項の有生性と不定詞の意味特性」(2016年5月28日、日本独文学会研究叢書 No. 116)

『ドイツ語における有生性』、S. 37-52.)

外部資金：1) 科研費・基盤 (C) 「ドイツ語結果構文のコーパス分析と使役構文を含む結果表現の包括的研究」(研究代表者)、
2) 科研費・基盤 (C) 「ドイツ語基礎語彙のコロケーションに基づく意味分析とその独和辞典記述方法の検討」(研究分担者)

〔大学運営〕

部局内委員会：1) 言語・文化教育センター運営委員

〔社会貢献〕

学会活動：1) 日本独文学会語学ゼミナール実行委員

田林 洋一 准教授

〔専門分野〕 スペイン語、言語学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育初修外国語「スペイン語」科目の担当（基礎スペイン語Ⅰ及びⅡ）。「言語文化入門」の科目の創設準備。

教育支援活動：「スペイン語圏文化入門」のリーフレットの作成。水曜日に行われるスペイン語会話の特別講義への参加と実施（不定期）。スペイン語能力の向上を目指すシンポジウム「東北大学専門教育指導力育成プログラム（DTP）大学スペイン語教授法強化講座『スペイン語教育力向上を目指して』」主催。

〔研究活動〕

研究業績：1) 言語学入門書『言語学をする』（総頁数 433）、及びスペイン語文法書『スペイン語文法の小さな素材集』（総頁数 132）を執筆。単著。2) 機構紀要第 3 号『『ドン・キホーテ』の従者サンチョ・パンサの狂気について』の研究論文を執筆。単著。

講演：スペイン語能力の向上を目指すシンポジウム「東北大学専門教育指導力育成プログラム（DTP）大学スペイン語教授法強化講座『スペイン語教育力向上を目指して』」のファシリテーター兼責任者。

外部資金：「教育開発推進経費」の獲得。

〔大学運営〕

大学運営：機構教養教育推進ワーキンググループ、広報委員会、学習環境専門部会などの各委員。スペイン語関連の図書の選定などを担当。

全学委員会：1) 外国語委員会に代理出席数回。

〔業務活動〕

学生支援業務：スペイン語の向上を目指す学生への講義。

機構業務：各種会議の積極的な参加。

センター業務：スペイン語部会との連携による言語・文化教育センターのプレゼンスの充実。

〔社会貢献〕

学会活動：日本イスペインヤ学会、東京スペイン語学研究会、日本認知言語学会などへの参加。

菅谷 奈津恵 准教授

〔専門分野〕 日本語教育

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「Basic Japanese 1、2」「日本語 E、F、I、J」、大学院教育「第二言語教授法Ⅰ」「応用言語研究特別講義 AB」

学位論文指導・審査：修士 2 名（主査 1 名、副査 1 名）

教育支援活動：教科書の開発『東北大学レポート指南書』（共編著）

〔研究活動〕

研究業績：1)（編集・分担執筆）「はじめに」「盗用を定義し避ける」「おわりに」『責任ある研究のための発表倫理を考える』東北大学出版会，2017 年 3 月，pp.i-iv, pp.147-157, pp.159-161, 2)（単著）「大学教員と学生を対象とした盗用判断課題」『日本語教育方法研究会誌』23(2)，2017 年 3 月，pp.58-59, 3)（共著）「仙台在住の留学生のための日本語教材開発」『日本語教育方法研究会誌』23(2)，2017 年 3 月，pp.34-35, 2017 年 3 月，4)（単著）「アスペクトの習得」『第二言語としての日本語習得研究の展望』ココ出版，2016 年 5 月，pp.123-143

その他：高度教養教育開発推進事業「初年次のレポート作成とその指導を支援する共通教材の開発」（事業代表）

〔大学運営〕

部局内委員会：1) 総務委員会委員、2) 言語・文化教育センター運営委員

各種支援活動：東北大学附属図書館学習支援委員会委員

〔業務活動〕

機構業務：機構教養教育推進ワーキンググループ

センター業務：日本語教育実施推進ワーキンググループ

〔社会貢献〕

学会活動：1) 第2言語習得研究会（関東）運営委員, 2) 日本語教育学会研究集会（東北地区）の実施運営
国際交流活動：タイ国タマサート大学教養学部日本語学科にて国際文化研究科の説明会を開催し、学術交流会に参加した。

副島 健作 准教授

〔専門分野〕 現代日本語文法, 言語学, 日本語教育

〔教育活動〕

授業担当：

a. 日本語教育

外国人留学生等特別課程日本語科目「G4（中級後期日本語文法）」「G440（中級日本語文法）」「RS530（中上級研究ゼミ）」「JF5（上級日本文化演習）」＝全学教育科目「映像に見る日本語と日本文化」（基礎ゼミ）

日本語研修コース日本語科目「P1E/P2E（初級前期日本語応用（速習）/ 初級後期日本語応用（速習）」「P150E/P250E（入門日本語応用（速習）/ 初級日本語応用（速習）」）

b. 大学院教育

国際文化研究科大学院科目「日本語解析論 II」「言語科学研究総合演習 A, B」「言語科学研究特別研究 A, B」「言語科学研究特別講義 A, B」

学位論文指導：博士 2 名, 修士 4 名, 審査：博士 2 名（副査）, 修士 3 名（主査 2 名, 副査 1 名）

教育支援活動：日本語研修コースコーディネータ

留学生等受け入れ：

- ・ 研究生 1 名（2016 年 10 月-2017 年 3 月）
- ・ 年 2 回（2015 年 7-8 月, 2016 年 1-2 月）, 特別訪問研修生として中国からの留学生を数名受入れた。

〔研究活動〕

論文等：1) (単著)「日本語学習者の「動作主が不特定の人為的事態の表現」使用 について」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』第 3 号（2017 年 3 月）

学会発表等：1) (単独)「韓国語を母語とする日本語学習者の「動作主が不特定の人 為的事態」の表現」, CICJLE2016 年日本語教育国際研究大会 発表（2016 年 9 月 10 日, バリ（インドネシア）

科研費：1) 基盤研究（c）「主要部後置型言語におけるアスペクトとヴォイスの「自然な言い回し」に関する研究」（2015～2018）（代表）

〔大学運営〕

全学委員会：国際連携推進機構 国際交流委員会 教育国際交流運営委員会 日韓共同理工系学部留学生事業運営委員会 委員

その他の活動：ロシア交流推進室員

〔業務活動〕

機構業務：1) 出版・図書・資料委員会 委員, 2) 電子ジャーナル編集委員会 委員

〔社会貢献〕

学会活動：公益社団法人日本語教育学会研究集会委員会 委員

その他：東北学院大学において「日本語教育教材論（通年）」の授業を担当し、地域の日本語教員の人材育成に貢献した。

中村 渉 准教授

〔専門分野〕 言語学

〔教育活動〕

全学教育：28 年度は共修授業（「映像に見る日本語と日本文化」）を初めて担当した。日本人学生と留学生がほぼ半々のクラスで、小規模なグループでの議論・発表を行わせた。

日本語教育：春学期は中級前期会話（S3）、中級後期応用（P4）、上級読解（R5）、秋学期は中級会話（S400）、中上級文法（G500）、全学教育との共修科目（JM500）を担当した。

大学院教育：平成 28 年度後期に刊行されたばかりの自著を教科書として用いて「対照言語学」を担当した。また、応用言語研究総合演習・特別講義を前期・後期とも分担した。

修士課程：協力教員を務める大学院国際文化研究科応用言語研究講座において、主指導教員・主査を務めた修士課程の大学院生は 1 名、研究生が 1 名（平成 28 年度春学期に国際文化研究科修士課程に入学）、論文審査の主査を務めた修士課程の大学院生は 1 名、副査を務めた修士課程の大学院生は 1 名、博士課程の大学院生は 1 名である。

秋学期から研究生 1 名を中国から受け入れた（その後、大学院国際文化研究科に入学）。

〔研究活動〕

分担執筆：「Case」（The Cambridge Handbook of Japanese Linguistics, 2017, Cambridge University Press, Ch.12, 頁未確定）。

論文：「日本語の願望構文における格付与」（日本言語学会第 153 回大会予稿集、2016.12、pp.58-63）

学会発表：「日本語の願望構文における格付与」（日本言語学会第153回大会、福岡大学、2016.12.3）、「A Two-Tiered Theory of Case Features: The Case of the Hindi Case(-Marking) System」（The 49th Annual Meeting of the Societas Linguistica Europaea, フェデリコ2世・ナポリ大学、2016.9.2）

外部資金：基盤研究(c)「非定型節の格フレームの通言語的研究」（課題番号26370434）を研究代表者として、平成28年度に受給した。研究期間は平成26年度～28年度の3年間である。

〔業務活動〕

センター業務：1年を通じ、留学生のための日本語特別課程を担当し、授業の編成、カリキュラムの見直し、次年度の授業担当の決定を行った。また、日本語教育に関係する教職員向けのメーリングリストを運営した。

Daniel Eichhorst 講師

〔専門分野〕 ESL/EFL, Extensive Reading, Task-based Learning, Active Learning

〔教育活動〕

I prepare original materials for use in all of my classes. The content is determined based on input I receive from students. My goal is to have students develop specific abilities and become autonomous learners.

English A1/2

The focus of this class is extensive reading. Students are required to read a certain amount and given autonomy to choose what they want to read. This class is coordinated with the library and kyoumuka. In addition to reading books students do timed reading exercises and speaking/listening activities about books.

English B1/2

A discussion format has been developed involving preparation about a topic, discussion of the topic, and reflection about the topic. The input about a topic is an article of native level English with topics being chosen based on student recommendations. This has been an extremely successful activity and will continue to be developed.

English C1/C2

A discussion format has been developed involving preparation about a topic, discussion of the topic, and reflection about the topic. The input about a topic is a video with topics being chosen based on student recommendations. This has been an extremely successful activity and in particular has been positively received by international students.

In conjunction with Ben Shearon and Todd Enslin I produced a handbook on running a discussion-based English class.

〔研究活動〕

PUBLICATIONS

Eichhorst, D., Shearon, B. (Mar. 2016) Holistic Assessment: Devising a Range of Grading Criteria for Eigo A Reading Classes at Tohoku University, Bulletin of the Institute for Excellence in Higher Education No. 2, 2016, pp. 253-258.

Eichhorst, D., Enslin T., Shearon B. (Mar. 31, 2016) ディスカッションが英語授業を変える Preparation / Discussion / Reaction Method Handbook PDブックレット Vol. 7 Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University

Eichhorst, D. (2014) English Education through Discussion & Extensive Listening-based Communication Report on the 8th Tohoku University Higher Education Faculty Development, CAHE (Center for the Advancement of Higher Education) TOHOKU Report 55

PROFESSIONAL PRESENTATIONS

Eichhorst, D., Shearon, B. (Aug. 26, 2014) A Case Study of Active Learning through Extensive Reading in English, Tohoku Region University Librarians' Association Research Meeting, Tohoku Gakuin University Tsujitai Campus, Sendai, Japan

Eichhorst, D. (June 4, 2014) What experiences and tools do you in your communication tool box?

Special Class: Accumulate your own magma, Tohoku Fukushi University, Sendai, Japan

Eichhorst, D. (May 16, 2014) Going beyond English conversation: Developing critical thinking and communication skills, 20th Tohoku University Higher Education Forum, Sponsored by Center for the Advancement of Higher Education, Tohoku University, Sendai International Center, Sendai, Japan

Eichhorst, D. (Mar. 10, 2014) English Education through Discussion & Extensive Listening-based Communication 8th Tohoku University Higher Education Faculty Development, Tohoku University, Sendai, Japan

WORKSHOPS / SEMINARS

Enslin, T., Eichhorst, D. (Sept. 27-28, 2014) Planning and Managing Active Learning in English!, Seminar sponsored by Institute for Excellence in Higher Education & Center for Professional Development, Tohoku University, Sendai, Japan

PROFESSIONAL AWARDS

1. Tohoku University Higher Education Contribution Award, January 2015
2. Tohoku University President's Education Award, March 2015

[大学運営]

Interpreting for the Counseling Office

[業務活動]

Proofreading for the Center Office

[社会貢献]

In 2016 I attended a conference at Tel Aviv University in Israel and am trying to establish some relationships with English educators in Israel.

Todd Enslin 講師

[専門分野] Teaching English as a Second Language, English for Specific Purposes, Professional Development, Active Learning

[教育活動]

Liberal Education Courses Taught

My teaching activities are mainly associated with required 1st and 2nd-year required English classes as part of the required Liberal Arts education. These classes consisted of B1/B2 English Communication classes for 1st-year students, C1/ C2 English Communication classes for 2nd-year students and an A2H English reading class for high level students. I work with a group of four colleagues on a continual basis to review and revise the curriculum for these classes each year. In an effort to share the technique with our colleagues both teaching English and across the curriculum, Daniel Eichhorst, Ben Shearon, and I wrote the “PDR (Presentation Discussion Reaction) Handbook” that was published in March of 2016 by the Center for Professional Development. The A2H class was new last year, thus requiring extensive curriculum development. This class focused on giving students the opportunity to read a variety of genre and to submit both oral and written summaries to the class, giving them the opportunity to develop both their academic presentation and writing skills.

Education Support Activities

Through my work with the Center for Professional Development as a 先達教員, I consulted with new faculty and graduate students in the New Faculty Program (NFP)/Preparing Future Faculty Program (PFFP) to help them improve their teaching skills. These activities included watching the participants do microteaching activities and giving them advice and comments about their performance and how it could be improved, conducting individual interviews with participants to answer questions they had about teaching, and having participants observe my teaching followed by a meeting to explain my teaching philosophy and how that philosophy is carried out in the classroom.

Other notable activities

*On-campus Support of Educational Staff

This past year, I improved upon a workshop, “Classroom management techniques for classes conducted in English,” that I have developed and continually revised over the past six years. In November, Barry Kavanaugh joined in the workshop preparation and delivery. In addition as part of a cross-departmental project, I have developed a new series of workshops for the Global 30 program teacher in Chemistry, Engineering and Agriculture. The first workshop was held for the Chemistry teachers on February 21st with the Engineering/ Agriculture workshop postponed from March 8th due to scheduling conflicts.

*Educational Professional Career Summary – Training/Courses Attended

In an effort to enhance my own knowledge and develop the workshops that I developed further, I attended the following workshop and conferences

1. Academic Teaching in English Workshop put on by The University of Queensland at Tokai University on November 28th
2. Hawaii International Conference on Education from January 3-6
3. Educational Consulting Workshop put on by Brigham Young University at Teikyo University on March 23-24.
4. 5th Global Summit on Education: Trends and Challenges in Education (GSE 2017) in Kuala Lumpur, Malaysia from March 27-28.

[研究活動]

Publication of research achievements

- a. Eichhorst, D., Enslin, T., Shearon, B. (March 2016). Preparation, Discussion, Reaction (PDR) Method Handbook. Center for Professional Development Publication, Tohoku University. (Publication)
- b. Enslin, T. (April 16, 2016). Changing to a Discussion-based Approach at Tohoku University. Japan Association of Language Teachers Yamagata Chapter (Presentation)
- c. Enslin, T. (March 27, 2017). Putting Passive Knowledge into Practice through Discussion-based Classes in Japanese University Classes. 5th Global Summit on Education: Trends & Challenges in Education. Kuala Lumpur, Malaysia. (Presentation)

d. Enslin, T. (March 27,2017). Putting Passive Knowledge into Practice through Discussion-based Classes in Japanese University Classes. E-Proceeding of the 5th Global Summit on Education GSE 2017 (e-ISBN: 978-967-0792-15-6). 27th & 28th March 2017, Berjaya Times Square, Kuala Lumpur, Malaysia, 140 – 147. (Refereed paper)

〔大学運営〕

Entrance Exam Scoring Committee Member – worked along side other committee members to grade the Entrance Examination from February 26 – March 1.

Facilities Committee member - Was appoint to this committee to work on campus improvements.

Research Development Fellow (研究開発員) in the Center for Professional Development since 2010 - In this role, I have helped to develop workshops for active learning, teaching in English, and Teaching English as a Second Language. In addition, I have help to set up and maintain relationships with UC Berkeley for the PFFP/NFP study abroad program. Other duties include meeting and entertaining guest from abroad, acting as a mentor for teacher training participants and proofreading of a variety of related materials.

Assisted in the creation and proofreading of the English titles for the Writing Handbook published by our center.

〔業務活動〕

Faculty Mentor for the PFFP program – I work closely with the CPD staff to provide opportunities for participants to observe my classes and to provide them with an explanation of the reasons why I conduct the classes in the manner that I do. Participants all have an chance to ask questions about the lesson. In addition, I supplied advice regarding the students' microteaching efforts.

I serve as a proofreader for the department. In this capacity, I often receive documents that have been professionally translated by a service and check to make sure the accuracy of these documents is correct. In many cases, the translators do not understand the context of the document and therefore make errors regarding the meaning. In addition, I also assist IEHE faculty (and others) with their writing for presentation or publications.

Currently, I am meeting with other university, like Hiroshima University and Soka University, to develop workshops on teaching and active learning. Initially, I will give the workshops, which are scheduled for July 22-23 at Soka University and August 9-10 at Hiroshima University and then lend my expertise to help teachers at each institution to develop their own in-house programs.

I assist with open campus demonstration lessons to give high school students considering Tohoku University as an option the chance to see what our classes are like. I have also assisted in the organization and creation of workshops for teachers who might not have a theoretical background in teaching English.

I also helped create content for the new center website by writing an essay on American Culture.

〔社会貢献〕

I held a special lecture as part of a lecture series for a class. The topic of the lecture was “American Universities”.

I help to put on cultural activities at the International Cooperation Association of Yamagata.

Ben Shearon 講師

〔専門分野〕 TEFL, Curriculum Design, Extensive Reading, Classroom Management, English in the Japanese School System

〔教育活動〕

Taught general education classes (A1, A2, B1, B2, C1, C1R, C2, C2R).

Worked with colleagues to develop extensive reading and discussion curricula.

Worked with 教務課 to administer extensive reading classrooms and cabinets.

Supported part-time teachers with information about pedagogy and administrative matters.

〔研究活動〕

Presented on reading, presentation skills, English education, and personal finance.

〔大学運営〕

working with the library to maintain and expand the extensive reading collection, working with the university administration to schedule extensive reading classrooms.

〔業務活動〕

I continued serving as a volunteer interpreter for the counselling services and worked with the Centre for Professional Development to provide lectures and work on materials for publication.

〔社会貢献〕

I continued serving as a school advisory board member for Nika High School. I also gave lectures to students at 2nd High School on English education. Supported Niko and Nika with student research activities, and gave advice to Niko teachers about

establishing an extensive reading program in the school. Consulted with St. Dominico Junior and Senior High school regarding setting up an extensive reading program.

Vincent Scura 講師

〔専門分野〕 応用言語学, EFL/ESL, Communication Apprehension[CA], Language Anxiety[LA], Willingness to Communicate [WTC], Language Learning Motivation, 異文化コミュニケーション

〔教育活動〕

English A1 (Reading)- Implemented, modified, enhanced and expanded existing extensive reading program.

English A2 (Reading) - Implemented, modified, enhanced and expanded existing extensive reading program to a higher level than English A1.

English B1 (Communication) Introduced fluency drills that motivated students to use already acquired language skills in natural communicative situations.

English B2 (TOEFL Preparation) Introduced TOEFL test taking techniques resulting in demonstratively higher TOEFL scores.

English B2 (CALL) Implemented and administered on-line learning system with a view to enhance listening skills and improve TOEFL scores.

English C2 (TOEFL Preparation) Introduced TOEFL test taking techniques resulting in demonstratively higher TOEFL scores.

English C1 (Communication) Introduced fluency drills that motivated students to use already acquired language skills in natural communicative situations.

〔研究活動〕

Report: The Effectiveness of Task Based Language Teaching vs. Traditional 2nd Language Acquisition Methods 東北大学高度教養教育・学生支援機構 紀要 Bulletin of the Institute for Excellence in Higher Education・Tohoku University 2016年03月2(1),193-200

Report: Rising English learners' ability to conjecture and glean the meanings of new words: Supplementary lessons to improve reading ability. Center of Culture and Language Education Report No. 2 (Co-authored with Ryan Spring) Tohoku University (March 2017)

Clute Institute, International Conference on Education, San Diego, CA (March 2017) Presenter: English For Academic And English For Special Purposes: A Japan View

Paper Published in conference proceedings (ISSN 1539-8757 2017) and to be published in: Journal of College Teaching and Learning, Vol. 4, No ISSN 1544-0389 (2017)

Classroom English Seminar, (Tohoku University Center for Professional Development) Presenter

Orientation for New Faculty (Tohoku University Department of Engineering), Presenter

〔大学運営〕

Staff Interview Committee, Member

Assisted faculty and staff editing documents

〔社会貢献〕

Tohoku University ESS Student-Faculty Liaison. Speech editor and judge

Miyagi University of Education - Instructor for student Australian study abroad program

Joseph Stavoy 講師

〔専門分野〕 ESL, Communicative Language Teaching Techniques

〔教育活動〕

I have continued to provide my students with the best possible lessons to improve their English. I continue to try to improve my lessons and make them accessible to students of all levels and from all departments.

I have also made myself available to my students to help them with applying to overseas programs, colleges and internships.

〔研究活動〕

I have been working on a possible new textbook for Japanese college students learning English.

〔大学運営〕

I have been available for all administration duties. I will continue to participate in any and all duties asked of me.

〔社会貢献〕

I help students with English essays and application procedures when they want to go abroad for study or internships.

スプリング ライアン 講師

〔専門分野〕 英語教育、第二言語習得、認知言語学

〔教育活動〕

授業担当：平成 28 年度では東北大学の全学教育授業「英語 A1、B1・B2、C1、PracticalEnglishSkills1・2」を合計、16 コマ担当した。その他に、国際文化研究科の修士課程 1 年生向けの「言語研究法」という 2 コマの授業を担当した。

学位論文指導・審査：平成 28 年度から 1 名の修士課程論文の研究を副担当者として協力した。

教育支援活動：ノースカロライナ大学シャーロット校との共修言語・文化交流プログラムである SkypePartnerProgram を担当し続けた。留学生と日本人学生の合同授業「InternationalTeamBuilding」も引き続き担当した。また、グローバルラーニングセンターと協力し、新しい留学プログラム (FacultyLedProgram) を開発した。

〔研究活動〕

研究業績：1) (分担執筆)「Mutually Beneficial Foreign Language Learning: Creating Meaningful Interactions Through Video Synchronous Computer-Mediated Communication」(Foreign Language Annals 49 (2), 2016, pp.355-366), 2) (分担執筆)「東北大学・ノースカロライナ大学間のスカイプ・パートナー・プログラム：英語コミュニケーション能力向上ツールとしての効果に関する調査」(高度教教育・学生支援機構紀要(2), pp.263-269), 3) (分担執筆)「Raising English learners' ability to conjecture and glean the meanings of new words: Supplementary lessons to improve reading ability」(2016 年言語・文化教育センター年報第 2 号, pp.29-34), 4) (単筆)「英語学習の個人化」(東北大学全学教育広報 (曙光) 第 43, pp.9-11)

受賞：1)「全学教育貢献賞」, 東北大学学務審議会, 2017 年 1 月 5 日, 2)「総長教育賞」, 東北大学, 2017 年 3 月 24 日, 3)「第 48 語英語学論説資料収録論文集への選別」, 日本論説資料保存会, 2017 年

招待講演：1)「インターネット経由のプロジェクト型外国語学習」, 第 27 回日本第二言語習得学会, 2016 年 12 月 18 日, 2)「移動と状態変化表現の第二言語習得：認知言語類型論の観点から」, 名古屋大学特別招待講演, 2017 年 2 月 20 日

外部資金：(科研費) 日本学術振興会：若手 (B), 「英語句動詞習得を促進する認知類型論の応用研究」(代表), 平成 28 年～平成 30 年度

〔大学運営〕

大学運営：1) ノースカロライナ大学シャーロット校と東北大学の交換留学協定締結の副担当者, 2) メリーランド大学と東北大学の交換留学協定締結の副担当者

各種支援活動：1) 東北大学星陵キャンパスでの招待講演「How NOT to give a good presentation」, Falling Walls Laboratory, 2016 年 5 月 9 日, 2) 留学係の招待講演「留学する前の英語勉強」, 東北大学交換留学オリエンテーション, 2017 年 2 月 6 日

〔業務活動〕

学生支援業務：学生相談室の通訳

機構業務：1) 2016 年 4 月 25 日～27 日にノースカロライナ大学シャーロット校の工学部長他を東北大学に招待し、留学の枠を増やした。2) グローバルラーニングセンターと協力し、FacultyLedProgram を開発した。

センター業務：ホームページ、OperationalGuidelines、クォーター制に関するメールなどの英訳

〔社会貢献〕

講演活動：ノースカロライナ大学シャーロット校での招待講演「Opportunities for Study Abroad and Continued Education at Tohoku University」, 2016 年 9 月 23 日

国際交流活動：スカイプ・パートナー・プログラム担当、留学生と日本人学生が共修する授業を担当した

Richard Meres 講師

〔専門分野〕 Communication, English Linguistics

〔教育活動〕

COURSES TAUGHT:

A1 and A2 English Reading (Extensive Reading)

B1 and B2 Communication (Presentation and Discussion)

B1 and B2 English Communication (large-sized CALL classrooms)

C1 and C2 English Communication (large-sized CALL classrooms)

EFFORTS TOWARDS EDUCATIONAL IMPROVEMENT:

Helped build student English reading skills through extensive reading techniques

Helped build student English presentation and discussion skills

Helped increase student knowledge and interest in foreign culture

Used the CALL system to improve student English speaking, listening, and reading skills

EDUCATIONAL ACTIVITIES:

Developed numerous improvements to the e-learning system (LINC English) including the creation of a method of peer to peer on-line communication within the e-learning system itself

Created a comprehensive, system-wide analysis and report of the e-learning system including detailed analysis of student/user feedback, correction/fixes of outdated/inaccurate information and ideas for future improvements

〔研究活動〕

東北大学 言語 文化教育センター年報 第2号 (01-05)

Communicative and Motivational English Learning in Large CALL Classes:

The Implementation of an English e-learning Curriculum in Large-sized TU Communication Classes

Described the challenges faced by both the teacher and the learner in large-sized classrooms relating to classroom management and student motivation, and student disengagement

Provided suggestions for motivational learning and productive outcomes in large-sized Computer-Assisted Language Learning (CALL) classes

Introduced original English e-learning materials used in the CALL classrooms

〔大学運営〕

ON-CAMPUS / SUPPORT ACTIVITIES

Provided model lessons at the 2016 OPEN CAMPUS events July 27th and July 28th, 2016 on the Kawauchi Campus

Topic: "Using the e-learning system (LINC English) to open doors"

Content: Introduced the e-learning system to prospective students and presented a model lesson of integrated learning methods

〔業務活動〕

Represented the CCLE and presented English language e-learning techniques to promote 高大連携 at the 科学者の卵養成講座 event July, 2016 on the Aoba Campus

Topic: "English Presentation Skills for the 21st Century Global Community"

Content: Introduced English presentation and discussion skill models to high school students from around Japan

Represented the CCLE and presented Tohoku University large-sized class motivational techniques at the 高大連携英語教育セミナー2016「新しい日本の英語教育の方向性—英語学習は受信型から4技能の時代へ」event January 29th, 2017 on the Kawauchi Campus

Topic: "Integrating the four big skills into the B1-2 English Communication curriculum. Helping university students meet the challenges of a global work/research environment in the 21st century."

Content: Introduced the class content of Tohoku University's large-sized B1 and B2 English communication classes in the CALL setting with special emphasis on communicative and interactive learning experiences

Represented the CCLE and presented at the Explanatory Meeting of the FALLING WALLS LAB SENDAI 2016 on May 20th, 2016 on the Kawauchi Campus

Title: "The 3-Minute Academic Presentation"

Content: Introduced presentation techniques specific to short and powerful presentations for PhD candidates, Masters students, young professionals and young entrepreneurs from around Japan who wish to participate in the FALLING WALLS LAB SENDAI event to present their groundbreaking research ideas

Represented the CCLE at the FALLING WALLS LAB SENDAI コーチングセッション on July 25th, 2016 on the Katahira Campus.

Content: Provided individual and group instruction and advice to finalists in the Falling Walls Lab Sendai event where the winner advanced to the FALLING WALLS LAB FINALE in Berlin, German on September 8th, 2016.

〔社会貢献〕

Served as a judge for The 2nd A.T.E.L. English Oratorical Contest for ATEL Cup on September 24th, 2016 at Tohoku Gakuin University's, Tsuchitai Campus

Content: Judged English speeches and provided individual and group feedback and advice to the six university students throughout the Tohoku region participating in the event

Attended the California Speech Language Hearing Association's annual convention and exhibition in Pasadena, California from March 16-19, 2017

Title: "Changing Lives through Communication"

Content: Attended and participated in sessions and symposiums such as "Speech Language Pathology and Audiology", "Adding Self-Regulation & Executive Functioning into Everyday Speech Activities ", " Developing Vocabulary and Word Reading Skills through Phonological and Morphological Awareness " and through participation in these workshops and

seminars I was able to understand the latest in communicative research
Continued membership in The Japan Association for Language Teaching (JALT) and attended various regional events
Continued membership in JALT's Computer Assisted Language Learning Special Interest Group (SIG)
Continued membership in the American Communication Association (ACA)
Continued certification as an EIKEN (Test in Practical English Proficiency) examiner
Content: Provide interviews for the EIKEN 二次試験 several times throughout the year
Continued membership and participation in the American Speech-Language-Hearing Association

Barry Kavanagh 講師

〔専門分野〕 Sociolinguistic, English Linguistics, Applied Linguistics

〔教育活動〕

Courses Taught

Speaking 1 Speaking 1b Speaking 3a Speaking 3b 発展英語 II 英作文 Ba B1 communication
C1 Exercises in practical English B1 communication: academic writing
C1 Exercises in practical English: Academic writing A1 reading General education A2 reading PES 1 PES 2
IPLA class. Karate and Japanese culture IPLA class 2. Karate and Japanese culture
B2 communication B2 communication: academic writing
C2 Exercises in practical English: Academic writing C2 Exercises in practical English discussion and debate
現代大学論

New Courses I created

1. Book club reading course: developed for higher level students
2. Karate and Japanese culture course: developed for IPLA foreign exchange students
3. Karate and Japanese culture course: developed for higher level PES students
4. Academic writing: a course designed for first and second year students designed to give students an introduction to academic writing. Students must submit an academic paper for this course.

Advice for Students Wanting to Study in England

Lecture presented about studying and life in the UK

Funds

平成 28 年度「教育開発推進経費」 received and used for academic writing course.

Other Educational Activities

Development of syllabi for the above courses
Development and creation of teaching materials
Creation of assessment criteria
Team teaching with other lecturers
Development of a new CALL course

Group / individual advising

Gave advice to students regarding studying abroad

〔研究活動〕

Academic papers

1. Emoticons as a medium for channeling politeness within American and Japanese online blogging communities. *Language and communication*, 48,53-65. (2016). 10.1016/j.langcom.2016.03.003
2. 日本及び英国在住日系国際児のエスニックアイデンティティについて 大会プロシーディング. *The Japanese Society for Language Sciences 18th Annual International Conference*.18, 214-216. (2016).
3. Native speakerism and English language education in Japan. *高度教養教育・学生支援機構紀要*, 2, 201-211 (2016).
4. Does having an older sibling support or hinder the development of bilingualism in younger siblings? : A case study of British and Japanese families. *国際文化研究*, 23, 211-226. (2017).
5. The balanced bilingual child: Is it akin to the quest for the holy grail? *東北大学言語・文化教育センター年報*, (2), 25-27. (2017).

Academic Presentations at International Conferences

1. 日本及び英国在住日系国際児のエスニックアイデンティティについて
JLS2016: The Japanese Society for Language Sciences 18th Annual International Conference. Tokyo University. Jun 2016.
2. A Cross-Linguistic Study Of Object Classification and Perception within Bicultural Bilingual Children Living in the UK and

Japan, The 7th International Conference on Intercultural Pragmatics and Communication INPRA 2016 June 2016. University of Split (Croatia). Jun 2016.

3. A contrastive analysis of bicultural children's identity and bilingual development within the UK and Japan, 1st INTERNATIONAL CONFERENCE ON SOCIOLINGUISTICS Insights from Superdiversity, Complexity and Multimodality. Eötvös Loránd University, Budapest. Sep 2016.

Overseas conference fund

平成 28 年度「海外発表等支援経費」 received and used for Croatia academic presentation

Kaken hi 2014-2017

The last year of my kaken research. I did fieldwork across Japan and in England where I interviewed international families and their children with regards to bilingual education. I also visited schools, universities and other education facilities which both helped me network, improve the quality of my research and open up future educational exchange activities.

〔大学運営〕

1. Open campus demon lesson July 2016

2. Wrote a 高度教養教育・学生支援機構 Home Page column article about England

〔業務活動〕

1. TOEFL report 東北大学平成 27 年度 TOEFL ITP テスト実施報告書 Building for a better TOEFL future

2. Public Lecture / workshop 東北大学 大学教育支援センター

【PD セミナー】 Classroom management techniques for classes conducted in English

3. 内容言語統一型学習を通じた国際的コラボレーション –留学生・日本人学生の合同授業について– 正午 PD 会

4. Lecture April 2016 'Life in the UK', for students wishing to study there. Request from the global learning center.

〔社会貢献〕

Academic journal editorial work

1. Invited for Peer review for an international journal based on my expertise in the field.

2. Chairperson at the Croatia conference. International Conference on Intercultural Pragmatics and Communication.

3. I was requested to chair a session conducted at the conference.

Public lecture

1. Invited Public lecture at Yamagata University

International collaboration through content and language integrated learning September 2016.

This lecture was about the PES and IPLA courses I am teaching at Tohoku University.

School visits

1. Primary school visit in the UK School name

Talk on Japanese culture / cultural exchange.

I was requested to give a talk at this school during my research visit there.

2. Primary school visit 2 in the UK school name

Team teaching / professional teacher interviews information exchange.

I team taught an English class and gained valuable teaching insights from the interviews I conducted with the teachers.

Both of the visits gave me valuable insights into the education system at primary level within the UK and how it compares to Japan.

Achievements of international research activities

Meeting with the Honorary president of 国際児童文庫協会 Opal Dunn.

Research discussion and exchange on bilingual education and heritage language.

Future projects and exchange within Japan and abroad planned.

三上 傑 講師

〔専門分野〕 言語学、英語学

〔教育活動〕

授業担当：[全学教育]「英語 A1」, 「英語 A2」, 「英語 B1」, 「英語 B2」, 「英語 C1」

その他：非常勤講師（筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター：春季休業期間に集中授業として）「英語基礎 I」

〔研究活動〕

研究業績：[論文等]：(単著)「素性継承システムのパラメータ化と英語史における統語システムの段階的変化」, JELS34, 日本英語学会, 91-97 頁, 2017 年 2 月；[学会発表] 1) 「2つのタイプの焦点卓越言語と日本語における統語構造の通時的変化」, 『三層フェスタ』プレワークショップ：若手が拓く言語研究の新領域, 筑波大学, 2016 年 9 月 29 日；2) 「素性継承システムのパラメータ

化と英語史における統語システムの段階的变化」, 日本英語学会第 34 回大会, 金沢大学, 2016 年 11 月 13 日 ; 3) 「焦点卓越言語としての日本語における定形節のフェイズ性」, 言語学ワークショップ『日本語統語論研究の広がり—理論と記述の相互関係—』, 筑波大学東京キャンパス, 2017 年 3 月 27 日

受賞: 大会優秀発表賞 (佳作), 日本英語学会, 2016 年 12 月 12 日

科研費: 若手研究 (B) 「素性継承システムのパラメータ化に基づく V2 現象の共時的・通時的的研究」(代表: 2015~2017), 基盤研究 (B) 「Mirativity における「焦点」と「評価」の役割: 日英語からのアプローチ」(分担: 2016~2019) (研究代表者: 島田雅晴 (筑波大学准教授))

シャハト ベルント 講師

〔専門分野〕ドイツ文学

〔教育活動〕

授業担当: 全学教育「基礎ドイツ語 I、II」(工学、医歯薬、法経)、全学教育「展開ドイツ語 I、II」(文教)、全学教育「実践ドイツ語 I、II」(平成 27 年の 8 月に「ドイツ語の夏教室」をボランティアとして開きましたが、その授業は平成 28 年より新しいカリキュラムの「実践ドイツ語」となって 8 月と 2 月に開くことになりました。)

その他: 1) 平成 28 年のオープンキャンパスの体験授業「Guten Morgen! 日常生活の場面でドイツ語の基礎を学びましょう!」の担当者 (7 月 27 日~28 日), 2) 東北大学専門教育指導力育成プログラム (DTP) 大学ドイツ語教授法強化講座「学習者中心のドイツ語教育のために」のセミナー担当者 (12 月 11 日)

〔研究活動〕

研究業績: (論文) 「German Travel Writing on Spain after 1945」, 『東北ドイツ文学研究』第 57 号 (2016 年), 東北ドイツ文学会, 75-88 頁

〔大学運営〕

各種支援活動: 交換留学派遣候補者の二次選考 ドイツ留学希望者の面接試験 (7 月 14 日、11 月 21 日)

〔社会貢献〕

その他: タイ北部のロイエット市の地元ボランティア団体と連携し、収入が少ない農家の子供たちに玩具やゴム製の小型プールを無償で配るボランティア活動への参加 (2 月 25 日~27 日)

遠藤 スサンネ 講師

〔専門分野〕ドイツ語教育、北方史

〔教育活動〕

授業担当: 全学教育「基礎ドイツ語 I」(前期 8 コマ) と「基礎ドイツ語 I I」(後期 8 コマ) [理農学、法経学、医歯薬学、工学] を担当した。

〔研究活動〕

研究業績: (単著) 「ドイツ語の法則性を発見的に学習する方法 — 冠詞と名詞の格変化を例にして —」『ドイツ語教育』21, 63-69.

その他: 平成 28 年度「教育開発推進経費」による事業「アクティブラーニングのためのドイツ語・ドイツ語圏地域文化の教材整備と授業開発」(代表者 カン・ミンギョン) において、協力者として教材収集とその利用方法について研究を行った。

〔業務活動〕

教育関係共同利用拠点事業機の一環である専門教育指導力育成プログラム「大学ドイツ語教授法強化講座」(2016 年 12 月 11 日) に協力した。

〔社会貢献〕

市民を対象とした語学教育活動を行った。(岩手日独協会「入門ドイツ語」講座、16 回)

SAUZEDDE Bertrand 講師

〔専門分野〕言語学 (音声学) とフランス語教育学

〔教育活動〕

以下の講義を担当している。

・基礎フランス語 前期 7 コマ、後期 7 コマ、展開フランス語 前期 1 コマ、後期 1 コマ

基礎フランス語はフランス語の基礎知識を持つ者を対象とする。私が作った教科書に基づいて、フランス語コミュニケーションと発音を教える。授業は他の教員とペアで教えるので、私の授業では口頭表現と聞き取りを中心に練習する。展開フランス語は 2 年生向けの授業 (1 コマ) である。教科書を使わないので、教材を制作して、勉強する。目的は近な分野における孤立した文を理解し、通常の状況でコミュニケーションが可能で、自分に関する問題を単純な手段で表現できることである。

〔研究活動〕

論文: 1) Quelle classification rythmique pour l'interlangue? 関西フランス語教育研究会 Rencontres (30), 104-108. (2016),

2) Étude comparative des pauses silencieuses en français lu par des natifs et par des apprenants japonais 立命館言語文化研究 27(2・3), 295-308. (2016), 3) パリ第7大学で博士論文も続けている。

発表：1) 第2外国語としてのフランス語を発音する学習者の母音挿入について[Vowel epenthesis in Learning of French as a second language by Japanese Students], 正午PD東北大学. (2016)

〔大学運営〕

学生支援支援：派遣交換留学説明会にて、「個別相談会」のブースに参加する。留学に興味ある学生をアドバイスして手伝う。

機構業務：フランスへの交換留学面接委員として参加して、候補者のフランス語レベルを確認する責任を負っている。

第36回正午PDに私の研究を紹介してフランス語の発音について発表した。

言語のプロモーションをするために7月に行われたオープン・キャンパス体験授業（外国語）を担当した。

〔業務活動〕

フランス留学に興味ある学生と相談して、いつでも学生の訪問を歓迎して、研究室でアドバイスする。

〔社会貢献〕

①東北大学宿舎の副会長

1) 各種議事録の作成, 2) 町内会関連経費の管理 (通帳および印鑑の管理、入金確認、支払い業務、出納帳の記入、決算書の作成), 3) 町内会関連備品 (学区民運動会等にかかる物品等自治会運営に必要な物品) の購入、管理, 4) 町内会関連の清掃活動 (与兵衛沼清掃) に関する業務, 5) 会長に事故ある場合は職務を代行

②学会役員

2012年から関西フランス語教育研究会委員として活動している。今まで副会長、IT担当者、コミュニケーションの翻訳者などで役員として従事していた。

Cecilia Noemi Silva 講師

〔専門分野〕 Foreign Language Education (Spanish)

〔教育活動〕

I am in charge of three Spanish courses in level A1 and two courses in level A2.

As regard development of educational material, in 2016 I made some necessary changes in the handbook I have been writing since 2012, developed videos for increasing listening skills, practicing grammar, and introducing conversational and cultural features.

Regarding extra-curricular activities, I organized, together with Cervantes Institute Tokyo and Spanish teachers of Tohoku University, the Spanish proficiency test (DELE), which was held for the first time in Sendai in May 2016. Moreover, I worked as examiner in the Spanish examination at Tohoku University (May 2016) and Cervantes Institute (July 2017).

As regards Spanish studies abroad, I joined the Faculty-Led program proposed by professor

Kazuko Suematsu of Global Learning Center. In March 2017, I took a group of 15 students to Complutense University Madrid, Spain, where they attended Spanish language and culture courses and conducted intercultural field work. Moreover, I made special classes and went along with the students in their field work and cultural visits.

〔研究活動〕

a) Regarding introduction of cultural issues in the syllabus, I synthesized theory and practice in the following article:

1) Language and culture: a theoretical and practical classroom suggestion for closing the gap. *Studia Romanica Posnaniensis* XLIII・4 (2016). Posnan, Poland. pp. 131・155.

Besides, I made a synthesis of practical issues related to language and culture, and participated in the following conferences:

2) Language and culture: combination of theory and practice (workshop: Changing traditions in learning styles and assessment). 42nd Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition Jalt2016, Nagoya, Nov. 26-27, 2016.

3) Cultural Diversity: Devising a Model for the Foreign Language Classroom. 7th International Conference on Learning, Education and Pedagogy (LEAP) Nanyang University, Singapore 8・9 November 2016. Osaka University and Professor Takanori Maesako granted me the necessary support for participating in this conference.

4) Shall we ... read / write / listen / talk? Suggestions for integrating skills in one hour class. Workshop at Jalt Teachers Helping Teachers Seminar, Hue University, Vietnam. August 4・7, 2016.

b) I started a portfolio project:

口頭コミュニケーションの自己評価のためのポートフォリオ開発, supported by 平成28年度「教育開発推進経費」 This portfolio is described in the following conferences:

5) Portfolio for Self-assessment of Oral Communication in Foreign Language Learning. JSET 第32回全国大会日本教育工学会 大阪大学. Sep. 17・19, 2016.

6) Assessing my own improvement in Spanish. (workshop: Changing traditions in learning styles and assessment) 42nd Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition Jalt2016, Nagoya, Nov. 26・27, 2016.

張 立波 講師

〔専門分野〕 中国語教育、日本文学、中国語文学

〔教育活動〕

授業担当：

- ・「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ」12コマ
- ・「展開中国語Ⅰ・Ⅱ」2コマ
- ・「展開中国語Ⅲ・Ⅳ」2コマ
- ・現代大学論「中国の大学」1回

学位論文指導・審査：国際文化研究科 国際文化交流論専攻の博士論文の外部審査員

教育支援活動：日本人学生の留学関係の支援計3名（推薦状の作成、大学の選定、申請書類の作成指導、申請大学への問い合わせ等の支援）

留学生等受け入れ：中国からの特別訪問研究生の受け入れ

その他：学生および社会人を対象として、定期的に「中国語と中国文化に関する勉強会」を実施した。

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著) “東北大学 大学中国語教授法強化講座 2016年度実施報告書”，IEHE Report71, 2017.2, 1～10,

2) (単著) “井上厦国家観之集大成—論《吉里吉里人》の“国家”形象”中日文化文学比較研究, 2016, 42～51

その他：他教員との共同研究（代表：趙 秀敏）平成28年度も、引き続き「実践的中国語コミュニケーション能力を育成するためのブレンディッドラーニング用教科書及びその指導法と評価法の開発」を課題として取り組み、東北大学の初修中国語ブレンディッドラーニング用教科書等を開発した。

〔業務活動〕

学生支援支援：留学生相談通訳支援者

センター業務：言語・文化教育センター運営会議メンバー

〔社会貢献〕

社会教育活動：オープンキャンパスにおいて、ネイティブ教員による授業デモを行う。2016年度“漢語橋”世界大学生中国語コンテスト新潟予選大会審査員。全日本中国語スピーチコンテスト宮城県大会審査員。仙台市民講座“日中同形異義語”2016, 9, 18。

趙 秀敏 講師

〔専門分野〕 中国語教育、教育工学、eラーニング

〔教育活動〕

授業担当：1) 全学教育「基礎中国語」ⅠとⅡの各6コマ、及び2) 他大学「中国語コミュニケーション」ⅠとⅡの各1コマを担当し、効果的な教育の実現を目指して、ICT（情報通信技術）を活用したブレンディッドラーニングを実施した。3) 全学教育「展開中国語」ⅠとⅡの各1コマを担当し、中国語能力試験（HSK）2級合格を目標に、実践的中国語運用能力を養成する授業を実施した。

教育支援活動：1) 東北大学の初修中国語ブレンディッドラーニング用教科書『マルチメディア 中国語初級テキスト KOTOTOMO ことばを友に』（ios/Android 双方対応）を開発するとともに、eラーニングシステムを構築した。

その他：1) 東北大学専門教育指導力育成プログラム：中国語を教える大学教員のためのスキルアップコース（海外研修）の開発・実施、2) 東北大学 大学教員準備プログラム／新任教員プログラム：担当授業への参観を提供、3) 中国語コンテストの学生指導

〔研究活動〕

研究業績：

a) 著作：(共著)マルチメディア 中国語初級テキスト KoToToMo, 朝日出版社 (2017).

b) 査読付き国際学会発表：1) (共著)日本国立大学初級漢語 Blended Learning 教材及其教学法的設計, 第二屆國際漢語教學研討會 (2016.5), 2) (共著)利用智能手機的復習教材的設計手法：基於教學設計理論的日本大學初級漢語 Blended Learning 的開發, 亞太地區國際漢語教學學會第八屆年會(2016.10)

c) 国内学会発表：1) (共著)大学初修中国語ブレンディッドラーニングのためのスマートフォン利用復習教材の開発：単語練習の設計, 第41回 JSiSE 全国大会講演論文集, pp.71-72(2016.8), 2) (共著)大学初修中国語ブレンディッドラーニングのためのスマートフォン利用復習教材の開発：音読練習と文型練習の設計, JSiSE 研究報告, Vol.31, No.6, pp.105-110 (2017.3)

d) 機構紀要：1) (共著)東北大学初修中国語ブレンディッドラーニング用教科書の設計, 第3号, pp.199-205(2017), 2) (共著)東北大学初修中国語ブレンディッドラーニング用教科書の開発, 第3号, pp.277-283(2017), 3) (共著)香港教育大学における中国語教員養

成のカリキュラム, 第3号, pp.207-212(2017)

e) 報告書: (共著)東北大学 大学中国語教授法強化講座 2016 年度実施報告書 (2017.2)

f) 教材アプリ開発: 初級中国語 KoToToMo, ios/Android 双方対応 (2017.3)

科研費: 基盤研究(C)「中国語ブレンディッドラーニングのためのスマートフォン利用復習教材の開発と評価」(2015~2018)

その他: 部局ビジョン推進経費事業「実践的中国語コミュニケーション能力を育成するためのブレンディッドラーニング用教科書及びその指導法と評価法の開発」の代表者, なお同事業は, 出版社との産学連携事業として進めている

【業務活動】

機構業務:

1) 東北大学専門教育指導力育成プログラム: 中国語を教える大学教員のためのスキルアップコース(海外研修)の開発・実施に携わり, スキルアップを目指す大学教員の職能開発支援に従事

2) 東北大学専門性開発プログラム: 大学教員準備プログラム/新任教員プログラム: 担当授業への参観を提供し, 若手の授業運営能力開発支援に従事

センター業務: “漢語橋”世界大学生中国語コンテスト新潟予選大会, 及び全日本中国語スピーチコンテスト宮城県大会に参加希望学生の指導に従事

部門業務: 東北多文化アカデミー財団と本機構の共催事業「TTA-短期留学 日本語冬季短期研修プログラム KEYAKI」で特別訪問研修生2名を受け入れ

【社会貢献】

各種委員等: 1) 日本中国語検定協会評議員, 2) 日本中国語検定協会検定試験 仙台会場試験監督

学会活動: 依頼を受け, 国内の学会論文誌の論文査読を担当

社会教育活動: オープンキャンパスにおいて, 言語・文化教育センターの初の試みとして, ネイティブ教員による授業デモを行うとともに, 我々が開発し, 現在東北大学の初修中国語教育において使用している eラーニング教材を展示

金 鉉哲 講師

【専門分野】 韓国文学・伝統芸能

【教育活動】

授業担当: 全学教育「基礎朝鮮語Ⅰ」「基礎朝鮮語Ⅱ」

この科目は韓国語の学習歴が殆ど無い学生が中心となっている。そのため、何よりも学生たちに韓国と韓国文化に関する興味を持たせることが大事である。興味を呼びおこす方法として一ヶ月に一回程度は日本と深く関わりがある韓国の最新ニュース、話題などを中心に韓国文化・韓国人の考え方を紹介している。さらに学生の興味が高い歌・ドラマ・映画なども学習教材として積極的に取り入れている。

全学教育「展開朝鮮語Ⅰ」「展開朝鮮語Ⅱ」

この科目は中級レベルの受講者が中心となっている。

【研究活動】

研究業績: (共著・翻訳) 『나는 오늘 결혼정보회사에 간다(婚活現象の社会学)』、ソウル: 月印、2016. 12. 30、1-261 ページ。
(記述言語: 韓国語)

【大学運営】

日韓共同理工系学部留学生事業運営委員会の委員

【業務活動】

機構業務: 機構教養教育推進ワーキンググループ(メンバー)

【社会貢献】

①宮古市の「宮古市震災の記憶伝承事業」に東日本大震災記録調査会の調査員として参加している。

②海外では、韓国の「パンソリ学会」で海外交渉理事として活動しながら、日韓芸能研究者の研究交流のために努力している。日本国内では、「日本韓国語教育学会」の東北理事を務めている。

③国際交流活動: 異文化理解プログラムとして国際交流の企画「君は髪型以外完璧だ」(韓国の美容師と留学生が仙台市の災害公営住宅を訪れ、住民と交流、2016年10月29日~31日)、「日韓の共存時代、日韓における匠の技」(日韓の美意識の共通点と相違点に関する公演会、2017年1月7日)

林 雅子 講師

【専門分野】 日本語学・日本語教育

【教育活動】

授業担当: (後期) 日韓共同理工系学部留学生プログラム日本語科目「G460/G560(中級日本語文法/中上級日本語文法)」, 短期留学生受入プログラム(理系留学生対象)「G410(中級日本語文法)」, 日本語教育外国人留学生等特別課程日本語科目「K400(中級日

本語漢字・語彙)」、日本語研修コース(国費留学生対象)「B150/B250(入門総合日本語/初級総合日本語)」「(2コマ連続授業)「H150(ひらがな・かたかな)」

その他:新規開設科目準備「基礎ゼミ「マルチメディアを活用した日本語〜マンガ・アニメを通して自国の言語・文化を伝え合おう〜国際共修ゼミ-」、展開ゼミ・カレントトピックス「マルチメディアを活用した日本語〜応用マルチメディア・コーパス言語学:ドラマや映画を使って言葉を調べて教えてみよう〜国際共修ゼミ-」英語シラバス作成

〔研究活動〕

研究業績:1)(単著)「Classroom Management in which Students Participate Proactively by Utilizing Multimedia Teaching Materials: Teaching Methods at the University of Santiago in Chile」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第3号(2017年3月),2)(単著)「日本語とスペイン語の副詞の形態的特徴に関する一考察」『東北大学 言語・文化教育センター年報』第2号(2017年3月),3)(単独発表)「日本語とスペイン語の副詞の対照研究—スペイン語を母語とする日本語学習者のために—」大阪大学現代日本語研究会(2016年8月6日,於大阪大学)

〔大学運営〕

2017年度前期より日本語研修コースと理系短期プログラム(JYPE・COLABS)のサブコーディネーターを担当するため,英語シラバスの改訂や担当講師の先生方との会議など,主担当の先生方と協力して準備した。

〔業務活動〕

言語・文化教育センター業務:国際交流棟録音室の整備のため購入すべき備品を音声学の専門家や情報教育基盤センター技術専門員の方の助力を求めて最適な備品が購入できるよう手配した。留学生日本語学習支援のための教材や書籍を購入して整備した。

大阪大学国際教育交流センターにおける留学生教育・運営に関する調査のため副センター長の村岡貴子からヒアリングを行った。

次年度の基礎ゼミ・展開ゼミ新規開講授業の準備のために著作権セミナーに参加し,講師の先生を基礎ゼミにゲスト・スピーカーとして招聘することに尽力した。

〔社会貢献〕

留学生の受入れ:特別訪問研修生として中国からの留学生を受入れた。

粕壁 善隆 教授

〔専門分野〕 粒子線材料工学

〔教育活動〕

授業担当:「量子力学入門」(工学部生70名ほど)では,量子力学の学問体系の学修を第一としながら,量子力学の創世記の多くの研究者の国際交流,協定校のウィーン大学出身のシュレーディンガーが波動力学を確立したことなどを含めて,量子力学の創生の意義,相補性を基礎とした世界観等についても興味を持つよう工夫した。大学院科目:「材料界面機能学」、「先端マテリアル物理化学セミナー」および研究室での「金属フロンティア工学修士研修」などを担当し,物性物理学,材料工学の発展に寄与するよう工夫した。

教育支援活動:交換留学生同窓会の教員側代議員として現役学生中心の同会を指導・支援した。

留学生等受け入れ:短期留学生(1名)を受入れて教育・研究指導を行った。

その他:以上の部局教員としての教育活動とは別に,大学全体としての短期留学生受入れプログラム(JYPE 73名),短期共同研究留学生交流プログラム(COLABS 47名),などを担当し,研修による指導と発表会(審査会)による指導・評価を行った。また,COLABS派遣学生の研修発表会(審査会)を行い,指導・評価した。COLABSワシントン大学派遣特別プログラムを14名の学生を引率して実施した。

〔研究活動〕

研究業績:論文等:1)(共著)Characterization of (111)-oriented Ti1-xAlxN Thin Films on Monocrystalline AlN by Reactive CVD, JAEA-Review, 2015-022(2016)123,2)(共著)Atomistic Transformation Processes due to the Correlation of Implanted N-Ions with Ti Thin Films, QST Takasaki Annual Report 2015, 1(2017)48,3)(共著)SYNTHESIS AND CHARACTERIZATION OF TITANIUM ALUMINIUM NITRIDE THIN FILMS DEPOSITED BY REACTIVE-CVD, Proc. 20th BIENNIAL European Conference on Chemical Vapor Deposition, Sempach, Switzerland, in press.

外部資金:原子力機構施設利用総合共同研究(一般共同研究)「イオン注入法によるアルミニウム・チタン・シリコン窒化不定比化合物薄膜の成長過程のその場観察」(代表)

〔大学運営〕

大学運営:国際共同大学院プログラム副部門長,東北大学国際交流会館副館長

全学委員会:国際交流委員会委員,教育国際交流運営委員会委員,学術交流協定調査検討委員会委員,学務審議会委員,学生生活支援審議会委員,国際共同大学院プログラム部門教務委員会委員(副部門長),安全保障輸出管理委員会委員,国際共同教育実施委員会委員長,自然科学系学生交流実施委員会委員長,東北大学国際交流会館副館長などとして,東北大学の国際交流,特に教育国際交流について立案,提言,実施などに寄与した。

部局内委員会:高度教養教育・学生支援機構では,総務委員会委員,出版・図書・資料委員会副委員長,人事委員会委員などとして,

教養教育・学生支援などに寄与した。グローバルラーニングセンター副センター長として所掌する様々な案件について、センター長を補佐し、JYPE、COLABS、DEEP、TSSP、ダブルディグリープログラム、国際共同教育、国際共同大学院プログラムなどの確実な運営に寄与した。

〔業務活動〕

機構業務：総務委員会委員、出版・図書・資料委員会副委員長、人事委員会委員などとして、機構における教養教育・学生支援について、立案、提言、実施などに寄与した。

センター業務：グローバルラーニングセンター副センター長としてセンターが所掌する様々な案件について、センター長を補佐し、JYPE、COLABS、DEEP、TSSP、ダブルディグリープログラム、国際共同大学院プログラムなどの確実な運営に寄与した。COLABS ワシントン大学派遣プログラムを計画立案し実施した。これらの遂行のため、協定校訪問、日本留学フェア・協定校での東北大学留学説明会等を行った。東北大学の FGL、TGL の所掌委員会の委員として学部留学生、派遣学生関係業務を推進した。

〔社会貢献〕

各種委員等：独立行政法人日本学生支援機構海外留学支援制度（短期受入れ・短期派遣）実施委員会委員として、国の留学生施策についての立案、提言、評価などを行い、国の積極的な留学生施策に寄与した。

国際交流活動：米国・ワシントン大学との協働授業を含む国際共同教育プログラムの計画・立案・実施に尽力した。具体的には東北大学における留学生と日本人学生の国際共修の学部高学年・大学院生用授業を立案し実施した。また、ワシントン大学派遣特別プログラムを開発し、学生 14 名を引率して実施した。

社会教育活動：東北大学校友会の登録同窓会である、交換留学生同窓会の教員代議員として、交換留学生の本学国際交流への支援を促進した。

末松 和子 教授

〔専門分野〕 異文化間教育、留学生教育

〔教育活動〕

授業担当：以下の PBL 型国際共修科目（全学教育）を前・後期 2 科目ずつ担当。

1. キャンパス国際化への貢献：留学生との協働プロジェクトを通して国際性を身につけよう I、II（指導言語：英語）
2. 異文化コミュニケーションを通じて世界を知ろう（日本語・前期・後期）

教育支援活動：東北大学グローバルリーダー育成プログラムの統括として指定科目の選定、制度設計、リーダーや修士認定審査を実施した。その他、留学相談を毎週 2 時間、交換留学申請時期は週に 10 時間以上実施し、留学前研修、留学中および帰国後の教育・進路指導にあたった。文科省のトビタテ JAPAN 留学奨学金採択者数拡大を目的とした申請書作成指導を行った。

留学生等受入れ：文系交換留学プログラム（英語、日本語）の責任者としてプログラムの統括、運営、カリキュラム開発にあたった。学内の国際交流関連学生団体（東北大学留学生協会、IPLANET）の指導・支援を行った。

1. 新規短期海外研修（ファカルティレッド）を開発した。スペイン、ドイツ、ロシアプログラムを実施した。ドイツプログラムの担当として、事前研修 4 回、事後研修 2 回、2 週間の現地研修引率を行った。経済学研究科主導のベトナム短期研修にてアドバイザーを務め現地報告会の審査委員を担当した。
2. 高校生向け海外短期留学プログラムを規模を拡大して実施し、合計 30 名の学生をカリフォルニア大学リバーサイド校とオークランド大学に派遣した。
3. 短期受入プログラム（東北大学日本語サマープログラム）を開発・実施するとともに、3 日程度の研修生を特別訪問研修生として受入れた。

〔研究活動〕

研究業績：1) (分担執筆)「学生間の意味ある異文化交流を丁寧に「仕掛ける」：東北大学における実践」(第 4 章)、坂本利子、堀江未来、米澤由香子(編著) 2017 年、『多文化共修：多様な文化背景の大学生の学び合いを支援する』学文社、224 ページ、2) (共著)「東北大学における留学前日本語準備プログラムの実践報告ーオンサイトとオンラインでの施行をもとに」東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要第 3 号 239-252、3) (単著)「内なる国際化」でグローバル人材を育てるー国際共修を通じたカリキュラムの国際化一、東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要第 3 号、2017 年、41-52

招待講演：1)「Internationalization at Home:How can we globalize students' learning without sending them abroad?」、Forum on Internationalization in Higher Education: Promoting Student Mobility, Foreign Trade University, Hanoi, February 16, 2017、2)「Are you ready to survive in the globalizing society? Development of intercultural competence and international perspectives」、National Taichung University of Science and Technology, March 23, 2017、3)「日本企業が求める日本語能力と異文化コンピテンシー」、国立台中科技大学、3 月 23 日

学会発表：(共同発表) "Tohoku University's strategies to increase student mobility," , Forum on Internationalization in Higher Education: Promoting Student Mobility, Foreign Trade University, Hanoi, February 16, 2017

外部資金：(科研費) (基盤研究 C)「グローバル人材育成における国際共修：教授法の確立に向けて」(研究代表者)

その他：「国立大学改革強化事業(部局ビジョン)」プロジェクト・リーダー、「高度教養教育開発推進事業」研究プロジェクト・リー

ダー, 国際共修に関する研究会開催 (7月、1月)

〔大学運営〕

全学委員会: 人文・社会科学系学生交流実施委員会委員長、短期派遣留学実施委員会委員長、グローバル人材育成事業実施委員会副委員長、学務審議会教務委員会、国際交流委員会、国際連携推進機構、学術交流協定調査検討委員会、文系オアシス運営委員会、ロシア交流支援室、東北大学基金企画推進室、教育国際化運営委員会、日本語教育研修運営委員会

部局内委員会: 総務委員会、人事委員会、施設整備委員会、グローバルラーニングセンター副センター長

カリフォルニア大学リバーサイド校東北大学センター運営委員、ベトナム貿易大学東北大学センター運営委員、その他 (国際戦略策定WG, 高度教養教育開発推進事業WG、全学教育改革WG)

各種支援活動: 高度教養教育・学生支援機構セミナー、アドミニストレイティブ・アシスタントの選考、チューターオリエンテーション制度運用説明会、人文社会科学交換留学生オリエンテーション、日本学生支援機構奨学生オリエンテーション、交換留学説明会、短期海外研修オリエンテーション、チューター向けガイダンスの実施、留学生相談員、国際交流・留学生支援学生団体の取りまとめ、東北大学留学生協会 (TUFSA) アドバイザー、東北大学人文社会科学短期留学生受入プログラム学生支援団体 IPLANET アドバイザー、学友会顧問 (アカペラコーラス部 Del Mundo、サークル顧問 International Football Team、言語文化学習支援活動 Global Café 運営指導)

〔業務活動〕

学生支援支援: 留学相談、留学後キャリア・進学相談

機構業務: 総務委員会、人事委員会、施設整備委員会、全学教育改革WG等にて機構の運営を補佐、高度教養教育開発推進事業審査員、国立大学改革強化「部局ビジョン」事業審査員

センター業務: 派遣留学 (交換・短期)、TGLユニット長として派遣留学拡大、教育の国際化を牽引、人文社会科学系交換留学プログラム (IPLA、Deep-Bridge) 統括、東北大学サマープログラム統括、グローバルラーニングセンター副センター長として運営を補佐、各種成果報告会、説明会の統括・担当

〔社会貢献〕

各種委員等: 文部科学省科学研究費審査員 (社会科学)、宮城県多文化共生社会推進審議会 副委員長、宮城国際化協会評議員

学会活動: 留学生教育学会 理事、同学会留学生担当教職員分科会総括、異文化間教育学会研究大会実行委員長

国際交流活動: 学術交流協定締結: 欧米・アジアを中心に協定校の開拓・協定締結、協定皇都の関係構築、海外からの訪問者対応 (年間約40名)

社会教育活動: 仙台二華高等学校スーパーグローバル高校運営委員

その他: 仙台商工会議所青年部との連携促進 (協働プロジェクト等)

Frank Hansen 教授

〔専門分野〕 Functional Analysis

〔教育活動〕

Courses taught

Foundations of linear algebra Foundations of calculus

Calculus C (ordinary differential equations)

Probability and statistics

Advanced calculus for functions of several variables (introductory seminar) Supplemental lessons of calculus

In addition, I have supervised the Ph.D. studies of Guanghua Shi on leave from Shanghai Jiao Tong University.

Education support activities

Comprehensive body of teaching materials placed at the homepage of my courses, including approximately 600 color slides with illustrations and interactive animations and 60 pages of exercises for the students.

〔研究活動〕

Research

1. A note on quantum entropy. *Mathematical Physics, Analysis and Geometry* 19(7), 1-4 (2016).
2. Quantum entropy derived from first principles. *Journal of Statistical Physics* 165(5):799-808(2016).
3. An inequality for expectations of means of positive random variables (with P. Gibilisco). *Annals of Functional Analysis* 8(1):142 - 151 (2017).
4. Perspectives and completely positive maps. *Annals of Functional Analysis* 8(2):168 - 176 (2017).

Invited speaker at the international conference on Information Theory and its Applications (IGAIA IV), Liblice, Czech Republic, June 13-17, 2016. Invited contributed speaker at the 20th conference of the International Linear Algebra Society in Leuven, Belgium, July 11-15, 2016. Invited speaker at the research conference of geometric structures in quantum information based on operator theory and related topics, RIMS Kyoto University, November 9-11, 2016.

Grant-in-Aid for 2014-2017 in total of 4,420,000 yen.

渡邊 由美子 教授

〔専門分野〕 アストロバイオロジー、地球化学

〔教育活動〕

授業担当：国費留学生向け新設科目を担当。

教育支援活動：特別授業とセミナーで講演。FGL 学生の履修、進路相談。

その他：国際共同大学院の授業の一環としてファカルティレッドプログラム（フィールドワークショップ）を企画・開設し、地学専攻学部・大学院生を引率、ペンシルヴァニア州立大学、カーネギー地球物理研究所、スミソニアン博物館を訪問。ペンステートではラボセッション、フィールドトリップ、大学院生の研究発表会に参加。

〔研究活動〕

ペンシルヴァニア州立大学との共同研究が本格化し、研究者交流（受入、派遣）を実施、さらに共著での学会発表、学術誌発表をH29年度に行う予定。

〔大学運営〕

全学委員会：FGL 実施委員会・委員

各種支援活動：TIE ワークショップ・セミナーの企画・実施

〔業務活動〕

学生支援業務：留学生に対する英語での学習、生活相談支援（学生相談センター、学習支援センターと連携）。FGL 学生出身国の日経企業紹介セッション開催。

機構業務：e-Journal 編集委員会委員。

センター業務：GLC 業務：FGL プログラムコーディネーターの諸活動。（1）教員間の交流促進・連携強化（月例 FGL 教員会議開催）；（2）学部、大学院の FGL プログラム実施状況把握・分析；（3）学生リクルーティングのため、フェア参加・海外高校訪問。

〔社会貢献〕

国際交流活動：国際共同大学院(地球科学系、joint/double degree コース)のためのペンシルヴァニア州立大学と理学研究科の部局間交流協定締結。

その他：地域連携。（1）FGL コース学生及び他コースの留学生による仙台市内小学校訪問実施；（2）仙台第三高等学校生の英語での理科研究発表支援。（3）仙台市青年商工会議所との連携強化。

高橋 美能 准教授

〔専門分野〕 社会教育

〔教育活動〕

授業担当状況：「人権教育の促進」「国際理解教育の実践」（指導言語：英語）、「留学生と日本人学生の協働プロジェクト（美術館編）」「留学生と日本人学生の協働プロジェクト（博物館編）」（指導言語：日本語）の4つの国際共修科目（全学教育科目）を担当。

加えて、「海外研修」科目を担当（春期・夏期休みの短期海外研修）。その他、交換留学生の出発前研修・帰国後報告会の実施・運営。

教育支援活動：交換留学生(IPLA)の担任。

〔研究活動〕

論文：1)「海外留学促進のためのラーニングアグリーメントの導入と課題」、『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』、第2号、22-232頁、2016年、2)“Case Study of An International Joint Class With International and Japanese students: Learning Effects and Approaches taken regarding Language”“Osaka Human Sciences, “Graduate School of Human Sciences, Osaka University, 第2号、151-169頁、2016年、3)「国際共修授業における言語の障壁を低減するための方策」『大阪大学大学院 人間科学研究科紀要』、第42巻、123-139頁、2016年

口頭発表：1)「国際共修授業で留学生と日本人学生の間に『多文化共生』の関係性を高める実践方法—言語の壁を乗り越えるための方策—」、第21回留学生教育学会年次大会、2016年8月

〔大学運営〕

全学委員会：短期派遣留学実施委員会、人文・社会系学生交流実施委員会、グローバル人材育成推進事業実施委員会の委員。

〔業務活動〕

学生支援支援：学生の留学相談を担当。

高度教養教育・学生支援機構の業務：研究倫理委員会委員。

〔社会貢献〕

宮城県仙台二華高等学校スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会委員。

富田 真紀 准教授

〔専門分野〕 国際教育開発・教育評価

〔教育活動〕

授業担当：「グローバルゼミ」、「国際課題について知り、考えよう」、「海外フィールドワーク」、「海外研修」（全ての科目、前期・後期とも担当）

※上記授業の中で学生のプレゼンテーションスキル向上の必要性を実感し、29年度は「プレゼンテーション」の授業科目を新たに開講することとし、シラバス準備等を進めた。

教育支援活動：TGL プログラムアカデミックアドバイザー、グローバルリーダーコースアカデミックアドバイザー（クラス担当40名）、グローバルゼミオープンキャンパス向けセッションの指導

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著) 報告「グローバル人材育成事業におけるアクティブラーニング授業の導入による学習効果の検証 —東北大学グローバルゼミを事例として—」, 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要第3号, 2) (発表) 「学力に影響を与える要因に関する研究—PISAのタイとインドネシアを事例に—」, 国際開発学会 全国大会 (於 広島大学)

外部資金：(科研費) 基盤研究 C, 「経済水準と学校要因および家庭環境要因が学力に与える影響との関係についての研究」, 代表, 2014年～2017年

その他：受託研究(共同研究) 国際協力機構主催のフィールドスタディーツアー参加者, インターン参加者へのグローバル人材力アンケート調査 (2017年2月～)

〔大学運営〕

全学委員会：グローバル人材育成推進委員会委員

部局内委員会：GLC 幹事会オブザーバー

各種支援活動：本学学生サークル顧問

〔業務活動〕

学生支援支援：海外奨学金プログラムに応募した学生の CV やエッセイへのアドバイス、推薦状の作成

機構業務：大学入試センター業務 (2017年1月)

センター業務：オープンキャンパスにおいて、グローバルラーニングセンター主催の課外英語講座 (TEA) およびグローバルゼミのセッションを開設

〔社会貢献〕

社会教育活動：会津高校 SGH プロジェクト発表会 (招聘)

その他：広島大学客員教員 (2016年度～)

島田 和久 准教授

〔専門分野〕 国際政治学 (東南アジア)

Nurbosyn U. ZHANPEISOV 准教授

〔専門分野〕 Theoretical Chemistry

〔教育活動〕

I have had my lecture courses on Chemistry A (Fundamentals of Chemical Bond Theory), Chemistry B (Fundamentals of Physical Chemistry), Chemistry C (Fundamentals of Basic Organic Chemistry), Mineralogy & Petrology (Fundamentals of Crystalline Structures of Solids) and Fundamental Chemistry Seminar for the FGL and other registered undergraduate students. In addition, I am continuing my interactions and discussions with Professors of Department of Chemistry of the School of Science, Tohoku University.

〔研究活動〕

The results of my study are presented in International Congresses and Conferences. They are as follows:

N.U. Zhanpeisov, H. Fukumura. Organic Probe Molecule Adsorption on Extended Au (111) surface: A Theoretical DFT Study. Res. Chem. Intermed. 2017, (submitted)

N.U. Zhanpeisov. Theoretical DFT Study on Structure and Chemical Activity of Complex Catalytic Systems. Xth Workshop on Modern Methods in Quantum Chemistry (10th MMQC), Mariapfarr, Austria, March 5-10, 2017 (Invited talk).

N.U. Zhanpeisov. Structure and Chemical Activity of Selected Transition Metal and Metal Oxide Catalysts: Theoretical DFT Study. Asian Consortium on Computational Materials Science: First Principles Analysis & Experiment – Role in Energy Research (ACCMS-TM2016), Chennai, India, September 22-25, 2016 (Invited talk)

N.U. Zhanpeisov. Cluster Approach to Catalysis and New Materials Design. ICAT and BIC Symposium on Catalysis, Hokkaido University, Sapporo, Japan, August 25-26, 2016 (Invited talk).

N.U. Zhanpeisov. Theoretical Insights into the Structure and Chemical Activity of Complex Modified Catalysts. The 7th Asia-Pacific Conference on Theoretical Computational Chemistry (7th APCTCC), Kaohsiung, Taiwan. January 25-28, 2016 (Invited Lecture)

〔大学運営〕

I am a member of the Japan-Russia relations office of Tohoku University as well as FGL Implementation Committee member. I have been a Steering Committee Member at “2017 Annual Meeting of Excellent Graduate Schools for “Materials Integration Center” and “Materials Science Center”” organized by “Re-inventing Japan Project” of JSPS and Japan-Russia Relations Office of Tohoku University.

〔社会貢献〕

I am an acting Reviewer in a number of Academic Scientific Journals (The Journal of Physical Chemistry (A, B, C, Letters), Organic Letters, Journal of Organic Chemistry, Chemical Physics Letters and many others). I have been a local organizer of the “25th Anniversary Meeting of APAM” held at NICHe, Tohoku University, Sendai, Japan from April 9 to 12th, 2017. Also, I have participated in the Far-Eastern Economic Forum held in Vladivostok (September 2016) as well as in an official meeting of MEXT representative at Moscow State University (March 2017).

TRUSHIN Igor 准教授

〔専門分野〕 Mathematical Analysis and Partial Differential Equation Theory

〔教育活動〕

Courses taught: Calculus A, Calculus B, Linear Algebra A, Linear Algebra B, Mathematics Seminar, Supplementary Lessons on Calculus

〔研究活動〕

Publications:

(1) Boundary inverse problem for infinite star graph (with A. Akhtyamov), Mathematical Modeling of Processes and Systems: Materials of the Vth All-Russia Scientific-Practical Conference, dedicated to Academician A.N. Tikhonov’s 110th anniversary, Sterlitamak Branch of the Bashkir. State University, Part 2, 23-27 (2016)

(2) On Inverse Scattering on a Sun-Type Graph (with K.Mochizuki), New Trends in Analysis and Interdisciplinary Applications, Trends in Mathematics Research Perspectives, Birkhauser, Springer, 307-313 (2017)

〔社会貢献〕

Academic conferences organizer: 14th Aobayama seminar (3.3.2016)

Reviewing committees member: 7 committees

Martin ROBERT 准教授

〔専門分野〕 Life Science

〔教育活動〕

During Fiscal year 2016, I spent most of my time further developing and teaching five different courses (described below) and held at Tohoku University (Liberal Arts Education). In addition, I also taught one intensive course at Yamagata University.

Main courses (Liberal Education) - Tohoku University in 2016

1. Biology A - Essential Cell Biology (Fall, Tuesdays 10:30-12:00)

2. Biology B - Essential Biochemistry (Spring, Tuesdays 10:30-12:00)

3. Biology C - Integrative and engineering concepts in biology: Elements of Physiology and Systems biology (Spring, Wednesdays 14:40-16:10)

4. Life and Nature (Fall, Mondays 14:40-16:10)

5. Introductory seminar: Interactive short course in Marine Biology (August 28 -September 2)

Other course (Undergraduate and Graduate Education)

Yamagata University, Faculty of Agriculture (Summer 2016) – Part-time lecturer

6. Introduction to Effective Scientific Communication (Intensive course, 15 hours over 3 days in August 2016)

Educational activities

· In all courses I implemented and used interactive and online resources to share course information with students. Tools are used to stimulate student interest and interactions inside and outside the classroom and also as a platform to distribute content provided by students themselves. This lead to increased interactions and discussions complementary to what happens in class.

· Use of instructor-assigned Student Learning Assistant (SLA) system. System was arranged and used for the second, for two

of my courses to provide additional support for students and help their learning.

- I also participated in several Professional Development activities held both at Tohoku University and the University of Tokyo, that targeted activities to improve the international students experience as well as to improve the use of active-learning based methods in science education.

Professional education

- Gave a presentation and held a discussion about the development and results of our introductory seminar course at Tohoku University during a Faculty Development event in November 2016

〔研究活動〕

Presentations at conferences/seminars

1. Exploring metabolic function during bacterial colony pattern formation. Systems and synthetic E. coli biology: Annual meeting in Awaji. Awaji Yumebutai, Hyogo, Japan, March 15-17, 2017 Invited (Oral)
2. Metabolic activity and bacterial colony pattern formation. Interdisciplinary Application of non-linear science. Kagoshima, Japan November 3-6, 2016 Contributed (Oral)
3. Robert M. Visualization of metabolic dynamics during pattern formation in E. coli, FRIS Annual Meeting, 201, Sendai, Japan, February 15-16, 2017 Contributed (Poster)

Acquired Research funds

Grant-in-Aid for Scientific Research, from the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS). Basic research (Type C)

- Title: Visualization of metabolic dynamics during pattern formation in bacteria
- Amount: 4 940 000 JPY (about 45 000 USD) for 2016-2018 (3 years)
- As principal investigator

Frontier Research Institute for Interdisciplinary Science grant (Tohoku University)

- Title: Elucidation of metabolic dynamics during pattern formation in bacteria
- Amount: 2 000 000 JPY for 07/2015-03/2017 (2 years)
- As principal investigator

〔大学運営〕

- FGL recruitment workgroup (2016)
- International activities (see section 4)

〔社会貢献〕

In FY 2016, I continued to be active in academic societies, and contributed to an international conference.

Academic societies

- Member of Editorial Board of Advances in Systems Biology, 2012-
- Member of Editorial Board of Frontiers in Plant Systems Biology, 2012-

Participation in University International Exchanges and student recruitment activities

Summer school 2016 (Several High School Delegations) August 2016

- Participated in main sessions and discussions
- Made contact and discussions with participants (School Principals, teachers, and students)
- Hosted closing event

Contribution to International Affairs of Tohoku University and Academic exchanges

Continued to promote internationally our FGL educational programs as well as developing contacts, starting discussions and moving forward the development of mobility activities and agreements to expand Tohoku University's activities with existing and new international partners.

- Represented Tohoku University at the Asia-Pacific Association for International Education (APAIE 2017) in Kaohsiung, Taiwan to network with existing university partners and develop new ones
- Helped organize visit by Polytechnique-Montreal Delegation to the Faculty of Engineering of Tohoku University in March 2017
- Contributed to the realization of new student exchange agreements with the University of Toronto's Faculty of Applied Science and Engineering and UBC.
- Participation in Study in Canada Fair event at Canadian Embassy (November 2016 to promote interactions between TU and Canadian Universities
- Visited the University of Montreal to continue discussions to develop exchange activities (2016).

Others:

- ・ Held discussions/meetings with GLC/TGL program staff members to improve internationalization through increased interactions between foreign and Japanese students
- ・ Proposed ideas to facilitate and promote internationalization at various internal meetings (GLC, FGL, etc.)
- ・ Participated in International Students activities (festivals, FGL day trips, etc. both on and off campus)

田口 香織 特任准教授

〔専門分野〕 留学生キャリア支援論

坂本 友香 特任准教授

〔専門分野〕 国際教育

〔教育活動〕

授業担当：前期・後期共に全学教育科目「海外研修」を担当し、インドネシア、カナダ、ベトナム研修プログラム（担当プログラム参加者約 60 名）の企画・運営、事前・事後研修（全 5 回）における学生指導を行った。また、海外研修時には、海外協定校、保健・管理センターと連携し、異文化適応や危機管理面 などにおいて学生を支援した。

後期においては、経済学部特定専門科目「PBL プログラム」を担当し、東北大学文系四研究科に所属する学部生を対象としたベトナム海外体験プログラム（Tohoku University x Foreign Trade University Student Forum:国際ビジネス活性化を目指す学生協働プロジェクト）の立上げ、運営、学生指導及び引率を行った。

教育支援活動：高校生向け海外短期留学プログラム「入学前海外研修」参加者（15 名）をカリフォルニア大学リバーサイド校へ引率し、学生支援を行った。

〔大学運営〕

全学委員会：アニュアルレビュー2016 英語版編集ワーキンググループ委員会にオブザーバーとして参加。国際広報センター所属エディター、留学生課、課外・ボランティア活動支援センターと連携し、アニュアルレビュー英語版に掲載する大学国際教育交流、学生支援活動状況について委員会に情報提供した。

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構広報活動ワーキンググループメンバーとして活動した。

各種支援活動：国際交流オアシス（大学院文学研究科、大学院教育学研究科、大学院法学研究科、大学院経済学研究科で構成された組織）事業実施委員として活動し、東北大学国際交流オアシス海外研修（ベトナム）プログラムの開発、運営、学生指導及び引率業務を行った。

〔業務活動〕

機構業務：高度教養教育・学生支援機構広報活動ワーキンググループメンバー
センター業務：

- ・ 派遣（交換）、派遣（短期）、受け入れ、広報連携、支援ユニットメンバーとして活動
- ・ 交換留学希望者に向けた留学アドバイジング（週 1 日 2～3 時間程度）
- ・ 交換留学生に対する指導
- ・ 交換留学審査・選考・説明会実施
- ・ グローバルキャンパスサポーター（GCS）の採用・統括・アドバイジング
- ・ 新規海外研修 SAP 開発
- ・ 新規協定校開拓、交渉
- ・ 特別訪問研修生受け入れ
- ・ 外国人留学生受け入れオリエンテーションでの大学紹介、学生生活等のアドバイス、住環境における交換留学生向け情報提供
- ・ 仙台商工会議所等、外部組織との連携
- ・ 大学の広報業務及び海外協定校来訪者対応
- ・ 外国人留学生受け入れ危機管理マニュアルの整備

〔社会貢献〕

学会活動：異文化間教育学会第 38 回大会開催準備委員として活動

国際交流活動：学術交流協定締結に向けた広報活動及び交渉

その他：

- ・ NPO 法人国際教育交流協議会主催「基礎から学ぶ国際教育交流」研修講師として国際教育交流初任者向け教育プログラム実施
- ・ 学外学生団体「米国大学院学生会」の学内での説明会実施の調整

島崎 薫 講師

〔専門分野〕 日本語教育

〔教育活動〕

授業担当：全学教育科目「宮城の伝統文化を通じた日本理解」、「日本の伝統文化を通じた日本理解」(2コマ開講)、「海外研修」(夏：ニューサウスウェールズ大学、春：中正大学、ニューサウスウェールズ大学)、学部教育「日本語教育学各論」(文学部日本語教育学専修)、大学院教育「日本語教育論特論Ⅳ」(文学研究科日本語教育学専攻)

教育支援活動：留学生対象入学前準備プログラムの実施、国際交流系学生サークル@home 顧問、課外・ボランティア活動支援センターボランティア支援学生スタッフ SCRUM 国際部の活動支援

留学生等受け入れ：IPLA 学生 (前期 15 名、後期 16 名)、DEEP-Bridge 全体コーディネーター、レベル 4 アドバイザー、バイラー大学・メリーランド大学からの特別訪問研修生受け入れ補助

その他：サマープログラム TUJP コーディネーター、TUJP 教材開発、入学前準備プログラム教材開発

【研究活動】

研究業績：1) (分担執筆)「学生と学生をつなぐ：学生はどうつながり合い、そこからどう学んでいるのかを考える」、トムソン木下千尋 (編)『人をつなぐ、世界をつなぐ、日本語教育』(くろしお出版, 9 月 28 日, 5 章, pp.87-105)、2) (分担執筆)「次世代をになう大学院生ネットワーク：縦糸と横糸を編んでつながる」、トムソン木下千尋 (編)『人をつなぐ、世界をつなぐ、日本語教育』(くろしお出版, 9 月 28 日, 9 章, pp.171-188)、3) (単著)「日本文化のクラスにおけるアクティブラーニングの実践 —すずめ踊りプロジェクトでのアクションリサーチを通じた一考察—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第 2 号, pp.181-192、4) (パネル・共同発表)「実践コミュニティを越境することで、学習者は何を学んだのか? : 豪 N 大学と日本 T 大学の『食ベログ・プロジェクト』の事例」、島崎薫・小島卓也・毛利珠美・トムソン木下千尋・大川裕司「実践コミュニティを『越境』してつながる」(Bali-International Conference on Japanese Language Education 2016, 9 月 9 日~10 日)、5) (口頭発表)「地域住民との国際共修：東北大学の伝統文化での授業実践」、(第 66 回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会, 8 月 25 日~26 日)

外部資金：(その他) 日本学生支援機構留学生地域交流事業 中島記念国際交流財団助成「地域の伝統舞踊を通じた留学生の地域社会への貢献」(分担) 2016 年 5 月~2017 年 1 月

【大学運営】

全学委員会：1) 人文社会系学生交流委員会委員, 2) 日本語研修教育運営委員会委員, 3) 日本語研修教育運営専門委員会委員, 4) 国際交流オアシス事業実施委員会委員

【業務活動】

機構業務：日本語教育実施検討ワーキンググループメンバー

【社会貢献】

地域のイベントで留学生とともにすずめ踊りを披露

水松 巳奈 特任助教

【専門分野】 国際高等教育、異文化間教育

【教育活動】

授業担当状況：全学教育「【展開ゼミ】グローバルゼミグローバル社会で活躍するための国際教養—」((カレントトピックス科目：前期・後期)、「世界に飛び立そう！留学のすすめ」(カレントトピックス科目：前期)、「仙台の国際化推進プロジェクト：留学生と共に地元百貨店に貢献しよう!」(カレントトピックス科目：後期)、「海外研修」(前期集中、後期集中)

教育支援活動：

「グローバルゼミ」担当教員として年間 40 名の学生をグローバルリーダー候補として育成

- ・全学生との個別面談実施

TGLプログラム担当として約 200 名の登録学生のアドバイザー担当

- ・アカデミックアドバイジングの実施 (教科書・教材の開発, クラス担任, 学友会活動の指導等)

【研究活動】

研究業績：【論文等】1) (単著)「プロジェクト型「国際共修」が学生の自己効力に与える影響—Kolb の経験学習モデルを用いてデザインした授業に関する一考察—」, (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要 第 3 号, 115-129 頁)、2) (単著)「韓国における大学国際化への取り組み—旗艦大学における量的拡大と質的向上の観点から—」, (日本学生支援機構『留学交流』, 2017 年 1 月, 2-6 頁)、3) (単著)「留学のすすめ—アメリカ建国の地で教育を学ぶ—」, (日本学生支援機構『留学交流』, 2016 年 6 月, 48-53 頁)

【学会発表等】1) (共同) Scholar-Practitioners and the Power of Data and Research to change a Story & Improve Campus Internationalization. AIEA annual conference 2017.ワシントン DC (米国), 2017 年 2 月 21 日, 2) (共同)「グローバルという『黒船』に私たちはどのように向き合い、学生にどのように向き合わせるのか?」, 第 3 回 IEHE 教育開発セミナー, 東北大学(仙台), 2016 年 12 月 1 日, 3) (共同) Developing students' global understanding through innovative on-campus curriculum. NAFSA annual conference 2016. デンバー (米国), 2016 年 6 月 3 日, 4) (共同)「韓国の大学国際化とグローバル・キャンパスの構築」, 東洋大学スーパーグローバル大学創成事業セミナー「大学国際化と留学生リクルート・アドミッション・エンrollmentマネジメントの将来像を考える」, 東京, 2016 年 5 月 20 日, 5) (単独)「東北大学における高大接続及び高大連携の事例紹介～入学前海外研修を中心に～」, 平成 27 年度第 2 回 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援 Go Global Japan 東日本第一ブロックシ

ンポジウム「連携で育てるグローバル人材」, 東北大学 (仙台), 2016年2月16日.

その他: 1) 基盤研究 C「グローバル人材における国際共修: 教授法の確立に向けて (末松和子教授)」の研究協力者, 2)「留学生と日本人学生が共に学ぶ国際共修: 教育実践事例集」作成 (2016年3月)

〔大学運営〕

センター業務:

TGLプログラムの運営

部局連携: 経済学部、法学部 (部局でのプログラム説明、指定科目確認等)

「グローバルゼミ」の実施、選考など

TGLプログラムにかかわるガイドライン作成

各種制度の整備、アカデミックアドバイザーの実施、目標設定シートの確認

入学前海外研修の企画・広報・実施・引率

入学前海外研修の実施案作成、各種説明会の実施、案内チラシの作成・広報活動、研修参加者の選考、事前研修 (全4回) の実施、現地研修での引率

〔業務活動〕

所属業務センターの業務: オープンキャンパスでの企画・公開授業の実施

1) 入学前海外研修～先輩の体験談を聞いてみよう～、2) グローバルリーダーになるための授業を見学してみよう

〔社会貢献〕

学会活動: 異文化間教育学会第38回大会準備委員会委員, 高等教育学会第20回大会準備委員会委員

国際交流活動:

- ・PBL型国際共修授業「仙台の国際化推進プロジェクト: 留学生と共に地元百貨店に貢献しよう!」において、仙台市の百貨店と共に活動、今後も継続して共働する。
- ・SAPや入学前海外研修の事前課題として、カルフォルニア大学リバーサイド校の学生とメール交換プロジェクトを実施。現地研修の際の学生交流の円滑な運営に大きな成果があった。

中村 教博 教授

〔専門分野〕 地質学・地球電磁気学

〔教育活動〕

授業担当: 理科系・文科系・国際学士コースの自然科学総合実験、基礎ゼミ、連続セミナー“これからどうする? ”、地球環境科学概論

学位論文指導・審査: 博士課程の学生3名、修士課程の学生2名及び学士課程3名の研究指導を行った。また、博士号1名の副査、修士号1名の主査と5名の副査、学士号3名の主査と3名の副査として、学位審査に参画した。

教育支援活動: 自然科学総合実験のテキスト出版及び連続セミナー講演者の授業内容の動画撮影

留学生等受け入れ: 学術振興会特別研究員 (DC1) を指導している。また、東北大学の国際高等研究教育院の研究教育院生も指導教員及び副指導教員として指導している。さらに、リーディング大学院生1名も指導している。

その他: LAD(アカデミック・リーダー育成プログラム)の履修

〔研究活動〕

研究業績: 1) (共著) Stretched exponential relaxation of viscous remanence and magnetic dating of erratic boulders, *Journal of Geophysical Research: Solid Earth*, 121, 7707-7715, doi:10.1002/2016JB013281, 2) (共著) Inverse magnetic fabric in unconsolidated sandy event deposits in Kiritappu Marsh, Hokkaido, Japan, *Sedimentary Geology*, 349, 112-119, doi 10.1016/j.sedgeo.2017.01.003

受賞: 指導学生が日本地球惑星科学連合の学生優秀発表賞を受賞 (7月12日)

講演: 日本地球惑星科学連合学会「東北大学における文科系・理科系1年生対象の自然科学総合実験について (MG123-02) 中村教博・関根勉・須藤彰三」5月22日

外部資金: (科研費) 1) 基盤研究 (B) (平成27年～29年度)、地磁気を利用した津波性巨礫・断層破碎帯の運動履歴とその年代決定法の高度化 研究代表者, 2) 基盤研究 (A) (平成25～28年度)、SQUID顕微鏡による惑星古磁場の先端的研究の開発 研究分担者, 3) 基盤研究 (A) (平成28～30年度)、過去1000万年間の長期的な地磁気変動の解明 研究分担者

〔大学運営〕

全学委員会: 1) 学務審議会委員, 2) 同実験科目委員会委員

部局内委員会: 1) 学際融合教育推進センター長, 2) 総務委員会委員

〔業務活動〕

学生支援業務: 特別支援学生の対応

機構業務: 機構の教養教育推進ワーキンググループメンバー

センター業務：連続セミナーを実施し、国内の著名な科学社会学の研究者を招聘した。大阪大学で開催された「高度教養教育・学際融合教育に関するラウンドテーブル」に参加し、国内の教養教育の取り組みについて議論した。また、東大駒場キャンパスで開催された教養教育高度化機構シンポ「教養教育と自然科学」に参加し、教養教育としての自然科学のあり方に関する視察を行った。

部門業務：自然科学総合実験のレポート作成指導に新しくループリックによる評価を加える試みを試行した。

〔社会貢献〕

各種委員等：申川鉱山タイトオイル環境対策評価検討会委員

学会活動：地球電磁気・地球惑星圏学会の運営委員として、秋学会の開催準備・運営に従事した。地球惑星科学連合のアウトリーチ部会において、高校生によるホスター発表の事前アドバイス及び発表審査に従事した（3件）。

国際交流活動：トンガ王国の国土・環境省との共同研究の実施

社会教育活動：仙台市教育委員会主催の「夏休み大学探検 2016」に参画し、割れ目と地震に関するイベントを実施した。

芳賀 満 教授

〔専門分野〕 古代ユーラシア大陸考古学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育

- ・ 共通科目一転換・少人数科目一基礎ゼミ 「ユーラシア大陸から考える～世界を観る新しい視点～」
- ・ 共通科目一転換・少人数科目一基礎ゼミ 「自らの眼で確かめ、議論し、発表しようー「復興」を学際的に考えようー」
- ・ 展開科目一人文科学一歴史学 「History of Art in Ancient Eurasia～Diffusion of Classical Greek Art into Central Asia」
- ・ 基幹科目一人間論一人間と文化一展開ゼミ 「自らの眼で確かめ、議論し、発表しようー「復興」を学際的に考えようー」
- ・ 基幹科目一人間論一芸術の世界 「Japanese Art History」
- ・ 展開科目一カレントトピックス科目一展開ゼミ 「ギリシア・ローマ美術と仏教美術～神々の変容を追う～」
- ・ 展開科目一カレントトピックス科目一展開ゼミ 「アジアを知ろう,感じよう」(学際融合教育科目)

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著)「博物館制度の国際比較とこれから一特にイギリスの博物館認証制度を中心に」『日本考古学協会 第82回総会 研究発表要旨』(日本考古学協会,2016年5月28日,pp.174-175). 2) (共著)『西洋美術の歴史.1.古代.ギリシアとローマ.美の曙光』(中央公論新社,2017年1月31日)

講演, 学会発表等：1) (招待講演) "CYBER MUSEUM and CYBER ARCHEOLOGY for Humankind - Some proposals from an Archeological point of view -"UNESCO PERSIST(Platform to Enhance the Sustainability of the Information Society Transglobally) Meeting at Abu Dhabi, 14-16 March 2016. 2) (学会発表)「博物館制度の国際比較とこれから一特にイギリスの博物館認証制度を中心に」(日本考古学協会 第82回 総会 研究発表 セッション7「博物館法をはじめとする関連法案等の改正後の博物館・美術館のありかた」 日本学術会議 第1部 史学委員会 博物館・美術館等の組織運営に関する分科会との共催) 2016年5月29日、於東京学芸大学. 3) (招待講演、基調講演)「ユネスコ「世界の記憶」登録の意義と今後への期待」(「舞鶴への生還 1945-1956 シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」ユネスコ世界記憶遺産 登録1周年記念フォーラム) 2016年10月15日(土曜日) 於舞鶴市商工観光センター・コンベンションホール

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学務審議会 委員. 2) 同 全学教育科目委員会 基礎ゼミ委員会 委員長. 3) 同 全学教育科目委員会 基幹科目委員会 委員. 4) 同 全学教育科目委員会 人文科学委員会 委員. 5) 高度教養教育開発検討ワーキング・グループ 委員 (2015.5). 6) 東北大学附属図書館商議会商議員 (2012年度～). 7) 東北大学附属図書館本館学生用図書選書委員会委員 (2012年度～). 8) 東北大学附属図書館学術情報整備検討委員会委員 (2013年度～). 9) 東北大学附属図書館学術情報資料選定小委員会委員 (2013年度～)

部局内委員会：1) 機構内 教育内容開発部門 部門長 (2016年4月1日から2018年3月31日まで). 2) 機構内 学際融合推進センター副センター長 (2016年4月1日から2018年3月31日まで). 3) 機構内 総務委員会 委員. 4) 機構内 教育活動業績検討WG委員 (2015.12から)

各種支援活動：1) 日本学国際共同大学院プログラム構想委員会 「日本学国際共同大学院検討WG」委員. 2) 東北大学生命科学研究科 浅虫海洋生物学教育研究センター 運営委員会 委員. 3) 東北大学生命科学研究科 浅虫海洋生物学教育研究センター共同利用協議会 委員. 4) 学務審議会「研究倫理教育の開発検討ワーキング・グループ」 委員

〔業務活動〕

所属部門の業務：人間総合科学教育開発室室員として中川学准教授と正午PD会の企画・運営を行い実施した。

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 日本ユネスコ国内委員会「世界の記憶」選考委員会委員として国内外で種々の活動を行った. 2) 国際博物館会議 (International Council of Museums) 京都大会運営委員会委員. 3) 日本学術会議 連携会員、史学委員会、「博物館・美術館等の組織運営に関する分科会」委員・幹事. 4) 日本学術会議 連携会員、史学委員会「文化財の保護と活用に関する分科会」委員. 5) 日

本学術会議 連携会員、史学委員会、「アジア研究・対アジア関係に関する分科会」委員、6) 日本学術会議 連携会員、哲学委員会、「古典精神と未来社会分科会」委員

その他：1) 京都ギリシアローマ美術館理事

工藤 昭彦 総長特命教授

〔専門分野〕 農業経済学

〔教育活動〕

授業担当：＜全学教育＞

（第1セメスター）

・ 共通科目（転換少人数科目）「基礎ゼミ」「農」的世界の可能性—ポスト工業化社会の展望、「基礎ゼミ」現代世界の「食」—飽食と飢餓の構造—

・ 展開科目（総合科学（総合科目））時代の文脈からみた「食」と「農」

・ 基幹科目（社会論）資本主義と農業—世界恐慌・ファシズム体制・農業問題—

（第2セメスター）

・ 基幹科目（社会論）資本主義と農業—世界恐慌・ファシズム体制・農業問題—

・ 総合科目 環境と経済・社会の調和に関する多様なアプローチ

・ 教養教育合同講義—司会 2016年7月14日

・ 山形大学集中講義—農業経済学 2016年9月12日～14日

教育支援活動：乗馬部部長

〔研究活動〕

研究業績：（単著）「東日本大震災からの復旧・復興の課題—平成27年度農業白書を踏まえて—」2016年10月、NOSAINO・68

〔社会貢献〕

委員：みやぎ食・緑・水を創る宮城県民会議会長

講師：自治研修所中堅職員研修講師（年2回、6時間）

社会教育活動：1) 食・緑・水を創る宮城県民会議研修会講師・コーディネーター（2016年12月14日）、2) 第20回わいわい祭主催（2016年10月23日）、3) 登米市認定農業者研修会講師（2017年2月27日）

野家 啓一 総長特命教授

〔専門分野〕 哲学、科学基礎論

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「思想と倫理の世界」「哲学・倫理学」「基礎ゼミ」「展開ゼミ」

総長特命教授合同講義「大学改革と教養—人文系はいらぬのか？—」

大学院 リーディング大学院「グローバル安全学Ⅰ」

他大学 新潟大学人文学部集中講義「科学哲学への招待」、放送大学面接授業「現代哲学への招待（2）」

〔研究活動〕

研究業績：論文；1)（分担執筆）「リクールと物語り論」、『リクール読本』（法政大学出版局、2016年7月、15～26頁）、2)（単著）

「人文学のための弁明」、『学士会会報』第921号（学士会、2016年11月、18～22頁）、3)（単著）「哲学者木村敏から学んだこと」、

『現代思想』11月臨時増刊号（青土社、2016年10月、30～40頁）、4)（分担執筆）「科学の成り立ちと知の変貌」、『科学をめざす君たちへ』第4章（JST研究開発戦略センター、2017年3月、90～115頁）

著書；（単著）『歴史を哲学する』（岩波書店、2016年4月、233頁）

書評；「反原子力の自然哲学」、『アリーナ』第19号（中部大学、2016年11月、639～644頁）

招待講演：1)「高橋里美哲学のポテンシャル」、国際高橋里美研究会、於東北大学文学研究科、2016年8月19日、2)「精神医学と哲学のあいだ」、新潟大学人文学部講演会、於新潟大学人文学部、2016年9月28日、3)『私』の制作—＜歴史の物語り論＞の視点から、愛知県立大学学術講演会、於愛知県立大学、2016年10月15日、4)「因果律なんて要らない？」、電気通信研究所共同プロ

ジェクト研究会「科学の客観性」、於東北大学電気通信研究所、2016年11月25日

コメンテーター：河合臨床哲学シンポジウム「人称—その成立とゆらぎ」、河合文化教育研究所、於東京大学弥生講堂一条ホール、2016年12月11日

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学務審議会委員

部局内委員会：1) 高度教養教育・学生支援機構 出版・図書・資料委員会委員

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 人間文化研究機構教育研究評議員、企画戦略会議委員、機構長選考会議委員、2) 総合地球環境学研究所運営委員、

3) 日本学術会議連携会員、哲学委員会委員、4) 京都賞選考専門委員会委員長、5) コスモス国際賞選考専門委員会委員、6) 学術振興会博士課程リーディングプログラム委員会専門委員、7) 東北大学学位プログラム推進機構リーディングプログラム部門評価助言委員、8) 宮城県仙台第一高等学校評議員
学会活動：1) 日本哲学系諸学会連合委員長、2) 東北哲学会会長、3) 日本哲学会評議員、4) 科学基礎論学会理事、5) 日本現象学会委員、6) 日本ホワイトヘッド・プロセス学会理事、7) 科学哲学会編集委員
国際交流活動：日本学術振興会外国人招聘研究者受け入れ責任者
社会教育活動：仙台一高 SSH 特別授業講師

吉野 博 総長特命教授

〔専門分野〕 建築環境工学

〔教育活動〕

授業担当：1) 全学教育

- ・自然と環境：前期2コマ、後期2コマ
- ・基礎ゼミ：前期2コマ
- ・展開ゼミ：後期2コマ

- 2) 東北大学にて、大学院講義「建築環境性能評価論」6/30を非常勤講師として実施
- 3) 前橋工科大学にて集中講義「住宅の気密性能と換気計画」(12/15)を客員教授として実施
- 4) 秋田県立大学にて集中講義「サステナブルな建築環境の創造」(11/17)を客員教授として実施
- 5) 浙江大学にて集中講義“Green Buildings”を8回(10/13,14,15(2回),11/3,4,5,6)実施

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著) 仙台市内の応急仮設住宅における室内真菌汚染の実態、日本建築学会技術報告集、第22巻、第51号、615-620、2016年6月、2) (共著) 福祉施設の節電効果に関する要因分析—非住宅建築物の環境関連データベース(DECC)構築に係る調査結果の分析—、日本建築学会技術報告集、第22巻、第51号、645-650、2016年6月、3) (共著) 中国都市部住宅のエネルギー消費原単位とCO₂排出量の経年変化、日本建築学会環境系論文集、第81巻、第726号、731-738、2016年8月、4) (共著) 仙台市内の応急仮設住宅の温熱環境の実態と環境改善に向けた提案、日本建築学会環境系論文集、第82巻、第731号、19-29、2017年1月、5) (共著) Desiccant Heating Ventilating, and Air-Conditioning Systems, Springer, 2017、6) (共著) Chemical Sensitivity and Sick-Building Syndrome, CRC Press, 2017

招待講演：1) The Sustainable Built Environment Conference 2016, November 6, 2016, Chongqing, China, Indoor Thermal Environment and Energy use in Urban Residential Buildings in China

外部資金：1) (科研費) 基盤研究 (C)、「脳卒中死亡に関連する住環境要因のインパクト評価と改善策の提案」(代表)、2014~2016年度、2) (科研費) 基盤研究 (B)、「原発事故後の建築のための居住空間内γ線空間線量率予測法の確立」(分担)、2016~2018、3) (科研費) 基盤研究 (B)、「中国における循環器系疾患の死亡に対する住環境要因の関連性評価と防止対策の提案」(代表)、2016~2018

その他：ISO/TC163/SC1/WG10のConvenorとして「建物の気密性能試験法」などのISOを取りまとめ。

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 一般社団法人 日本サステナブル建築協会の会長を務め、CASBEE 戸建認証委員会委員長などとして活動した。

2) 国立保健医療科学院評価委員を務める。3) 任意団体「住まいと環境 東北フォーラム」の理事長として、シンポジウム、講習会、見学会などの社会貢献活動に従事した。

学会活動：1) 日本学術会議の三部の会員であり、土木工学建築学委員会の委員長、低炭素社会健康分科会の委員長を務めた。また、他の三つの分科会の委員として活動した。2) 臨床環境医学会副理事長を務めており、その関連で年次大会、理事会等にて役目を果たした。

国際交流活動：アジア学術会議の事務局長(日本学術会議が事務局)を務め、2016年6月にコロンボで開催される年次会議に貢献した。

座小田 豊 総長特命教授

〔専門分野〕 哲学

〔教育活動〕

授業担当：教養教育院における

哲学・倫理学 1・2セメスター 各1コマ担当

思想と倫理の世界 1・2セメスター 各1コマ担当

基礎ゼミ 1セメスター 1コマ担当

展開ゼミ 2セメスター 1コマ担当

〔研究活動〕

研究業績：1) (共同監訳) W・イェシュケ著『ヘーゲルハンドブック』(知泉書館、2016年6月29日、全727頁)(6人による共同監訳)、2) (単著)「シンポジウム総括」(『ヘーゲル哲学研究 22号』、こぶし書房、2016年12月、100-105頁)

〔大学運営〕

大学運営：「社会にインパクトある研究」研究推進室アドバイザー
全学委員会：学務審議会委員など

官岡 礼子 総長特命教授

〔専門分野〕 数学

〔教育活動〕

授業担当：1. 線形代数学 A (理学部 1 セメ) 2. 線形代数学 B (理学部 2 セメ) 3. 基礎ゼミ (統計学入門) 4. 基礎ゼミ (数理生物学入門) 5. 解析学 D (工学部 3 セメ) 6. 展開ゼミ (数学と諸分野の連携)

1, 2は通常の理工系初年度教育として、毎回小テストをするなどの工夫をしながら行っている。3, 4は20名程度の学生主体の授業で、1冊の本を、テーマごとに数グループに分けて学習し、その成果を発表させて行う。5は2年時の複素解析であり、留数計算を目標に行っている。6は3名が受講し、各自数学の関わる分野を一つ決め(今回は、暗号、渦の研究、画像解析)、学習したことを発表させた。ゼミ形式の3, 4, 6については学生の学習意欲を高めて自主的に学ぶことを重視して行った。

その他：幾何学序論 B (理学部数学 3 セメ) 担当, 大学院理学研究科 D 2 指導 1 名

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著)「Hamiltonian Non-displaceability of Gauss Images of Isoparametric hyper surfaces」, (Bull. Lond. Math. Soc. 48-5 (2016), 802-812. 2) (単著)「Hamiltonian non-displaceability of the Gauss images of isoparametric hypersurfaces (a survey)」, Springer Proceedings in Math. and Stat. ``Hermitian-Grassmannian Submanifolds (印刷中) . 3) (単著) Errata of ``isoparametric hypersurfaces with $(g,m)=(6,2)$ '' Annals of Math. 133- 3 (2016),1057-1071. 4) (単著) 現代幾何学への招待 サイエンス社 (2016 4 月), SGC ライブラリ 1 2 4, 134 ページ.

招待講演：1)「Hamiltonian non-displaceability of the Gauss images of isoparametric hypersurfaces」, UK-Japan Winter School "Singularities, Symmetries and Submanifolds, 2017 年 1 月 6 日 Univ.College London (ロンドン, イギリス), 2)「Hamiltonian non-displaceability of the Gauss images of isoparametric hypersurfaces」 北京師範大学, 2016 年 9 月 2 日 Geometry Seminar (北京, 中国), 3)「Hamiltonian non-displaceability of the Gauss images of isoparametric hypersurfaces」 Colloquium 2016 年 9 月 5 日 清華大学 (北京, 中国), 4)「Hamiltonian non-displaceability of Gauss images of isoparametric hypersurfaces」 The 20th International Workshop on Hermitian Symmetric Spaces and Submanifolds 2016 年 7 月 29 日, 慶北大学 (大邱, 韓国), 5)「Hamiltonian non-displaceability of Gauss images of isoparametric hypersurfaces」 幾何セミナー, 2016 年 10 月 28 日 首都大学東京 (東京)

外部資金：(科研費) 1) 基盤研究 B「可積分幾何の新展開」(代表), H27/4 月-H32/3 月, 2) 挑戦的萌芽研究「幾何学的値分布論」(代表), H26/4 月-H29/3 月.

〔業務活動〕

部門業務：特別講義 (4/11), 合同講義(7/14) パネラー：学生からの質問にすべて回答し、後日冊子にまとめている。

〔社会貢献〕

各種委員：学術会議連携会員, JST 領域アドバイザー 2 件, JSPS 関係審査委員, 女性科学者に明るい未来をの会評議員, 京大数理研運営・専門委員, 明大先端インスティテュート運営副委員長：これらの会議に出席し、審査、評価、運営、要望書の作成などに携わった。

学会活動：日本数学会会員

国際交流活動：1) 東北大学 知の館 H28 プロジェクト ``Modern Interaction between Algebra, Geometry and Physics'' (H28/4-7 月) の組織委員として 3 つの国際研究集会を企画運営した。2) 第 2 回日中幾何学研究集会の組織委員を勤め、9 月に中国福州で研究会を開催した。3) Dongrun-Yau Science Award (Mathematics) 審査委員を勤めた (H28/12 月, 清華大学 中国)

米倉 等 総長特命教授

〔専門分野〕 開発経済学、地域研究、農業経済学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「歴史と人間社会」(1 セメ、2 セメ)「経済と社会」(1 セメ、2 セメ)、「基礎ゼミ」(1 セメ)、「展開ゼミ」(2 セメ)、農学部授業「開発経済学」

学位論文指導・審査：(ボランティアで)中国人留学生の博士論文指導、インドネシア人留学生の修士論文指導を行った。

教育支援活動：仙台二華高校において、高校教育の国際化(SGH プログラム)の支援活動を行う。

留学生等受け入れ：ヒューマンセキュリティプログラムにおける学生指導(留学生受け入れ業務、オリエンテーション)およびゼミ

ナーの実施

〔研究活動〕

研究業績：1) (分担執筆)「ソロン・エヴェンキの一村(ガチャー)にみる請負制度導入後における親族集団の新たな役割とその編成」『農業経済研究報告』48号 1-23ページ(2017年2月)、2) (単著)「AECの発足とインドネシア農業」『国際農林業協力』39巻2号 25-34ページ(2016年11月)。

招待講演："Human Security Study in Tohoku University", Tohoku University Environmental Studies Seminar 2017 in ITB, Indonesia, February 27, 2017

外部資金：科研費 基盤研究(C)「インドネシア高地におけるファームシステムを選択要因とその効果の解明」(分担)(研究代表者：宮城大学、川島滋和准教授)、2014-16年度

〔業務活動〕

所属部門業務：教養教育院において、「年報」作成、『読書の年輪』執筆を担当

〔社会貢献〕

学会活動：日本農業経済学会・国際委員会委員、紀要・学術誌等の投稿論文査読

国際交流活動：ブラウイジャヤ大学、ボゴール農科大学、バンドン工科大学等を訪問、国際交流について意見交換。

社会教育活動：高校教育の国際化(SGHプログラム)の支援活動

葛生 政則 准教授

〔専門分野〕 農業経済学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「経済と社会」、「経済学」

その他：1)「第10回東北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップ」(2016年11月)の企画・運営に参加、2)「平成28年度基礎ゼミ成果発表会」(2016年9月)の企画・運営に参加、3)「第11回東北大学全学教育FD」(2017年3月)の企画・運営に参加

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著)「2000年代におけるバーデン・ヴュルテンベルク州の農業構造と農業構造政策」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第3号(2017年3月)101-114頁、2) (編集)東北大学学務審議会・東北大学高度教養教育・学生支援機構『第10回東北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップ—報告書—』(2017年2月)を編集

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学務審議会教育情報・評価改善委員会推薦委員、2) 基礎ゼミ委員会専門委員、3) 基幹科目委員会専門委員

田嶋 玄一 准教授

〔専門分野〕 動物生理学、科学教育

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「文科系のための自然科学総合実験」(担当代表)、「自然科学総合実験」(課題担当、曜日責任者)、「生命科学A」(医学部保健学科、工学部)、「生命と自然」

教育支援活動：『自然科学総合実験2017』(編集委員、編集実務担当、「はじめに」、第10、11章の改訂)、G-30クラス用『Introductory Science Experiments 2017』(編集担当)、「H28年度自然科学総合実験アンケート報告書」理系の自然科学総合実験および文科系のための自然科学総合実験のアンケート結果の解析、およびレポート再提出指導の効果について分析を行い、報告書を作成した。

〔大学運営〕

全学委員会：1) 情報システム部局実施責任者、2) 環境保全センター業務委員会委員、3) 学務審議会実験科目委員会実施委員会委員、4) 同 計画委員会委員、5) 遺伝子組換え実験安全主任者

各種支援活動：1) 研究倫理教育の開発検討ワーキング・グループ委員

〔業務活動〕

機構業務：情報システムのセキュリティについて情報基盤運用室からの情報を随時機構内にアナウンスし注意喚起している

部門業務：自然科学総合実験の実施・運営(定例ミーティング、実験棟および実験機器類の維持管理、担当教員・TAへのFDの実施など)

藤本 敏彦 准教授

〔専門分野〕 運動学、運動生理学、体育授業設計

〔教育活動〕

授業担当：全学教育 スポーツA「卓球」7コマ、スポーツB「卓球」1コマ、スポーツB「フィジカルトレーニング」2コマ 企画・運営、スポーツB「武道」2コマ企画・運営、体と健康「身体の文化と科学」(2/15担当)、生命と自然「身体運動のしくみ」1

コマ、基礎ゼミ「運動とこころ」1コマ、展開ゼミ「こころと体の健康をつなぐ」1コマ

教育支援活動：スポーツAハンドブック作成、高度教養教育開発推進事業参加

その他：教養教育特任教員（兼任）、大学教育支援センター・プログラム研究開発員

〔研究活動〕

原著論文：1) (共著) The effect of hip-hop dance training on neural response to emotional stimuli. 体力研究 114、明治安田厚生事業団、2016年4月30日、pp20-29.

資料：1) (共著) 大学生における運動部活動参加の有無による精神的健康度の相違. 体力研究 114、明治安田厚生事業団、2016年4月30日、pp42-46.

学会発表：1) バランスマット上における足関節モーメントと筋活動に関する考察. 第46回日本臨床神経生理学会学術大会. 2016年10月、福島県郡山市. 2) 大学生における運動部活動の参加は学生生活の不安を軽減させるか？第71回日本体力医学会大会. 2016年9月、盛岡市. 3) 運動部活動実施による大学生の1年間の体力と精神的健康度、ストレス対処能力の変化. 日本体育学会第67回大会. 2016年8月

外部資金：1) (科研費) 基盤研究(A)「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究、(分担)、研究期間 2014-2017、2) (科研費) 基盤研究(B)「運動が認知機能を高める機序の解明：PET ドーパミンの神経伝達からの検証、(分担)、研究期間 2016-2018

共同研究：フィンランド Turku PET Center. 「INCREASING EXERCISE INTENSITY INCREASES GLUCOSE UPTAKE IN HUMAN BONE MARROW」投稿中.

〔大学運営〕

全学委員会：1) 基礎ゼミ委員会

部局内委員会：1) 機構研究倫理委員会

各種支援活動：1) 教育関係共同利用拠点プログラム「体育を通してみる人間教育」、2) 大学教育支援センター・プログラム研究開発員

〔業務活動〕

部門業務：人間総合科学教育開発室長

〔社会貢献〕

各種委員等：仙台市指定管理者選定委員会委員

学会活動：日本体育学会東北地域理事

社会教育活動：1) 丸森町平成28年度健康と福祉のつどい・健康づくり講演会「脳もからだも元気に」～認知症予防と効果的な運動～、2) 栗原市健康まつり「地域ぐるみですすめる健康づくりと介護予防」～健康寿命を延ばそう～「日常生活に運動を取り入れよう」

中川 学 准教授

〔専門分野〕 日本近世史

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「東北大学を学ぶ」(3コマ)、「History of Tohoku University」、「基礎ゼミ フィールドワークの日本史」、「アジアを知ろう、感じよう」(芳賀満教授と共同)、「東北大学のひとびと」(分担)。

教育支援活動：高度教養教育開発推進事業「初年次のレポート作成とその指導を支援する共通教材の開発」WG(菅谷奈津恵、佐藤智子、串本剛、吉植庄栄、中川学)により『東北大学レポート指南書』(2017)を編集・刊行。

その他：東北大学サマープログラム(TUJP)「Time Travel, Tohoku University」(2016.7)を担当。

〔研究活動〕

研究業績：(単著)「授業と連携したライティング支援の試み」『学習支援センター(SLAサポート)年次活動報告書』, 17-20頁, 2016年

外部資金：(科研費) 基盤研究(C)、「神社争論をめぐる紛争解決システムの研究」(代表), 2016-2018

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学務審議会委員、2) 広報連絡員、3) 学務審議会基礎ゼミ委員

部局内委員会：出版・図書・資料委員会委員、機構教養教育WG委員

各種支援活動：学術資源研究公開センター運営専門委員会・史料館部会委員

〔業務活動〕

機構業務：正午PD会の企画・実施(計14回)。

センター業務：学習支援センター副センター長(運營業務とその改善等)。

〔社会貢献〕

学会活動：東北史学会評議員、宮城歴史科学研究会委員

その他：NPO 法人・宮城歴史資料保全ネットワーク理事

山内 保典 准教授

【専門分野】 認知心理学、科学技術社会論

【教育活動】

授業担当：全学教育「フィクションで正義を考える」（基礎ゼミ）、「社会の中の科学技術」（基幹）、「あなたの選択」（基幹）、汎用的技能ワークショップ（基幹・展開ゼミ）を新規開講

教育支援活動：2017年4月に新入生に配布された教材「東北大学 学習・研究倫理教材 Part 1 あなたならどうする？：誠実な学びと研究を考えるための事例集」を執筆

その他：東北大学新任教育プログラム修了

【研究活動】

研究業績：（分担執筆）「さんかく△テーブルへの招待」「現代美術で哲学対話」、『触発するミュージアム：文化的公共空間の新たな可能性を求めて』（あいり出版社、2016年5月1日、208-212、189-207）

外部資金：（科研費）若手研究 B、「オープン教材を普段使いできるようにする学習支援体制の構築」（代表）、2015-2016

その他：東北大学「社会にインパクトある研究」の「E1：心に豊かさを灯す社会の創造」への参画。スタートアップ WS（第一部）の設計・実施

【大学運営】

全学委員会：1) 公正な研究活動推進室員、2) 軍事関係機関からの研究公募等に関する対応検討 WG 委員、3) 研究倫理教育の開発検討 WG 委員

部局内委員会：研究倫理委員会委員

【業務活動】

センター業務：1) 連続セミナー「これからどうする？：科学技術と社会」の企画・運営、2) 学際融合教育型授業の開発・実施、3) 正午 PD 会の運営

【社会貢献】

1) 一般財団法人理数教育研究所の広報誌にて、科学技術と社会に関する連載、2) 平成 28 年度 八尾柏原藤井寺 3 市合同初任若手小学校教員研修「理科からはじめる学び合い」にて、ワークショップ設計・実施担当

高橋 禎雄 助教

【専門分野】 日本思想史・近代大学史

【教育活動】

授業担当：全学教育科目基幹科目「人間と文化 概説東北大学史－制度と思想－」（5 コマ）

全学教育科目展開科目「歴史学－日本近世思想の歴史的展開－」（1 コマ）

【研究活動】

講演：「兵学者、長沼澹斎の知－『兵要録』に着目して－」（新たな古典学としてのリテラシー史研究－多分野融合による可能性を求めて－日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画研究集会「シンポジウム 新たな古典学としてのリテラシー史研究」2016年9月10日・11日）

コメント：金錫根（嵯山政策研究院・韓国学研究中心長）「韓国における丸山眞男の思想・学問の受けとめられ方」へのコメント「韓国政治思想史における正統と異端並びに民衆理解」第 10 回「東アジア<靈性>・<平和>研究会」（2017年2月15日）

【大学運営】

全学委員会：学務審議会基礎ゼミ専門委員会委員

【社会貢献】

学会活動：日本文芸研究会常任委員・総務委員会委員

社会教育活動：東北大学文学部同窓会監事

太田 宏 助教

【専門分野】 動物生態学、両生爬虫類学

【教育活動】

授業担当：全学教育：自然科学総合実験、文科系のための自然科学総合実験、学部専門教育：生態学実習、進化学実習

教育支援活動：

文科系のための自然科学総合実験の新テーマの開発

（分担執筆）『自然科学総合実験 2017』、東北大学出版会

アニメーション研究会 顧問、園芸部 顧問

〔研究活動〕

研究業績：1) (分担執筆)「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査 報告書」, (仙台市, 平成 29 年 3 月, 両生類、爬虫類に関する部分)

〔業務活動〕

部門業務：自然科学総合実験の運営に関する業務を行った。

〔社会貢献〕

各種委員等：宮城県希少野生動植物保護対策検討会委員 (両生・爬虫類分科会長), 国土交通省河川水辺の国勢調査アドバイザー, 環境省希少野生動植物種保存推進員, 宮城県環境影響評価技術審査会委員, 仙台市自然環境基礎調査検討会委員

学会活動：日本爬虫両棲類学会 標準和名選定委員会委員

社会教育活動：登米市環境教育リーダー育成講座 講師

岡 壽崇 助教

〔専門分野〕放射線化学, 放射線生物影響, 放射化学, 陽電子科学

〔教育活動〕

授業担当：

- ・全学教育 文系のための自然科学総合実験 (文, 教育, 法, 経済, 1 セメスタ), 自然科学総合実験 (医歯, 1 セメスタ), 自然科学総合実験 (工, 2 セメスタ)

- ・学部専門教育 課題研究 I (6 セメスタ), 課題研究 II (7, 8 セメスタ)

- ・大学院教育/修士課程 課題研究 (MC1, MC2 年通年), セミナー (MC1, MC2 年通年)

- ・大学院教育/博士課程 先端理化学特別研究 (DC1, DC2, DC3 年通年), 先端理化学特別セミナー (DC1, DC2, DC3 年通年)

学位論文指導：東北大学大学院理学研究科化学専攻放射化学研究室・環境放射化学研究室の修士 2 名, 修士 4 名および博士 2 名の指導を行った。

教育支援活動：「自然科学総合実験 2016」(分担執筆), 自然科学総合実験英語ホームページの作成

その他：指導学生が優秀講演賞などの発表賞を国内会議で 2 件受賞した。

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著)「放射線による新しい DNA 損傷過程の提案」, 放射線化学, 101, 13 (2016), 2) (共著)「90Sr in teeth of cattle abandoned in evacuation zone: Record of pollution from the Fukushima-Daiichi Nuclear Power Plant accident」, Scientific Reports, 6, 24077 (2016), 3) (共著)「Degradation of electron-irradiated polyethylene studied by positron annihilation lifetime spectroscopy」, Journal of Physics: Conference Series, 791, 012026 (2017), 4) (共著)「X-ray absorption spectroscopy」, in 「DNA Engineering: Properties and Applications」, Kenji Mizoguchi and Hirokazu Sakamoto (Eds.), 87-94, CRC Press (2016)

受賞：1) (指導学生) 第 53 回 アイソトープ・放射線研究発表会若手優秀講演賞, 「福島第一原発事故被災ウシの骨組織中の Sr-90 及び Cs-137 の測定」, 2016/7/6-8, 2) (指導学生) 日本放射線影響学会第 59 大会 優秀発表賞, 「福島第一原子力発電所事故被災サルの歯, 骨中 90Sr の測定と骨髄線量の推定」, 2016/10/27

講演等：1) 「歯の炭酸ラジカル測定による生涯被ばく量推定」, 第 33 回無機・分析化学コロキウム, 2016/6/3-4, 東北大学川渡共同セミナーセンター, 2) 「放射線照射高分子のナノ構造評価」, 共用・計測合同シンポジウム 2017 先端計測研究と共用推進による材料イノベーション, 2017/3/9, つくば

外部資金：(文科省) 英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業, 研究分担者

(科研費) 基盤研究 (B), 「クラスター DNA 損傷に対する細胞内修復動態と損傷の局在化メカニズム」, 研究分担者

(科研費) 基盤研究 (B), 「歯を用いた内部被曝量のスクリーニング」, 研究分担者

(科研費) 基盤研究 (C), 「歯を用いた内部被曝量・被曝歴の解析」, 研究分担者

(科研費) 基盤研究 (C), 「量子ビーム処理した多糖類のゲル化メカニズムの解明」, 研究分担者

(科研費) 挑戦的萌芽研究, 「放射線 DNA 損傷を増感させるアンテナ分子の探索」, 研究分担者

(科研費) 挑戦的萌芽研究, 「ヒトの歯を用いた低線量長期外部被曝量の測定」, 研究分担者

〔大学運営〕

部局内委員会：東北大学自然科学総合実験 実施委員会 委員, 計画委員会 委員

〔業務活動〕

部門業務：理系・文系向けの自然科学総合実験の実施・運営

〔社会貢献〕

各種委員等：

- ・公益社団法人日本アイソトープ協会 アイソトープ・放射線研究発表会 幹事

- ・公益社団法人日本アイソトープ協会 第 26 期理工学部会 放射線利用若手理解促進専門委員会委員

学会活動：

- ・日本放射線化学会 理事, 編集委員会委員
- ・日本陽電子科学会 会報刊行委員会副委員長
- ・International Electrotechnical Commission TC 112 国内委員会 WG2 委員・国際エキスパート・アシスタントプロジェクトリーダー

国際交流活動: JST・さくらサイエンスプランで来日した陽電子科学研究を行う中国人学生 7 名および国内研究者の研究交流のために仙台でワークショップ「2nd Positron and Positronium Seminar for Students」を開催した。

小俣 乾二 助教

〔専門分野〕 化学・有機化学

〔教育活動〕

授業担当: 「自然科学総合実験」, 「文科系のための自然科学総合実験」

〔業務活動〕

自然科学教育開発室業務: 自然科学総合実験の運営 (ミーティング, 実験装置の管理)

永尾 翔 助教

〔専門分野〕 素粒子・原子核物理

〔教育活動〕

授業担当: 「文科系のための自然科学総合実験」 (全学教育)

学位論文指導・審査: 修士学生 2 名、学士学生 1 名の論文指導

その他: 「基礎物理学実習」 (東北医科薬科大学) 非常勤講師

日本物理学会 2016 年秋季大会学生ポスターセッションに参加する仙台二華高等学校物理部の生徒に対する研究内容及びポスター作成に関する指導

〔研究活動〕

研究業績: 1) (共著) 「Near threshold angular distribution for the $2H(\gamma, \Lambda)X$ reaction」, (PTEP, 2016/6/30, 2016, 063D01),

2) (共著) 「Spectroscopy of the neutron-rich hypernucleus $7\Lambda Li$ from electron scattering」, (PRC, 2016/8/12, 94, 021302),

3) (共著) 「Ground-state binding energy of $4\Lambda H$ from high-resolution decay-pion spectroscopy」, (NPA, 2016/10, 954, 149-160)

受賞: 1) 原子核談話会新人賞, 原子核談話会, 2016/10/7, 2) Springer Theses Award, Springer, 2017/1/13

〔業務活動〕

部門業務: 自然科学教育開発室の運営 (定例ミーティング等) 理系・文系向けの自然科学総合実験の実施・運営

高柳 栄子 助教

〔専門分野〕 炭酸塩堆積学・地球化学

〔教育活動〕

授業担当: 専門科目「自然科学総合実験」, 専門科目「古生物学実習」

学位論文指導: 学士 3 名 (副査 3 名)

留学生等受け入れ: 留学生 2 名

〔研究活動〕

論文等: 1) (共著) A Causal Link Between Paleoenvironmental Dynamics and Borehole Instability in a Cenomanian Carbonate Reservoir, Offshore Abu Dhabi. In Abu Dhabi International Petroleum Exhibition & Conference. Society of Petroleum Engineers., 2) (共著) Carbon and Oxygen Isotope Records from Tridacna derasa Shells: Toward Establishing a Reliable Proxy for Sea Surface Environments. PLoS ONE 11(6): e0157659., 3) (共著) Changes in the depth habitat of the Oligocene planktic foraminifera (*Dentoglobigerina venezuelana*) induced by thermocline deepening in the eastern equatorial Pacific. Paleogeography 31, 715-731., 4) (共著) 続成作用による腕足動物殻の初生的化学組成の保持・変更の判定基準の見直し. 号外海洋 56, 27-35.

受賞: 日本地質学会小藤文次郎賞 (2016 年 9 月)

科研費: 1) 基盤研究 (B) 「タイ国産腕足動物化石の炭素・酸素同位体組成を用いた石炭紀〜ペルム紀の古環境復元」 (分担),

2) 基盤研究 (B) 「全球凍結からカンブリア爆発へ: 地球環境変動と生態系進化のリンケージ解明に向けて」 (分担)

受託研究: 1) Exp.356 過去 500 万年間のオーストラリア (代表)

〔業務活動〕

機構業務: 高度教養教育・学生支援機構自然科学教育開発室のメンバーとして, 自然科学総合実験の運営, ならびに同実験における来年度以降の運営準備・計画を行った。

〔社会貢献〕

地質学会代議員, 地球環境史学会評議員 (庶務)

伊藤 弘毅 助教

【専門分野】 光物性物理学

大下 慶次郎 助教

【専門分野】 物理化学

【教育活動】

授業担当: 全学教育「自然科学総合実験」, 「文科系のための自然科学総合実験」

【業務活動】

自然科学教育開発室業務: 理系・文系向けの自然科学総合実験の実施・運営

佐藤 智子 准教授

【専門分野】 社会教育・生涯学習論、教育行政学

【教育活動】

授業担当: 基礎ゼミ、基幹科目「人間と文化」(前・後期)

教育支援活動: 東北大学学習・研究倫理教材 Part.2『東北大学レポート指南書』執筆(分担執筆)

その他: 学習支援センターSLAに対する学習支援者研修実施・研修プログラム開発

【研究活動】

研究業績: 1)「CBL(Community-Based Learning)の意義についての一考察: 地域や社会で学ぶことはなぜ有効なのか」, 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』, 第3号, 2017年, pp.183-190. 2)「30年後の社会教育はどこに向かうのか?」, 『社会教育』, No.841(7月号), 2016年, pp.20-21.

発表: 1) 若手ネットワーク企画「コミュニティスクール研究」を題材とした書評会での評者、日本教育行政学会第51回大会(2016年10月7日)、2)「都市における公民館再編の動向: 市長部局と教育委員会の連携・分担による管理運営の実態」日本教育行政学会第51回大会(2016年10月9日)

招待講演等: 「シティズンシップ教育ミーティング」(2017年3月19日、立教大学)、分科会第5セッション「シティズンシップ教育の社会的意義を『評価』でどう表現するか?」での報告

外部資金: (科研費) 若手B, 「都市公民館再編の実態とコミュニティ・ガバナンスへのインパクト」(代表), 2015-2017年.

【大学運営】

部局内委員会: 1) 研究倫理教育の開発検討ワーキング・グループ委員、2) 高度教養教育・学生支援機構教養教育推進ワーキング・グループに参加

【業務活動】

学生支援: 1) 学習支援センターSLAへの活動支援・研修業務、2) 学習支援センター業務における連携支援(附属図書館、自然科学教育開発室、各業務センターなど)

センター業務: 学習支援センターの運営(定例ミーティング、予算管理、SLA事業の運営体制維持管理など)

【社会貢献】

各種委員等: 1) 西宮市社会教育委員、2) 尼崎市公民館運営審議会委員、3) 尼崎市総合計画審議会委員

学会活動: 日本教育行政学会研究推進委員

社会教育活動: 1) 尼崎市「みんなの尼崎大学」キックオフシンポジウム(2016年11月26日~27日)での分科会コーディネーター

足立 佳菜 助手

【専門分野】 道德教育史、学習支援(高等教育)

【教育活動】

授業担当: 全学教育 基礎ゼミ『自分』×『学問』~<<はじめの一步>>サポートゼミ~を担当(前期開講・2単位)。業務センターとの連関の下、学生参画型授業を企画・開発。

【研究活動】

発表: 1) (共同)「学習支援に従事する学生の成長段階に関する考察」大学教育学会第38回大会(2016年6月12日)

論文: 1) (共著)「学習支援者のための「振り返り」観点とプロセスの創出—東北大学学習支援センターのSLA実践を事例として—」『大学教育学会誌』第38巻1号, 2016年5月, 127-136ページ

図書: 1) (共編著)『増補改訂版 学校を考えるっておもしろい!! 教養としての教育学~TAと共に創るアクティブ・ラーニングの大規模授業~』東北大学出版会、2017年3月

科研費: 1) 基盤研究(A)「グローバル社会におけるコンピテンションを具体化する高度教養教育の開発研究」(分担)

〔業務活動〕

学生支援業務：学習支援センターにおける学習支援活動の企画・運営、学習支援スタッフの採用・育成、学生からの質問対応（一部）。
機構の業務：大学教員準備プログラム（PFFP）および新任教員プログラム（NFP）における「マイクロティーチング」「模擬授業」のファシリテーターを担当。

センター業務：学習支援センターのセンター員を務め、企画・運営全般に従事。

〔社会貢献〕

社会教育活動：1) 国際基督教大学主催「ICU アカデミックプランニング・センター 学生ピア・アドバイザー夏季特別集中研修」講師（2016年6月28日）、2) 全国歯科技工士教育協議会主催新任教員講習会「教育評価」（講師）（2016年8月3日）

猪股 歳之 准教授

〔専門分野〕 教育社会学・高等教育論・キャリア教育

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「ライフ・キャリアデザインⅢ」、「フィールドワーク実践：地域とビジネス」、「（展開ゼミ）新聞から見た現代社会論」、「（展開ゼミ）東北のくみらい」を創る新聞論、「社会学（現代大学論）」／授業開設への取り組み：生命科学研究科「キャリアデザインセミナー」、文学部「キャリアデザイン講座」

〔研究活動〕

学会発表：1)（共同発表）「高等教育機関におけるミドルマネジメント人材の特性と能力育成に向けての課題」日本高等教育学会第19回大会（2016年6月25日）、2)（共同発表）「高等教育機関におけるミドルマネジメント人材の能力構造—能力獲得に至る経験に着目して—」日本教育社会学会（2016年9月17日）

シンポジウム講演：1)「今後求められる高等教育の役割～大学と地域連携の今日的課題～」東北教育学会第74回大会（2017年3月5日）

科研費：1) 基盤研究(A)「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」（分担）、2) 基盤研究(C)「伝統的技能職者の技術継承における現代的課題：学校教育・行政・同業者団体に着目して」（分担）、3) 基盤研究(C)「大学教育のグローバル化と潜在的キャリア教育に関する研究」（分担）、4) 基盤研究(B)「大学教育の内部質保証を担うミドルマネジメント人材の専門性開発に関する国際比較研究」（分担）、5) 基盤研究(C)「高等教育における地域人材養成プログラムの現状と発展可能性に関する研究」（代表）、6) 基盤研究(C)「地域・社会連携を通じた高等教育の多様なイノベーションとその成立要因に関する研究」（分担）、7) 基盤研究(C)「大学におけるキャリア教育等が卒業後の就業に与える影響に関するコホート研究」（分担）

〔大学運営〕

全学委員会：1) キャリア支援連絡会議委員

部局内委員会：1) 高度教養教育・学生支援機構 キャリア支援センター副センター長、2) 同 キャリア開発室室長、3) 同 出版・図書・資料委員会委員、4) 同 広報活動に関するワーキンググループ委員

各種支援活動：1) 学部等主催のFD講師2件

〔業務活動〕

学生支援業務：1) キャリア支援センターにおける各種支援プログラムの企画・実施、2) 同 キャリア・就職に関する個別相談（248件、約180時間）

センター業務：1) グローバルラーニングセンター「新入留学生オリエンテーション」講師、2) 国際文化研究科「2016年度第1回キャリア講習会」講師、3) 文学部・文学研究科「2015年度第1回就職講座 20歳のハローワーク」講師、4) 教育学部同窓会「キャリア支援セミナー」講師、5) 経済学研究科「大学院入学生ガイダンス」講師、6) 多元物質科学研究所「キャリア支援交流会」講師

田中 泰光 特任教授

〔専門分野〕 イノベーション創出、マネジメント、再生可能エネルギー・電子デバイス、環境教育

〔教育活動〕

授業担当：イノベーション創発塾 講義と運営を実質的に全て行っている。講義を示す「イノベーションを考え出すための科学的方法」、「R&D マネジメント」、「知的財産」、「人間理解とコミュニケーション」、「組織マネジメント」、「International Communication」、「PBL実践」、「特別講義」、活動の全般。 環境科学研究科講義「サステナビリティ概論 (Introduction to Sustainability)」、「環境マネジメントと持続可能なビジネス (Environmental Management & Sustainable Business)」、「エネルギー資源戦略 (Energy and Resource Strategies)」

教育支援活動：高度イノベーション博士人財育成ユニットのキャリア支援（進路相談）約30名の実施・対応中。インターンシップ約5名の実施（実施数の約半数）。キャリア支援センターの川内実施の理系面談の対応。

留学生等受け入れ：AY2017のイノベーション創発塾の修了生は40名で内10名25%は留学生で、講義と活動は全て協働で実施している。環境科学研究科の「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」は田路教授と私の提案で採択され現在も進行して

いる。留学生のキャリア支援を実施している。

その他：AY2016のイノベーション創発塾の入学制42名。内2名途中留学決定。修了40名（日本人30名（北大1名）、留学生10名）

〔研究活動〕

平成28年度高度教養教育開発事業「博士人財キャリア開発プログラムの開発プロジェクト」の実施

〔社会貢献〕

各種委員等：NPO 法人環境技術研究所 (SFTEE)理事として研究開発と合わせ低炭素社会の実現と環境技術とイノベーション創出と環境ビジネス・地方ビジネスへの社会貢献を行った。資源素材学会代議員、エレクトロニクス実装学会 環境と実装委員、日本建築学会員、EcoDePS 委員など通して社会貢献の実施。

学会活動：同上

国際交流活動：ProSPER. Net 委員、アジア太平洋環境大学院ネットワーク (ProSPER.Net: Promotion of Sustainability in Postgraduate Education and Research Network)

高橋 修 准教授

〔専門分野〕 経営学 (人的資源管理論)

〔教育活動〕

授業担当：1) 全学教育「ライフ・キャリアデザインⅠ」「ライフ・キャリアデザインⅡ」「フィールドワーク実践：地域とビジネス」、2) 大学院教育 (経済学研究科)「Global Company Research」

教育支援活動：1) キャリアに関する個別相談の実施 (年間延べ632名)

その他：1) 第4回学生生活支援審議会FDの講師「博士後期課程学生に対するキャリア支援」

〔研究活動〕

研究業績：1) (第一著者)「IT企業における参加型職場環境改善の効果：比較対照研究による評価」産業ストレス研究, 23(4), 2016, 361-372, 査読有り, 2) (第一著者)「フィールドワークを伴うプロジェクト型学習を核としたキャリア教育科目の開発」東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要, 3, 2017, 253-263, 査読有り, 3) (共同発表)「大学卒業者の就業の現状と意識に関する一考察—宮城県内に所在する大学の卒業生へのアンケート調査を踏まえて—」人材育成学会第14回年次大会, 2016年12月3日, 東北大学

受賞：1) 日本ビジネス実務学会, 学会奨励賞 (学会誌による顕彰), 2016年6月12日

外部資金：(科研費) 基盤研究(C), 「職場環境改善の効果と改善活動継続の規定因に関する研究」(代表者), 2016年4月—2019年3月

〔大学運営〕

大学運営：1) 学生生活支援審議会キャリア支援連絡会議委員

各種の支援活動：1) (再掲) 第4回学生生活支援審議会FDの講師「博士後期課程学生に対するキャリア支援」、2) 全学教職員を対象とした「キャリア支援スキル向上研修」の企画・実施

〔業務活動〕

学生支援業務：1) (再掲) キャリアに関する個別相談の実施 (年間延べ632名)、2) キャリア支援センター主催ガイダンスの講師 (将来を考えるセミナー、OB・OGを招いての業界・企業研究セミナー2回)、3) 部局主催キャリアガイダンスの講師 (多元物質科学研究科、留学生課、経済学部国際交流室、生命科学研究科、農学部・農学研究科)

センター業務：1) (再掲) 全学教職員を対象とした「キャリア支援スキル向上研修」の企画・実施、2) 生命科学研究科との共催「ライフサイエンス系博士とポスドクのためのキャリアフォーラム」の企画・実施

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 大阪商工会議所：メンタルヘルス・マネジメント検定試験 テキスト編集委員, 2) キャリア・コンサルティング協議会：キャリア・コンサルティング技能検定委員

学会活動：1) 人材育成学会常任理事, 2) 人材育成学会第14回年次大会実行副委員長, 3) 日本産業ストレス学会編集委員

社会教育活動：1) 大阪商工会議所からの依頼による、メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅰ種(9月)及びⅡ種(9月、2月)の受験対策講座の講師

富田 京子 特任准教授

〔専門分野〕 キャリア教育・支援

〔教育活動〕

授業担当：

◎全学教育：「ライフ・キャリアデザインC」、「フィールドワーク実践：地域とビジネス」

◎他大学での担当授業：弘前大学大学院農学生命科学研究科集中講義「キャリア開発セミナー」、宮城学院女子大学全学部 学部生に対する専門教育科目(必須科目)「キャリア・ポートフォリオⅠ」、「キャリア・ポートフォリオⅡ」

◎授業科目開発：全学教育科目「ライフ・キャリアデザインD」、キャリアパス教育科目「キャリアデザインセミナー（生命科学研究科）」、「キャリアデザイン講座（文学部）」各学部研究科と連携し授業科目を開設。

〔業務活動〕

学生支援業務：学生相談所・特別支援室協働での学生相談、学生支援

センター業務：

◎キャリア支援年間プログラム設計・策定業務・・・年間キャリア支援プログラムを策定し、体系化。学部1年生から博士後期課程、ポスドクまでの進路・就職に係るプログラムを設計、提示し、正課（授業科目）と正課外事業との相補的組み合わせで構成した。

セミナー、ワークショップ、個別相談など目的に応じた多様な実施形態を有する設計を行った。

◎キャリア支援セミナー及びワークショップ企画・立案、実施運営、広報（チラシ、ポスター広報物作成含む）業務及び講師選択、講師打ち合わせ、講師対応業務・・・センター内で実施するセミナー、ワークショップ全体設計を実施。また自ら講師担当。

◎学生個別相談（保護者・卒業生相談含む）

◎外部講師（非常勤講師）への情報共有、情報提供業務・・・相談業務を行う非常勤講師に対し、スーパーバイジングを含めた関係情報提供を定期的に実施。

個別相談業務連絡会議の開催・・・年間2回から3回情報共有のための連絡会議を実施。

池田 忠義 教授

〔専門分野〕 臨床心理学，学生相談

〔教育活動〕

授業担当：全学教育科目「学生生活概論」、大学院教育（教育学研究科）「投影法特論Ⅰ」「投影法特論Ⅱ」、会津大学短期大学部「コミュニケーション学」

その他：①学部新生を対象とした新生特別セミナーにおいて「安心・安全なキャンパスライフ」のテーマで講演，②部局新生オリエンテーションにおいて学生生活に関する説明および学生相談・特別支援に関する利用案内（計4回）

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著) アメリカにおけるCASによる学生相談・学生支援の評価 ―わが国の学生相談プログラム評価への適用可能性―，九州大学学生相談紀要・報告書，第3号，73-80 (2017)，2) (共著) 学生相談機関における東日本大震災後の学生ボランティア支援実施プロセスの検証，東北大学学生相談・特別支援センター年報，第2号，27-36 (2017)，3) (共著) 学生相談機関における職場内訓練についての一考察 ―学生相談カウンセラーの熟練はOJTなしでも十分か？，東北大学学生相談・特別支援センター年報，第2号，37-40 (2017)，4) (共著) 東日本大震災後の大学生の心身の健康状態に関する分析 ―震災後5年間の経年変化に焦点をあてて，東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要，第3号，169-182 (2017)，5) (共著) 東北大学における休学生の現状，東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要，第3号，329-336 (2017)

外部資金：1) 科研費・基盤研究(C)「学生相談における災害ボランティア参加学生を対象とした心理的支援モデルの検討」（分担）（2014～2016），2) 科研費・基盤研究(C)「評価することで『元気が出る』学生相談活動の新しい自己評価法の開発」（分担）（2015～2017），3) 科研費・基盤研究(C)「学生相談におけるカウンセリングの効果に関する評価方法の開発」（分担）（2015～2017）

その他：東日本大震災の心理的影響と支援のあり方に関する継続的研究（神戸大学・和歌山大学・奈良女子大学等の研究者との共同研究）

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学生生活支援審議会委員，2) 障害者差別解消推進委員会委員，3) 学生相談・特別支援連絡会議委員，4) 学生ボランティア支援委員会委員

部局内委員会：1) 学生相談・特別支援センター副センター長，2) 高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員，3) 高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員

各種支援活動：1) 学生生活支援審議会委員や学生相談・特別支援連絡会議委員，部局の学生相談・学生支援の担当教職員等を対象とした「学生支援審議会FD」の企画・実施（計4回），2) 部局FDにおける講師（学生対応，ハラスメント等に関するテーマ）（計3回）

〔業務活動〕

学生支援業務：1) 学生相談・特別支援センターにおける学生相談および特別支援：相談人数77名，のべ相談回数599回，2) 農学部学生相談室（雨宮キャンパス）における出張相談：相談人数7名，のべ相談回数22回，3) 川内南キャンパスにおけるキャリア・カウンセリング（キャリア支援センターと協働）：相談人数10名，のべ相談回数11回，4) ハラスメント全学学生相談窓口におけるハラスメント相談：のべ対応回数：44回

学生相談・特別支援センター業務：1) 学生の心身の健康，大学への適応状態等を把握するための全学生対象調査の実施，その結果に基づく学生への個別支援，2) 修学上の合理的配慮の提供に関する流れの検討，川内北キャンパスのバリアフリーマップの作成および全教職員への配付

〔社会貢献〕

各種委員等：仙台市自殺防止対策連絡協議会委員

学会活動：日本学生相談学会理事

その他：1)「みやぎ学生相談連絡協議会」(年2回開催)に参加、宮城県内の大学の学生相談機関との情報の共有や相互支援、
2) 全国の高等教育機関等においてハラスメントや学生支援に関する講演1回

吉武 清實 特任教授

〔専門分野〕 臨床心理学、学生相談

〔教育活動〕

授業担当：全学教育科目「学生生活概論」1回分、「障害と学生」1回分

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著) 震災ボランティア参加学生の支援実施プロセスの研究, 2017 (東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要第3号, 159-167), 2) (共著) 東北大学における休学生の現状, 2017 (東北大学高度教養教育・学生支援機構 紀要第3号, 329-336),
3) (単著) 「学生相談のための仮設系」(学生相談研究, 36-3, 263~275, 2016) ほか

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学生生活支援審議会キャリア支援

各種支援活動：(全学) 新任教員研修会講師(4月), 工学系新規採用等研修講師(4月、10月), 医学系研究科FD、工学系研究科、教育学研究科FD講師(7月), 環境科学研究科FD講師(12月), 教職員セミナー「大学におけるセクシュアルマイノリティ学生の理解と支援」企画開催(9月), 発達障害学生の就労移行支援」に関する学習会を企画開催(12月)

〔業務活動〕

学生支援業務：学生相談・特別支援(105人、300回、危機対応3回、研究室対応94回)、ハラスメント相談(18時間、11回)、キャリアカウンセリング12回

〔社会貢献〕

学会活動：日本学生相談学会理事・研修委員会委員、全国学生相談研修会講師

中島 正雄 准教授

〔専門分野〕 臨床心理学、学生相談

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「学生生活概論」「相談心理学Ⅱ」、大学院教育「心理療法特論Ⅰ」「基礎臨床心理学特論」

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著) 学生相談機関における職場内訓練についての一考察-学生相談カウンセラーの熟練はOJTなしでも十分か?, 東北大学学生相談・特別支援センター年報, 第2号, 37-40, 2017、2) (共著) 東北大学における休学生の現状, 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要, 第3号, 329-336, 2017、3) (共同発表) 外国人留学生のサポート機関への援助要請行動プロセスに関する研究, 日本学生相談学会第34回大会, 2017、4) (共同発表) 自閉症スペクトラム障害の傾向を持つ大学生の特徴に関する研究, 日本学生相談学会第34回大会, 2017、5) (口頭発表) 調査研究・データに基づいた現代の若者像, 第50回全国学生相談研究会議, 2017

〔大学運営〕

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構 出版・図書・資料委員会委員

各種支援活動：1) 学生支援審議会FD(年4回)の実施、2) 教育学部主催学生対象のハラスメント防止講習会における講師、3) 自然科学総合実験教員・TAガイダンス講師

〔業務活動〕

学生支援業務：1) 学生相談・特別支援センターにおける学生相談所相談員として学生、教職員、家族への相談を行った。相談人数90名、のべ相談回数633回。2) ハラスメント全学相談学生相談窓口相談員として、ハラスメント相談への対応を行った。のべ相談回数9回。

学生相談・特別支援センター業務：1) 東日本大震災後の学生の生活や心身状態、大学への適応状態等を把握するための全学生対象調査の実施、その結果に基づく学生への個別支援、2) スーパービジョン研修の企画・実施、3) 「学生相談・特別支援センター年報」の編集、4) 各部局における新入生オリエンテーションにおける学生相談・特別支援センターの利用案内

小島 奈々恵 講師

〔専門分野〕 社会臨床心理学、学生相談

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「学生生活概論」(共同で担当)

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著) 東北大学における休学生の現状, 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要, 第3号, 2017, 2) (シンポジウム企画・話題提供) Health support for international students, 31st International Congress of Psychology, 3) (ポスター発表) Factors discouraging and encouraging university students to interact internationally, 31st International Congress of Psychology
科研費：基盤研究 (C) 「学生の苦境を生き抜く力を涵養する心理教育プログラムの開発」(分担) (2016-2019)

〔大学運営〕

各種支援活動：学生支援審議会 FD (年4回) の企画・実施

〔業務活動〕

学生支援業務：1) 学生相談・特別支援センターにおける学生相談および特別支援：相談人数 142 人, のべ相談回数 845 回, 2) ハラスメント全学学生相談窓口におけるハラスメント相談：のべ対応回数 9 回
学生相談・特別支援センター業務：1) 全学対象の「大学生の心身の健康に関する調査 (第6回東日本大震災後の大学生活に関する調査)」結果に基づく支援, 2) 各部局オリエンテーション等での大学生活ガイダンスおよびセンター利用案内, 3) 新入学外国人留学生や日本人留学生を対象とした大学生活や異文化適応に関する心理教育

〔社会貢献〕

みやぎ学生相談連絡会議における県内学生相談機関との連携 (情報共有等)

中岡 千幸 講師

〔専門分野〕 臨床心理学, 学生相談

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「学生生活概論」(オブザーバー)

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著) 東北大学における休学生の現状, 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要, 3号, 2017, 2) (学会発表) The influence of interpersonal stressors in extracurricular activities on mental health: the role of expressing emotions for university students with high over-adaption tendencies, The 31st International Congress of Psychology (Yokohama), July, 2016
外部資金：(科研費) 若手研究 (B), 「教職員向け休・復学者支援マニュアルの作成のための研究」(代表), 平成28年度～31年度

〔大学運営〕

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構 電子ジャーナル編集委員
各種支援活動：学生支援審議会 FD (年4回) の実施

〔業務活動〕

学生支援業務：1) 平成28年6月以降, 学生相談・特別支援センターにおける学生相談および特別支援：相談人数 104 人, のべ相談回数 469 回, 2) 平成28年6月以降, ハラスメント全学学生相談窓口におけるハラスメント相談：のべ対応回数 8 回
学生相談・特別支援センター業務：1) 全学学生対象の「東日本大震災後の大学生活に関する調査」結果に基づく個別支援, 2) 各部局における新入生オリエンテーション等での学生生活のガイダンスおよび学生相談所の利用案内, 3) 学生相談・特別支援センターご利用案内のパンフレット (英語版) の作成

〔社会貢献〕

「みやぎ学生相談連絡協議会」への参加による県内の大学の学生相談機関との連携

佐藤 静香 助手

〔専門分野〕 臨床心理学, 学生相談

〔教育活動〕

授業担当状況：全学教育科目「学生生活概論」(共同で担当)

その他：1) 部局新入生オリエンテーションにおける学生生活のガイダンスおよび学生相談・特別支援・ハラスメント相談に関する利用案内, 2) 部局学生対象のハラスメント防止講習会における講師

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著) 震災ボランティア参加学生への支援実施プロセスの研究, 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要, 3, 159-167, 2017, 2) (共著) 東北大学における休学生の現状, 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要, 3, 329-336, 2017, 3) (共著) 学生相談機関における東日本大震災後の学生ボランティア支援実施プロセスの研究, 東北大学学生相談・特別支援センター年報, 2, 27-35, 2017.

科研費：挑戦的萌芽研究「学生相談における災害ボランティア参加学生を対象とした心理的支援モデルの検討 (2014～2016) (研究分担者)

その他：全入生を対象とする「新入生意識調査」の実施と学生相談・特別支援センター年報への結果の公表

〔大学運営〕

全学委員会：男女共同参画委員会委員

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構 施設整備委員会委員

各種支援活動：1)「学生支援審議会 FD」(年4回)の企画・実施, 2) 大学教職員セミナー「大学の中のセクシュアルマイノリティー学生との理解と支援のために」の実施

〔業務活動〕

学生支援業務：1) 学生相談・特別支援センターにおける学生相談および特別支援：相談人数 143 人, のべ相談回数 701 回, 2) ハラスメント全学学生相談窓口におけるハラスメント相談：のべ対応回数 34 回

学生相談・特別支援センター業務：1) 全学生対象の「東日本大震災後の学生生活に関する調査」の実施と結果に基づく個別支援, 2)「学生相談・特別支援センター年報」の編集, 3) 学生相談・特別支援センターのホームページの改修

〔社会貢献〕

1)「みやぎ学生相談連絡協議会」への参加による県内の大学の学生相談機関との連携, 2) 放送大学宮城学習センター客員講師

松川 春樹 助教

〔専門分野〕 臨床心理学, 学生相談

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「学生生活概論」を共同で担当

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著) 聴覚投映法における内容面の指標と自己関係づけの関連, 心理臨床学研究, 34(6), 616-626, 2017, 2) (共著) 東日本大震災後の大学生の心身の健康状態に関する分析—震災後 5 年間の経年変化に焦点をあてて—, 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要, 3, 169-182, 2017, 3) (共著) 東北大学における休学生の現状, 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要, 3, 329-336, 2017

〔大学運営〕

各種支援活動：学生生活支援審議会 FD の企画・実施 (計 4 回)

〔業務活動〕

学生支援業務：1) 学生相談・特別支援センターにおける学生相談：相談人数 118 名, のべ相談回数 801 回, 2) ハラスメント全学学生相談窓口におけるハラスメント相談：のべ対応回数 17 回

学生相談・特別支援センター業務：全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査 (東日本大震災後の大学生生活に関する調査)」の実施, および, その結果に基づく個別支援

長友 周悟 講師

〔専門分野〕 障害学生支援

〔教育活動〕

学生生活支援審議会 FD, 教育関係共同利用拠点提供プログラムにおいて, 障害者差別解消法に基づく障害学生への合理的配慮の考え方や配慮の例, 発達障害を含む精神障害のある学生への合理的配慮の提供や相談支援のあり方などについて講話を提供した。全学教育科目である「学生生活概論」のなかで, 障害理解を促すための授業を行い, また教職科目の「相談心理学Ⅱ」を担当した。障害のある学生への合理的配慮の提供に関する対応について冊子を作成した。

〔大学運営〕

高度教養教育・学生支援機構研究倫理委員会委員

学生相談・特別支援連絡会議委員

障害者差別解消法に基づく部局相談窓口相談員

学生生活支援審議会 FD 講師 1 件

教育関係共同利用拠点提供プログラム講師 1 件

〔業務活動〕

学生支援業務：学生相談・特別支援センターにおける学生相談および特別支援：相談人数 214 人, のべ相談回数 581 回

学生相談・特別支援センター業務：業務センターの業務として, 障害のある学生への相談支援を行った。加えて, 支援の充実を図るうえで必要な部署, 教職員との連携や, 学生への対応に困難を抱える教員, 家族への支援を行い, 支援体制の充実を図るため学生サポーター養成講座を実施した。診断が確定していないが障害 (主に発達障害) の疑いのある学生についても, 学生相談所との連携により相談支援を行った。

〔社会貢献〕

社会福祉法人仙台いのちの電話専門委員, NPO 法人ソイブラム理事, 社会福祉法人みんなの輪理事

楠原 佐和子 特任講師

〔専門分野〕 臨床心理学、コミュニティ心理学

〔大学運営〕

全学委員会：学生生活支援審議会 FD 企画運営

〔業務活動〕

学生支援業務：特別支援室相談員

佐々木 真理 助手

〔専門分野〕 特別支援教育、聴覚障害児教育

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「学生生活概論」

〔大学運営〕

各種支援活動：部局の学生相談等の担当教職員等を対象とした「学生生活支援支援審議会 FD」の企画・実施（計 4 回）、宮城県教育庁特別支援教育室が開催した「平成 28 年度 特別支援教育コーディネーター養成研修」にて講義

〔業務活動〕

学生支援業務：1) 学生相談・特別支援センターにおける学生相談および特別支援：相談人数 220 名、のべ相談回数 1249 回、
2) 障害学生支援を担うサポーター学生の募集・養成・派遣等運営を行った。

所属業務センターの業務：1) 東日本大震災後の学生の生活や心身の状態、大学への適応状態を把握するための全学生対象調査の実施、その結果に基づく学生への個別支援、2) 学生相談・特別支援センターリーフレット作成、川内北キャンパスバリアフリーマップ調査・作成、「修学上の合理的配慮の提供に関する対応について」冊子の作成、「学生サポーター活動報告書」編集、3) 川内キャンパスおよび周辺のバリアフリー等整備状況調査・報告書の作成、4) 高度教養教育・学生支援機構正午 PD「高等教育機関における障害学生支援の実際」

〔社会貢献〕

障害学生支援大学間ネットワークに参加し、在仙大学の障害学生支援担当部署との情報共有や相互支援

木内 喜孝 教授

〔専門分野〕 学生支援、学生の保健管理

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「体と健康 I X」、医学部医学科「消化器ブロック」、東北薬科大学「特殊医療学」、青森大学「臨床医学概論」

学位論文指導・審査：博士 4 名 副査、修士 1 名 副査（医学系研究科博士課程 4 名の指導を行っている）

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著) NUDT15 R139C causes thiopurine induced early severe hair loss and leukopenia in Japanese patients with IBD. *Pharmacogenomics J* 2016 Jun;16(3):280-5. 2) (共著) Urinary angiotensinogen excretion is associated with blood pressure in obese young adults. *Clin Exp Hypertens*. 2016;38(2):203-8. 3) (共著) MicroRNA-320 family is downregulated in colorectal adenoma and affects tumor proliferation by targeting CDK6. *World J Gastrointest Oncol*. 2016 Jul 15;8(7):532-42.

外部資金：1) 基盤研究 (C) アリル特異的 DNA メチル化解析による炎症性腸疾患感受性遺伝子の機能解析 (代表 2014~2016)、
2) 基盤研究 (B) (分担研究者)「高精度日本人ゲノム参照パネルに基づいた日本人炎症性腸疾患感受性遺伝子の高密度解析」(2015~2017)、3) 基盤研究 (C) (分担研究者)「メディア上における潰瘍性大腸炎に関する医療情報の質の評価」(2015~2017)、4) AMED ゲノム創薬基盤推進研究事業 (分担研究者)「チオプリン不耐例を判別する NUDT15R139C 遺伝子多型検査キットの開発を軸とした炎症性腸疾患におけるゲノム医療実用化フレームワークの確立」

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学生生活支援審議会委員、2) 学務審議会委員、3) 入試実施委員会、4) 環境・安全委員会委員、5) 東北大学出版会評議員、6) 特別健康管理専門部会委員長、7) 災害対策推進室推進室会議メンバー、8) サイクロトロンラジオアイソトープセンター運営専門委員会委員

部局内委員会：1) ハラスメント相談窓口、2) 研究費の不正使用に関する通報を受け付ける窓口、3) 研究倫理委員会委員長、4) 機構研究倫理教育責任者、5) 機構研究倫理推進責任者、6) 保健管理センター長、7) 機構長補佐会議メンバー、8) 情報科学大学院倫理審査委員

〔業務活動〕

医療業務：留学生の多い秋入学者に対する秋検診を新たに導入した。

機構業務：機構研究倫理推進責任者として、研究データ管理保存、研究倫理教育、共同研究の管理に関する申合せを作成した。機構研究倫理委員会委員長として総計 12 件の研究計画を審査した。

センター業務：結核対策として、秋検診を導入した。

部門業務：臨床医学開発室の運営、各教員の研究の方向性について相談した。

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 宮城県生活習慣病検診管理指導協議会大腸がん部会委員：宮城県大腸癌検診が適切に行われているか審査を実施
2) 宮城県対がん協会大腸癌検診診断委員長：宮城県大腸癌検診の診断が適切に行われるように指導した 3) 宮城県社会保険診療報酬請求書審査委員会：保険診療報酬が適切に請求されているか審査した 4) 厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策研究事業一難治性炎症性腸管障害に関する調査研究 班友

学会活動：1) 日本消化器病学会評議員、2) 日本消化器内視鏡学会東北支部評議員、3) 日本内科学会東北支部評議員、4) 日本消化器がん検診学会地方評議員、5) 全国大学保健管理協会評議員、6) 東北学校保健学会世話人、7) 第 42 回東北大腸疾患研究会開催事務局、8) 第 53 回全国大学保健管理研究集会東北地方研究集会当番大学

伊藤 千裕 教授

〔専門分野〕 精神医学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「授業評価」(体と健康)、医学部教育「薬物身体療法」「精神作用物質使用による精神および行動の障害」(精神・心理・行動ブロック)

学位論文指導・審査：博士 1 名 (副査)

その他：臨床研修指導医、精神科専門医制度指導医、臨床精神神経薬理学指導医

〔研究活動〕

研究業績：1) (共同発表) ラモトリギンが奏効した精神症状を伴う維持血液透析てんかん患者の 2 症例, 第 31 回日本老年精神医学会, 2016 年 6 月, 金沢, 2) (共同発表) 東北大学における有機溶剤・特定化学物質取扱学生特殊健康診断の現状, 第 54 回全国大学保健管理研究集会東北地方研究集会, 2016 年 7 月, 盛岡, 3) (共同発表) 東北大学保健管理センターにおけるデジタルサイネージの利用, 第 54 回全国大学保健管理研究集会, 2016 年 10 月, 大阪

外部資金：(寄付金)「メンタルヘルス研究助成金」(代表) (2016)

〔大学運営〕

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構保健管理センター副センター長、高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員、病院ハラスメント相談窓口

各種支援活動：教育関係共同利用拠点プログラム(健康教育)のFD講師 1 件

〔業務活動〕

医療業務：メンタルヘルス相談、新入生および学生定期健康診断、診断書作成

機構業務：予算ワーキンググループ

〔社会貢献〕

学会活動：日本神経精神薬理学会評議員、日本臨床精神神経薬理学会評議員

その他：医療法人小島慈恵会小島病院非常勤医師としての地域精神保健活動

小川 晋 准教授

〔専門分野〕 内科学、腎臓病学、高血圧・内分泌学、糖尿病代謝学

〔教育活動〕

医学部学生の臨床実習指導および講義

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著) The Reduction in Urinary Glutamate Excretion Is Responsible for Lowering Urinary pH in Pink Urine Syndrome. *Tohoku J Exp Med* 239:103-110, 2016. 2) (共著) The relationship between the renal reabsorption of cysteine and the lowered urinary pH in diabetics. *Clin Exp Nephrol* 2017, DOI 10.1007/s10157-017-1401-1. 3) (単著) 糖尿病における食塩感受性高血圧発症機序. 新時代の臨床糖尿病学(下) —より良い血糖管理をめざして— Vol.74 No.2:697-701, 2016.

学会発表：1) (単独発表) CKD/糖尿病腎症のステージに応じた降圧治療はどうあるべきか? 第 39 回日本高血圧学会総会, 2016.10.2(学会合同シンポジウム)、2) (共同発表) 肥満における食塩感受性高血圧と cysteine 利用増大の意義. 第 39 回日本高血圧学会総会, 2016.10.2(公募シンポジウム)、3) (単独発表) Diabetic Kidney Disease 進展予防を考慮した糖尿病・高血圧治療. 第 51 回糖尿病学の進歩, 2017.2.17(シンポジウム)

外部資金：1) (共同研究) アルブミン尿を有する 2 型糖尿病患者におけるスピロノラクトンの投与によるアルブミン尿抑制効果の検討、2) (共同研究) 電解水素水によるインスリン抵抗性改善効果検証のための臨床試験

〔大学運営〕

部局内委員会：1) 機構研究倫理委員会委員、2) 機構出版・図書・資料委員会委員、3) 保健管理センター副センター長、4) 学生健康班班長

【業務活動】

医療業務：大学病院外来診療(週 2 回)、入院患者の診療

学生支援支援：生活習慣病に関する学生相談の対応

機構業務：臨床研究開発室准教授

センター業務：健康診断班長として約 2 万人の健康診断を確認し診断書を作成している

部門業務：学生健康診断、学生健康相談(週 3 日)、学生の緊急健康被害時の対応

【社会貢献】

学会活動：日本内科学会(支部評議員)、日本腎臓学会(評議員)、日本高血圧学会(評議員・国内交流委員会・プログラム委員)、日本肥満症治療学会(評議員)、日本内分泌学会(評議員)、糖尿病性腎症合同委員会、日本糖尿病性腎症研究会幹事

社会教育活動：市民公開講座、糖尿病友の会指導医および教育講演

その他：津波被災地の診療支援 (岩手県立高田病院糖尿病外来)

佐藤 公雄 准教授

【専門分野】 循環器内科

【教育活動】

下記の教育活動を行った。主に循環器内科へ海外からの留学生 (博士課程、JSPS 研究員) 2 名、JSPS 特別研究員 2 名、大学院生 (博士課程) 8 名の学位研究の指導に注力した。

授業担当状況：大学院生向けの心血管疾患に関する講義担当。開業医向けの生涯教育講座の講義担当。

学位論文 (博士/修士/学士) の指導：循環器内科の大学院生の学位論文指導、泌尿器科からの大学院生の学位論文指導。

教育支援活動：保健管理センターの業務の一環として、精神的不調を訴える学生の診療および相談に応じた。

留学生等受け入れ：海外留学生 1 名、海外からの JSPS 研究員 1 名の受け入れと指導を行っている。

【研究活動】

【研究業績】 英文原著論文 1 8 件 (全て査読あり)、日本語著書 2 件、学会シンポジウム発表多数、特許出願 5 件

【受賞】 2017 年 (平 29) 第 42 回 日本循環器学会・日本心臓財団 佐藤賞

2016 年 (平 28) Top Reviewers for Circulation Research (Platinum Reviewers) (AHA)

2016 年 (平 28) Top 10 Reviewers Award of Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology (ATVB, AHA)

【外部研究資金】

文部科学省 H26-28 橋渡し研究 (シーズ A、シーズ B)

H27-29 基盤研究 (B)、H27-29 挑戦的萌芽研究、日本医療研究開発機構 (AMED) H27-29 創薬基盤推進研究事業、日本医療研究開発機構 (AMED) H28-30 難治性疾患実用化研究事業、日本医療研究開発機構 (AMED) H29-31 難治性疾患実用化研究事業

【大学運営】

全学委員会：東北大学医学部・医学系研究科・遺伝子組換え実験安全主任者として、遺伝子組み換え実験の申請書の審査および実験施設の視察等を行った。東北大学・高等教育開発推進センター・遺伝子組換え実験安全主任者・動物実験安全主任者として、申請書の審査等を行った。

【業務活動】

過去 3 年間の活動で最も注力したのは大学病院の循環器内科外来および保健管理センターでの医療業務である。保健管理センターでの医療業務として、週 3 日保健管理センターで、健康相談を行っており、健康相談班長として、学医からの相談を受けている。

【社会貢献】

【学会活動】

12 の国内外の学会に所属し、日本酸化ストレス学会および日本 NO 学会の評議員を務めている。また、日本 NO 学会の事務局を担当している。

日本循環器学会 禁煙推進委員会 委員、同 予防委員会 委員、同 第 80 回日本循環器学会学術集会 事務局長、

日本 NO 学会 評議員 (事務局担当)、第 9 回国際 NO 学会・第 16 回日本 NO 学会学術集会 事務局長

日本酸化ストレス学会 評議員、日本心臓血管作動物質学会 評議員

【学術活動】

文部科学省 独立行政法人日本学術振興会 (JSPS) 審査委員

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター 専門調査員

【国際学術誌 編集委員会 委員 Editorial Board】

Circulation Research (AHA)

Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology (ATVB) (AHA)

Circulation Journal (日本循環器学会)

石田 昌玄 助教

〔専門分野〕 肝胆膵外科学

〔業務活動〕

東北大学病院肝胆膵外科における診療、保健管理センターにおける学医（外科）業務

嘉数 英二 助教

〔専門分野〕 内科・消化器内科学

北 浩樹 助教

〔専門分野〕 歯科矯正学

〔教育活動〕

授業担当：情報科学研究科大学院教育（健康情報学）「歯科疾患と情報科学Ⅰ，Ⅱ」，全学教育（体と健康）「喫煙と健康障害」，青森大学薬学部（臨床医学概論）「歯と口腔領域の病気概論」，「大学における健康管理」

教育支援活動：デジタルサイネージ（電子看板）を用いた学生向け健康情報供覧システムの開発

その他：日本矯正歯科学会認定医

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著)「東北大学保健管理センターにおけるデジタルサイネージの利用」，第54回全国大学保健管理研究集会（大阪），10/5-6. 2) (共著)「東北大学における有機溶剤・特定化学物質取扱学生特殊健康診断の現状」，第53回全国大学保健管理研究集会東北地方研究集会（盛岡），7/14-15.

外部資金：科研費基盤研究（C），「メディア上における潰瘍性大腸炎に関する医療情報の質の評価」（代表），平成27-29年度.

その他：「The Cleft Palate-Craniofacial Journal」査読

〔大学運営〕

部局内委員会：施設整備委員

各種支援活動：学部等主催の講師2件

〔業務活動〕

医療業務：1) 歯科相談，2) 禁煙相談，3) 学生定期・特別健康診断，4) 診断書の作成

機構業務：PDプログラム 健康教育 W-04 【PDP】健康科学セミナー「電子タバコは禁煙グッズか？」

〔社会貢献〕

学会活動：全国大学保健管理協会「大学における健康診断・健康関連情報の標準化と利活用に関わる調査研究班」にて歯科領域の健診標準化に関する活動

社会教育活動：仙台市自分づくり教育「職場体験」

その他：市内外の3つの歯科医院の非常勤歯科医師（矯正歯科専門医）

玉井 ときわ 助教

〔専門分野〕 呼吸器内科学

原 康之 助教

〔専門分野〕 外科学

〔教育活動〕

授業担当：PBL

その他：1) 臨床研修指導医，2) 日本消化器外科学会指導医，3) 日本外科学会指導医

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著) Spontaneous resolution of de novo hepatitis B after living donor liver transplantation with hepatitis B core antibody positive graft: a case report. Surg Case Rep. 2016 Dec;2(1):118, 2) (共著) Short Oxygenated Warm Perfusion With Prostaglandin E1 Administration Before Cold Preservation as a Novel Resuscitation Method for Liver Grafts From Donors After Cardiac Death in a Rat In Vivo Model. Transplantation. 2016 May;100(5):1052-8.

科研費：基盤研究（C）「金ナノ粒子造影剤を用いた肝細胞癌の新規画像診断法の開発」

〔大学運営〕

教室委員会研究問題対策部 部長

〔業務活動〕

医療業務：移植再建内視鏡外科での外来・病棟業務

センター業務：保健管理センター業務

〔社会貢献〕

学会活動：日本肝胆膵外科学会評議員

山本 沙織 助教

〔専門分野〕 医療

〔教育活動〕

授業担当：心電図講義

その他：学生指導、エコー実習担当

〔研究活動〕

論文：1) (共著) Focal Reduction in Cardiac ¹²³I-Metaiodobenzylguanidine Uptake in Patients With Anderson-Fabry Disease. Circ J. 2016 Nov 25;80(12):2550-2551

国内学会発表：1) (共同発表) Novel Diagnostic Strategy for Cardiac Involvement in Patients with Anderson-Fabry Disease. 第81回日本循環器学会 金沢 2017.3.17-19, 2) (共同発表) Fabry 病患者における心筋 MIBG シンチグラフィの有用性 第20回心不全学会 札幌 2016.10.7-9,

シンポジウム提題者：(共同) Fabry 病患者における画像診断とバイオマーカー 第64回心臓病学会 東京 2016.9.23-25

〔業務活動〕

医療業務：週に2日健康相談をおこなっている。また、各種入試の医務室業務を行っている。

藤室 玲治 特任准教授

〔専門分野〕 学生ボランティア活動支援

〔教育活動〕

授業担当：2015年度に引き続き、全学教育の基礎ゼミ「ボランティア活動と地域課題」を担当した他、新たに全学教育の総合科目「震災復興とボランティア」を前期に開講した。また後期には全学教育の展開ゼミ「課外活動とキャリア形成」「震災復興とボランティア」の2科目を開講した。

教育支援活動：東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室に登録している学生ボランティア団体を指導した。具体的には月1度開催する「井戸端会議」(1回2時間)において、各団体代表者を呼び、指導を行った。また他に、学生ボランティア支援室の学生ふたっふチーム「スクラム」の指導(毎週火曜日、1回2時間)、学生ボランティア団体「ぼかぼか」の指導(毎週水曜日、1回2時間)、「インクストーンズ」の指導(毎週月曜日、1回2時間)を行った。

留学生等受け入れ：留学生向けの震災ボランティア説明会を11/4に開催(留学生24名参加)、また12/17~18に1泊2日の留学生向け陸前高田ボランティアツアー(留学生16名参加)を行い、2/8には石巻市でのハラルフード生産に挑戦する業者の視察をムスリム留学生とともに行った(留学生14名参加)。

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著)「サービス・ラーニングを通してつちかう〈地域視点〉と〈人権感覚〉—東日本大震災以降のボランティア活動支援と市民性教育の可能性—『2016年度 課外・ボランティア活動支援センター紀要』東北大学 高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター, 2-18頁, 2017年3月, 2) (単著)「陸前高田市内での「まちづくりワークショップ」の実施—上野町内会・上野野自主防災会との連携—『2016年度 課外・ボランティア活動支援センター紀要』東北大学 高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター, 34-36頁, 2017年3月

講演等：(学会発表)「東北大学・神戸大学・岩手大学の3大学連携での陸前高田市支援活動と学生への教育効果」陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム2017, 陸前高田市コミュニティホール, 2017年1月21日

〔大学運営〕

全学委員会：東北大学東日本大震災学生ボランティア支援運営委員会委員

高度教養教育・学生支援機構の正午PDの会で報告：「課外・ボランティア活動支援から、人権と多様性が尊重されるキャンパス空間の創出へ」、東北大学, 2016年6月6日(共同発表)

〔業務活動〕

学生支援支援：課外・ボランティア活動に関する学生相談対応等

センター業務：課外・ボランティア活動支援センターとして、課外活動団体の合同研修会を実施。2016年11月17日、学生11名が参加。また学生ボランティア団体の連絡会「井戸端会議」を毎月1度主催して開催

部門業務：高等教育開発部門会議に出席

〔社会貢献〕

各種委員等：仙台市の協働まちづくり助成審査委員

学会活動：日本災害復興学会2016年度石巻大会開催委員

国際交流活動：6/21にアメリカのペイラー大学の学生9名を、東北大学の特別訪問研修生として受け入れ、本学川内キャンパスお

よび南三陸町等で3日間の研修を行った。

社会教育活動：陸前高田市和野地区まちづくりワークショップ開催(12/3)、石巻市のぞみ野まちづくりワークショップ開催(2/18)、災害看護支援機構セミナー基調講演(3/5)

その他：東日本大震災被災地、熊本地震被災地等での学生ボランティア活動引率

江口 伶 特任助教

【専門分野】教育学(日本教育史、人権教育)

【教育活動】

教育支援活動：藤室玲治特任准教授開講の基礎ゼミ「ボランティア活動と地域課題」及び総合科目「震災復興とボランティア」のアシスタント。

その他：1) 高度教養教育開発推進事業として「多様な他者との共生に向けた現代的教養の育成に資する人権教育プログラムの開発事業」が採択を受け、授業開発に取り組んだ。開発の成果の一部は、東北大学高度教養教育・学生支援機構課外・ボランティア活動支援センター『2016年度連続講座「共生社会に向けたボランティア活動—人権・多様性・エンパワメント」記録集』(2017年3月)にまとめた。2) 課外活動としてのボランティア活動支援において、福島の人権課題に関して学生にレクチャーを行う等、実質的に正課外での教育活動に従事した。

【研究活動】

研究業績：1) (共著)「書評 宮澤康人『教育関係の歴史人類学』」(東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室『研究室紀要』第42号, 2016年7月, pp.191-194), 2) (共著)「社会的なものとしての教育の再考—その政治的可能性をめぐる」(『東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化センター研究紀要』第2号, 2017年3月, pp.27-35), 3) (共著)「サービス・ラーニングを通してつちかう〈地域視点〉と〈人権感覚〉—東日本大震災以降のボランティア活動支援と市民性教育の可能性」(東北大学高度教養教育・学生支援機構課外・ボランティア活動支援センター『2016年度課外・ボランティア活動支援センター紀要』2017年3月, pp.2-18), 4) (単著)「夜間中学政策の転換点において問われていることは何か—その歴史から未来を展望する」,(一橋大学〈教育と社会〉研究会『〈教育と社会〉研究』第26号, 2016年9月, pp.35-48), 5) (単著)「学生ボランティアは福島で何を学んでいるのか—ボランティア活動を通じた市民性教育の試み」(『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第3号, 2017年3月, pp.337-344)

学会発表：1) (共同)「社会的なもの」と教育—政治的可能性に向けて」(教育思想史学会第25回大会, 2016年9月11日@武庫川女子大学), 2) (個人)「戦後日本における夜間中学の成立過程」(教育史学会第60回大会, 2016年10月1日@横浜国立大学)

招待講演：1)「夜間中学政策の転換点において問われているものは何か」(〈教育と社会〉研究会定例会, 2016年7月5日@一橋大学佐野書院大会議室), 2)「『夜間中学関係史料目録』刊行の報告とその意義」(全国夜間中学校研究会第62回大会, 2016年12月1日@すみだ生涯学習センター)

外部資金：(科研費)研究活動スタート支援,「戦後日本の社会変動とマイノリティ教育の研究—1970年代以降の夜間中学に着目して」(代表), H28~29年度

その他：夜間中学史料収集・保存ワーキンググループ編、全国夜間中学校研究会発行『夜間中学関係史料目録』(2016年12月, 226頁)を刊行(編集長)。

【大学運営】

部局内委員会：1) 施設整備委員会ワーキンググループ委員

【業務活動】

学生支援業務：ボランティア活動支援室にて、学生ボランティア団体及びボランティア活動を希望する学生個人からの相談に関して適宜相談支援を行った。

センター業務：①ボランティアツアーの企画運営、引率、学生への指導助言、②ボランティア保険登録等、学生のボランティア活動における安全確保、③学内外のボランティア団体・NPO等による連絡会議の開催、④本学学生へのボランティア斡旋ニーズに対するマッチング、⑤ボランティア活動推進のための外部資金の獲得、⑥課外・ボランティア活動におけるハラスメント防止や人権啓発を目的とする研修会の開催、⑦ボランティア合同説明会の開催・広報誌の作成・配布、⑧熊本地震等の緊急災害時の支援活動実施、⑨留学生対象の被災地ボランティアツアー実施、⑩国内外の高校・大学との交流。

【社会貢献】

各種委員等：全国夜間中学校研究会から委託を受けた「夜間中学史料収集・保存ワーキンググループ」委員。

その他：東日本大震災被災地でのボランティア活動を行う学生の自発的活動を支援し、震災復興に貢献した。H28年度は本学のボランティア活動が評価を受け、復興庁被災者支援総合事業・「心の復興」事業の採択を受けた。福島県いわき市薄磯地区でのボランティア活動の成果の一部は、東北大学高度教養教育・学生支援機構課外・ボランティア活動支援センター、東北大学福興 youth 編集・発行『2017(平成29)年2月 学生ボランティアと薄磯住民との対話の記録』(2017年3月)にまとめた。

IV 資 料 編

1. 統計データ

(1) グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進

○「第3回 東北大学の教育と学修成果に関する調査」実施（平成29年2-3月）

- ・平成28年度卒業生・修了生（学士課程，博士前期課程・修士課程，博士後期課程・博士課程，専門職学位課程）の4,612名（うち学部生数2,439名）を対象に調査を実施
- ・有効回答数3,044名（うち学部生数1,640名），有効回答率66.0%（学部生のみ67.2%）

(2) 実践的英語運用能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進

○多読法による英語教育プログラムの授業実践（1年次「英語A」の場合）

- ・開講クラス数：前期後期計34クラス（全体の23.3%）

○PDR法（Preparation / Discussion / Reaction Method）による英語教育プログラムの授業実践（1年次「英語B」の場合）

- ・開講クラス数：前期後期計28クラス（全体の19.4%）

○高度な英語能力養成を目指す全学教育科目「プラクティカル・イングリッシュスキルズ」開講

- ・開講クラス数：前期3クラス，後期3クラス，計6クラス
- ・受講者数：前期後期計70名

○英会話支援プログラムの開発・推進

- ・学習支援センターでの「英会話カフェ」「1on1英会話」の実施

○国際的な教育・研究環境で必要とされる英語運用能力の養成を目指す「TEA's English 学期内プログラム」及び「TEA's English 集中プログラム」

表2-1 「英語A」における多読法を取り入れた授業実践（H24～H28）

	H24	H25	H26	H27	H28
開講クラス数	12	22	30	44	34
全体に占める割合 (%)	8.7%	15.9%	21.7%	31.9%	23.3%

表2-2 「プラクティカル・イングリッシュスキルズ」開講実績（H25～H28）

		H25	H26	H27	H28
開講クラス数		4	6	6	6
受講者数 (人)		45	69	68	70

表2-3 「英会話カフェ」「1on1英会話」利用者数（H24～H28）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27	H28
延べ利用者数	161 (※)	336	698	651	518

※H24年度は「英会話ゼミ」の名称で実施

表2-4 「TEA's English 学期内プログラム」及び「TEA's English 集中プログラム」開講実績（H27～H28）

				H27	H28
開講クラス数				各プログラム2	各プログラム2
受講者数 (学期内) (人)				計380	計306
受講者数 (集中) (人)				計15	計126

(3) 現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進

○全学教育科目「自然科学総合実験」「文科系のための自然科学総合実験」の実施

- ・自然科学総合実験実施委員会：年4回程度開催
- ・理科実験スタッフミーティング：毎週開催
- ・自然科学総合実験教員 TA ガイダンス： Semester 開始前に開催
- ・自然科学総合実験受講学生ガイダンス及びレポート作成演習：第1回の授業時に開催

(4) 多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進

○国際共修ゼミ（日本語）／国際共修（英語）の充実

- ・クラス数：54，延べ受講者数：1,608名（内訳：日本人学生771名，留学生837名）

表4-1 国際共修ゼミ開講クラス数（H24～H28）

	H24	H25	H26	H27	H28
日本語クラス	12	19	25	24	28
英語クラス	—	—	9	20	26
計	12	19	34	44	54

表4-2 国際共修ゼミ（日本語）受講者数（H24～H28）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27	H28
日本人学生	192	224	486	286	362
外国人留学生	66	291	319	359	413
計	258	515	805	645	775

表4-3 国際共修ゼミ（英語）受講者数（H26～H28）（単位：人）

			H26	H27	H28
日本人学生			56	115	409
外国人留学生			121	356	424
計			177	471	833

○短期国際交流活動の推進

- ・東北大学サマープログラムにおける学生ボランティア

表4-4 東北大学サマープログラムボランティア学生数（H24～H28）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27	H28
TUJP（H25～）	—	47	44	53	55
TSSP	43	39	21	17	※効率的運営
計	43	86	65	70	のため共通化

(5) 留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実

①戦略的受入れの推進

- 中国清華大学，国立応用科学院リヨン校，フランス国立中央理工科大学院，スウェーデン王立工科大学とのダブル・ディグリープログラム

- ・受入学生数：6名，派遣学生数：0名

- 国際学士コース（理学部先端物質科学コース，工学部国際機械工学コース，農学部国際海洋生物科学コー

ス) の継続実施

・志願者数：154名，合格者数：35名，入学者数：27名

○交換留学生の受入れ促進

・JYPE（自然科学系短期留学生受入プログラム），IPLA（人文社会科学系短期留学生受入プログラム），COLABS（研究型短期留学生受入プログラム），DEEP（直接配置型受入プログラム）の実施

○短期研修プログラムの整備

・東北大学サマープログラム，夏季・冬季短期日本語・日本文化研修プログラムの実施

○外国人留学生日本語研修コース（国費留学生対象短期集中プログラム）の継続実施

・日本語研修コース（大学院・教員研修予備教育）の研修生数：前期30名，後期4名
・日韓共同理工系学部留学生プログラムの研修生数：7名

○外国人留学生等特別課程（日本語）の継続実施

・受講者数：前期390名，後期481名

表5-1 ダブル・ディグリープログラム交流実績（H24～H28）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27	H28
受入学生数	4	6	8	6	6
派遣学生数	1	2	2	3	0

表5-2 JYPE, IPLA, COLABS, DEEP 受入学生数（H24～H28）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27	H28
JYPE	54	56	72	80	78
IPLA	20	33	46	58	74
COLABS	20	27	33	43	54
DEEP	44	51	49	51	36
DEEP-Bridge	—	—	—	—	40

表5-3 TUJP, TSSP, 日本語・日本文化研修プログラム受入学生数（H24～H28）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27	H28
TUJP	—	23	18	55	56
TSSP	21	23	24	31	23
日本語・日本文化研修プログラム	14	23	23	17	11

表5-4 外国人留学生日本語研修コース（国費留学生対象短期集中プログラム）研修生数（H24～H28）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27	H28
日本語研修コース（前期）	12	18	21	16	30
日本語研修コース（後期）	5	4	8	8	4
日韓共同理工系学部留学生プログラム	7	8	7	7	7

表5-5 外国人留学生等特別課程（日本語）の受講者数（H24～H28）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27	H28
外国人留学生等特別課程（前期）	236	257	281	324	390
外国人留学生等特別課程（後期）	358	385	423	532	481

②戦略的派遣の推進

○スタディアブロードプログラム（SAP）の開発・実施

・プログラム数：18，派遣者数：330名

○多様な派遣プログラムの開発・実施

・研究型海外研鑽プログラム：派遣者数 39 名，入学前海外派遣プログラム：派遣者数 30 名

○東北大学グローバルリーダー（TGL）育成プログラムの推進

・登録者数：2,562 名，指定科目：391 科目，TGL 修了者：19 名，グローバルリーダー認定者：14 名

表 5-6 SAP 実施状況（H24～H28）

	H24	H25	H26	H27	H28
プログラム数	5	17	18	18	18
派遣者数（単位：人）	121	275	285	297	330

表 5-7 TGL プログラム実施状況（H25～H28）

		H25	H26	H27	H28
登録者数（単位：人）		642	1,322	2,091	2,562
指定科目数		200	224	329	391
TGL プログラム修了者数（単位：人）		0	3	13	19
グローバルリーダー認定者数（単位：人）		2	6	16	14

(6) 自己発展力のある主体的学生を育成する総合的学生の支援の推進

①学習支援（学習支援センター）

○SLA サポートシステムによる学習支援活動

- ・理系支援担当 SLA（前期・後期共に 32 名）による個別対応型学習支援：延べ 1,767 名
- ・英会話支援担当 SLA（前期 11 名・後期 10 名）による個別対応・企画発信型学習支援：延べ 518 名
- ・ライティング支援担当 SLA（前期・後期共に 5 名）による個別対応型学習支援：61 名
- ・企画発信型支援担当 SLA（新設：後期 6 名）による学習企画実施：4 件，参加者 40 名
- ・自主ゼミ支援：登録ゼミ数 4，名簿登録学生数 106 名

表 6-1 理系支援担当 SLA による個別対応型学習支援実績（H24～H28）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27	H28
延べ人数	1,886	1,337	2,803	2,331	1,767
実数	462	350	583	517	356

表 6-2 英会話支援担当 SLA による個別対応・企画発信型学習支援実績（H24～H28）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27	H28
延べ人数	161	336	698	651	518
実数	50	94	196	150	130

②学生相談・援助活動（学生相談・特別支援センター）

○相談・援助・予防活動

- ・学生相談所における個別支援（出張カウンセリング含む）：来談者数 729 名，対応回数 4,370 回
- ・ハラスメント全学学生相談窓口における相談・援助活動：相談件数 24 件，対応回数 95 回

- ・特別支援室（H26.4 設置）での障害を持つ学生、学生と関わる教職員等への専門的支援
：来談者 81 名，対応回数 1,997 回
- ・学生相談・特別支援等に関する FD：17 回（学生生活支援審議会 FD：4 回，部局 FD：13 回）

○全学的支援体制の構築

- ・川内南キャンパスでのキャリア・カウンセリング：来談者数 10 名，相談回数 11 回
- ・雨宮キャンパスでの出張相談：来談者数 7 名，相談回数 22 回
- ・星陵キャンパスでの出張相談：来談者数 14 名，相談回数 45 回

表 6-3 学生相談における来談者数（H24～H28）（単位：人）

		H24	H25	H26	H27	H28
学生相談・特別支援センター		—	—	748	677	775
内訳 (重複あり)	学生相談所 (出張カウンセリング含む)	786	760	743	665	729
	特別支援室	—	—	39	43	81
ハラスメント全学学生相談窓口としての相談		20	19	10	20	24
計		806	779	758	697	799

表 6-4 学生相談における相談回数（H24～H28）（単位：回）

		H24	H25	H26	H27	H28
学生相談・特別支援センター		—	—	3,929	4,461	6,144
内訳 (重複あり)	学生相談所 (出張カウンセリング含む)	3,760	3,761	3,913	2,992	4,370
	特別支援室	—	—	446	1,618	1,997
ハラスメント全学学生相談窓口としての相談		85	153	97	107	95
計		3,845	3,914	4,026	4,568	6,239

表 6-5 FD 等の実施回数（H24～H28）（単位：回）

	H24	H25	H26	H27	H28
FD・SD（学生支援審議会 FD，部局 FD を含む）	12	11	18	14	17
部局と連携した学生対象の講演	4	5	5	6	8
部局新生オリエンテーション等	15	18	19	18	17
計	31	34	42	38	42

- 新入生を含む全学生を対象とした，大学生活への適応状態や震災の心身への影響を把握するための調査の実施と個別支援

表 6-6 全学生対象調査（震災の心身への影響）の概要（H24～H28）

	H24	H25	H26	H27	H28
回答者数（人）	9,959	10,617	10,713	10,488	10,979
回収率（%）	55.3	59.0	59.5	58.3	61.0
PTSD ハイリスク群（人）	585	494	415	346	393
PTSD ハイリスク群の割合（%）	6.3	5.0	4.0	3.4	3.9
個別働き掛けに基づく来談者（人）	2	2	3	1	39

※H27 までは，メールでの情報提供（注意喚起と相談窓口案内）のみ。H28 は，スタッフ増員に伴い，個別支援を充実させ，相談の呼びかけを実施した。

表6-7 全学生対象調査（学部新入生の大学生活への不適応ハイリスク者）の概要（H26～H28）

	H24	H25	H26	H27	H28
回答者数（人）	—	—	2,346	2,325	2,239
適応ハイリスク群（人）	—	—	140	151	169
個別面接実施者数（人）	—	—	32	27	31

表6-8 全学生対象調査（学部2年生以上の大学生活への不適応ハイリスク者）の概要（H26～H28）

	H24	H25	H26	H27	H28
回答者数（人）	—	—	8,181	8,005	8,488
適応ハイリスク群（人）	—	—	351	382	338
個別面接実施者数（人）	—	—	—	—	43

※H27までは、新入生の適応ハイリスク群に対してのみ個別働き掛けを実施。H28は、スタッフ増員に伴い、学部2年生以上の適応ハイリスク群へも個別の働き掛けを行うようになった。

③健康に関する支援活動（保健管理センター）

- 各種健康診断事業、診療及び日常の健康相談
 - ・学生定期健康診断：受診者数 13,640名（受診率 75.4%）
 - ・学生特殊健康診断：受診者数 6,946名
 - ・秋胸部レントゲン検診：受診者数 244名
 - ・診療及び日常の健康相談：受診者数 4,236名

表6-9 学生定期健康診断受診者数および受診率（H24～H28）

	H24	H25	H26	H27	H28
受診者数（人）	12,995	13,490	13,447	13,443	13,640
受診率（%）	71.9%	75.4%	75.3%	75.2%	75.4

表6-10 各種健康診断、診療及び日常の健康相談受診者数（H24～H28）

	H24	H25	H26	H27	H28
学生特殊健康診断（人）	7,066	7,164	7,110	7,145	6,946
結核健診（学生ツベルクリン反応検査） →秋季胸部X線検診（H28より変更）（人）	673	468	636	544	244
診療及び日常の 健康相談（学生及び職員）（人）	5,964	5,254	4,323	4,170	4,236
診断書・証明書等の発行（枚）	2,503	2,348	2,200	2,353	1,992

- 健康に関する講演会等の開催
 - ・健康科学講演会（学生対象）：年1回
 - ・健康科学セミナー（教職員対象）：年5回

④キャリア支援活動（キャリア支援センター）

- 全学教育科目でキャリア教育科目開講
 - ・開講科目数：6科目，受講者数：91名
- 進路形成のための各種支援プログラム実施
 - ・事業件数：31件，開催回数：60回
 - ・参加者数：学部学生延べ3,936名，大学院学生延べ7,850名，その他既卒者等延べ27名，計11,813名

○進路や就職に関する個別相談

- ・対応件数（川内）：学部学生 1,417 件，大学院学生 1,752 件，その他既卒者等 85 件，計 3,254 件
- ・対応件数（青葉山）：大学院学生 359 件，その他既卒者等 47 件，計 406 件

表 6-1-1 全学教育におけるキャリア教育科目の開講科目数および受講者数（H24～H28）

	H24	H25	H26	H27	H28
開講科目数	4	6	4	6	6
受講者数（人）	125	202	91	103	91

表 6-1-2 進路形成のための各種支援プログラム事業件数，開催回数および延べ参加者数（H24～H28）

	H24	H25	H26	H27	H28
事業件数	20	28	33	36	31
開催回数	63	67	67	106	60
延べ参加者数（人）	9,607	9,618	10,326	12,865	11,813

表 6-1-3 進路や就職に関する個別相談対応件数（H24～H28）

	H24	H25	H26	H27	H28
対応件数	1,588	1,685	1,832	3,179	3,672

⑤課外活動支援（課外・ボランティア活動支援センター）

○被災地復興支援ボランティア活動の支援

- ・各種ボランティアツアーの実施：66 回開催，本学学生参加者数 664 名

表 6-1-4 ボランティアツアー開催回数及び延べ参加学生数（H24～H28）

	H24	H25	H26	H27	H28
開催回数	11	47	41	55	66
延べ参加学生数（人）	260	590	513	666	664

(7) 東北大学型 AO 入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ

○入試広報活動の推進

- ・オープンキャンパス：7月 27/28 日の 2 日間実施，参加者数 64,448 名
- ・高校生対象の進学説明会：参加者数（札幌）291 名，（静岡）285 名，（東京）732 名，（大阪）232 名
- ・高校教員対象の入試説明会の開催：20 会場，498 名参加
- ・高校及び民間業者主催の入試説明会・相談会への参加：15 会場

表 7-1 オープンキャンパス参加者数（H24～H28）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27	H28
参加者数	57,445	61,631	55,147	60,411	64,448

表 7-2 高校生対象の進学説明会参加者数（H24～H28）（単位：人）

	H24	H25	H26	H27	H28
札幌会場	286	280	317	369	291
静岡会場					285
東京会場	489	563	697	778	732
大阪会場	132	212	133	173	232

表7-3 高校教員対象の入試説明会の開催実績 (H24~H28)

	H24	H25	H26	H27	H28
会場数	18	18	18	20	20
参加者数(人)	451	436	480	526	498

(8) 教職員個人の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援

○専門性開発セミナーの開催

- ・提供セミナー数：51回，参加者数：2,284名，受講満足度（全体）：3.69/4.00

○セミナー動画のオンライン配信

- ・提供動画数：49，動画閲覧数：13,973件（動画アクセス数：41,570件）

○海外大学と連携したプログラム

- ・大学教員準備プログラム：全国から1大学1教育関連企業7名（フルコースとショートコースの計。株式会社内田洋行教育総合研究所，東北大学）参加
- ・新任教員プログラム：全国から4機関21名（フルコースとショートコースの計。岩手大学，東北学院大学，仙台白百合女子大学，東北大学）参加
- ・履修証明プログラム「アカデミック・リーダー育成プログラム」：全国から5大学9名（首都大学東京，東日本国際大学，山口県立大学，龍谷大学，東北大学）参加

○大学職員能力開発プログラム

- ・提供セミナー数：3回，参加機関：19大学，参加者数：東北大学職員45名，他大学98名

表8-1 専門性開発セミナー開催実績 (H24~H28)

	H24	H25	H26	H27	H28
提供セミナー数	40	35	49	52	51
内，高等教育のリテラシー形成関連	16	9	16	10	11
専門教育での指導力形成関連	2	3	3	10	6
学生支援力形成関連	3	3	2	1	2
マネジメント力形成関連	4	10	7	11	10
その他	15	8	18	20	22
参加者数(人)	2,030	1,941	1,888	2,237	2,284

表8-2 セミナー動画のオンライン配信提供動画数および閲覧数 (H24~H28)

	H24	H25	H26	H27	H28
提供動画数	6	19	26	36	49
内，高等教育のリテラシー形成関連	4	8	14	18	21
専門教育での指導力形成関連	1	4	4	4	7
学生支援力形成関連	—	—	1	4	4
マネジメント力形成関連	—	5	5	10	17
その他	1	2	2	0	0
動画閲覧数 (アクセス数)	—	—	11,854	14,533 (25,702)	13,973 (41,570)

2. 外部資金獲得状況

(単位: 千円)

受入年度	科学研究費補助金		受託研究		共同研究		寄附金	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成 28 年度	79	88,355	3	3,310	1	2,000	4	2,981

※科学研究費補助金, 受託研究, 共同研究は, 直接経費と間接経費の合計額である。また, 他大学からの分担金を含めている。

3. 共同研究員受入状況

氏名	研究課題	研究期間	本務先の所属・職	受入教員
鳥居 朋子	大学教育マネジメントにおけるIR活用に基づく教育改善に関する調査研究	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日	立命館大学教育開発推進機構・教授	羽田教授
中島 夏子	ジュニア・ファカルティ・プログラムの開発	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日	東北工業大学教職課程センター・講師	羽田教授
丸山 和昭	大学教員のキャリアと専門性開発に関する研究	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日	名古屋大学高等教育研究センター・准教授	羽田教授
川井 一枝	ジュニア・ファカルティ・プログラムおよび専門教育指導力育成プログラムの開発	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日	いわき明星大学教養学部・准教授	羽田教授
鈴木 学	ジュニア・ファカルティ・プログラムの開発	平成 28 年 7 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日	福島大学総合教育研究センター・特任准教授	羽田教授
佐俣 紀仁	ジュニア・ファカルティ・プログラムの開発	平成 28 年 7 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日	東北医科薬科大学教養教育センター・講師	羽田教授

4. 規程類

(1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構規程

平成26年3月25日

規 第 26 号

(趣旨)

第1条 この規程は、東北大学高度教養教育・学生支援機構（以下「本機構」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第2条 本機構は、東北大学（以下「本学」という。）の学内共同教育研究施設等として、高度教養教育及び学生支援に関する調査研究、企画及び提言並びにそれらの方法の開発及び実施を関係部局との連携の下、一体的に行うことにより、本学の教育の質の向上に寄与することを目的とする。

(職及び職員)

第3条 本機構に、次の職及び職員を置く。

機構長
副機構長
部門長
院長
教授
准教授
講師
助教
助手
総長特命教授
技術職員
その他の職員

2 前項に定めるもののうち、別に定めるものは、学校保健安全法（昭和33年法律第56号）第23条第1項に規定する学校医とする。

(機構長)

第4条 機構長は、機構の業務を掌理する。

2 機構長は、総長が指名する理事若しくは副学長又は本学の専任の教授をもって充てる。

3 機構長の任期は、2年（理事又は副学長にあつては、その任期）とし、再任を妨げない。

(副機構長)

第5条 副機構長は2人とし、機構長の職務を補佐する。

2 副機構長は、本学の専任の教授をもって充てる。

3 副機構長の任期は、機構長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(部門長)

第6条 部門長は、第8条に規定する部門の業務を掌理する。

2 部門長は、本機構の専任の教授をもって充てる。

3 部門長の任期は、機構長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(院長)

第7条 院長は、次条に規定する教養教育院の業務を掌理する。

2 院長は、総長が指名する理事若しくは副学長又は本学の専任の教授をもって充てる。

3 院長の任期は、2年（理事又は副学長にあつては、その任期）とし、再任を妨げない。

(部門、教養教育院等)

第8条 本機構に、高等教育開発部門、教育内容開発部門及び学生支援開発部門並びに教養教育院を置く。

2 高等教育開発部門に、次に掲げる室を置く。

入試開発室
高等教育開発室
国際化教育開発室
キャリア開発室

3 教育内容開発部門に、次に掲げる室を置く。

人間総合科学教育開発室
自然科学教育開発室
言語・文化教育開発室

4 学生支援開発部門に、次に掲げる室を置く。

臨床教育開発室
臨床医学開発室
(業務センター)

第9条 本機構に、業務組織として、業務センターを置く。

2 前項の業務センターに、別に定めるところにより、学校保健安全法第7条に規定する保健室を置く。

3 前項に定めるもののほか、業務センターの組織及び運営については、別に定める。

(教授会議)

第10条 本機構に、その組織、人事、予算その他運営に関する重要事項を審議するため、教授会議を置く。

2 教授会議の組織及び運営については、別に定める。

(運営会議)

第11条 本機構に、本機構の組織及び運営について企画し、及び調整するため、運営会議を置く。

2 運営会議の組織及び運営については、別に定める。

(高度教養教育諮問会議)

第12条 本機構に、機構長の諮問に応じて本機構の組織及び運営について協議し、並びに機構長に対して助言及び提言を行うため、高度教養教育諮問会議を置く。

2 高度教養教育諮問会議の組織及び運営については、別に定める。

(事務)

第13条 本機構の事務については、国立大学法人東北大学事務組織規程（平成16年規第151号）の定めるところによる。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、本機構の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。

2 東北大学高等教育開発推進センター規程（平成16年規第311号）及び国立大学法人東北大学国際交流センター規程（平成17年規第93号）は、廃止する。

(2)東北大学高度教養教育・学生支援機構業務センター内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第9条第3項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構に置く業務センターの組織及び運営について定めるものとする。

(業務センターの設置)

第2条 業務センターとして、別表の左欄に掲げる分野に応じ、同表の中欄に掲げるセンターを置き、その所掌業務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

(業務センターの職及び職員)

第3条 業務センターとして置かれるセンターに、それぞれ次の職及び職員を置く。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 その他の職員

(センター長及び副センター長)

第4条 センター長は、当該センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、2人以内とし、センター長の職務を補佐する。

3 センター長は、機構長が指名する本学の専任の教授をもって充て、副センター長は、本学の専任の教授又は准教授をもって充てる。

4 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

5 副センター長の任期は、センター長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(雑則)

第5条 この内規に定めるもののほか、業務センターの組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

別表

分野	センター名	所掌業務
教育マネジメント	教育評価分析センター	本学の教育学習活動に関する関連情報・データの収集・分析・提供を行うことを通して、本学における教育改革・改善や教育マネジメントを支援。
	大学教育支援センター	大学関係共同利用拠点の中核組織として、本学及び国内の高等教育機関に対する各種専門開発プログラム(大学院生向け大学教員準備プログラム・新任教員研修プログラムなど)を実施。
	入試センター	現在の入試センターの業務を引き継ぎ、中長期的な本学入試の企画・改善検討(入試設計・分析、追跡調査等)、入試業務(センター試験、一般入試等)、入試広報(各種説明会、高校訪問、メディア対応、講演、執筆等)、高大接続事業(オープンキャンパス支援、講演会/シンポジウム/フォーラム、アウトリーチプログラム等)を実施。
教育開発・実施	言語・文化教育センター	全学教育および高年次教育における語学教育のプログラム開発と実践、多文化理解教育の実施。
	グローバルラーニングセンター	教育国際戦略の提言、国際交流活動の推進とともに、留学生の受け入れ・教育・支援プログラムの開発・充実に努める。学生の海外派遣プログラムの開発・実施等によりグローバル人材育成を推進する。
	学際融合教育推進センター	学部・大学院における学際融合教育の開発と実施。
学習・学生支援	学習支援センター	高校教育から大学教育へのスムーズな移行のため、大学での自律的な学習方法について、相談・指導を実施。
	キャリア支援センター	学部・大学院におけるキャリア開発プログラムの実施、及び就職支援。現在の高度イノベーション博士人材育成センターの機能を統合。
	学生相談・特別支援センター	学生の発達に関する調査研究と学生相談に加え、発達障害学生への支援、教員に対する学生指導への支援・助言を強化。学生相談および障害学生への支援と学生支援に関わる調査研究、教職員の学生支援力向上のための支援
	保健管理センター	学生の健康保持、増進を図るための保健管理に関する専門的業務を実施
	課外・ボランティア活動支援センター	学生の自主的な課外活動、文化やスポーツ、ボランティア活動の総合的な支援と、社会貢献型の体験学習の企画と実施。

(3) 東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議内規

平成26年4月1日

制定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第10条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議（以下「教授会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 教授会議は、機構長、副機構長及び東北大学高度教養教育・学生支援機構（以下「本機構」という。）の専任の教授、准教授及び講師並びに業務センターの各センター長（以下「各センター長」という。）をもって構成する。

(審議事項)

第3条 教授会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 本機構の組織に関する事項
- 二 教員の人事に関する事項
- 三 予算に関する事項
- 四 その他運営に関する重要事項

(議長)

第4条 教授会議の議長は、機構長をもって充て、教授会議を主宰する。

2 機構長が欠けたとき、又は事故があるときは、副機構長が前項の職務を代行する。

(開催)

第5条 教授会議は、原則として毎月1回開催するものとする。

2 機構長が必要と認める場合は、臨時に教授会議を開催することができる。

3 機構長は、構成員3人以上から議題を付して要求があったときは、教授会議を開催しなければならない。

(定足数)

第6条 教授会議は、構成員（休職者及び外国出張中の者等を除く。）の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決することができない。

(議案)

第7条 機構長は、教授会議の議案を定め、あらかじめ構成員に通知しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。

2 構成員は、議案を発議することができる。

(議決)

第8条 教授会議の議事は、出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、別に定めがある場合は、出席した構成員の3分の2以上の同意を要するものとする。

(人事委員会)

第9条 教授会議に、第3条第2号に規定する事項を審議するため、機構長、副機構長、本機構の専任の教授（特定有期雇用職員を除く。）及び各センター長をもって構成する人事委員会を置く。

2 人事委員会は、構成員（休職者及び外国出張中の者等を除く。）の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決することができない。

3 教授会議は、人事委員会の議決をもって、教授会議の議決とすることができる。

(専門委員会)

第10条 教授会議に、第3条に規定する事項に関する専門的事項を調査審議（前条に掲げる部分を除く。）させるため、専門委員会を設置することができる。

2 専門委員会の委員は、機構長が委嘱する。

(構成員以外の者の出席)

第11条 機構長は、必要があると認めるときは、教授会議の同意を得て、構成員以外の者を教授会議に出席させ

ることができる。

(議事録)

第12条 機構長は、教授会議の議事録を作成し、次回以後の教授会議に提出してその承認を得なければならない。

(雑則)

第13条 この内規に定めるもののほか、教授会議の組織及び運営に関し必要な事項は、教授会議の議に基づき、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

(4)東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程(平成26年規第26号)第11条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議(以下「運営会議」という。)の組織及び運営について定めるものとする。

(組織)

第2条 運営会議は、委員長、副委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 教育研究評議会評議員
- 二 各部門長
- 三 教養教育院長
- 四 業務センターの各センター長
- 五 その他委員長が必要と認めた者若干人

(委員長及び副委員長)

第3条 委員長は機構長をもって、副委員長は1人とし、機構長が指名する副機構長をもって充てる。

2 委員長は、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

(開催)

第4条 運営会議は、必要に応じて開催するものとする。

(委嘱)

第5条 第2条第5号に掲げる委員は、機構長が委嘱する。

(任期)

第6条 第2条第5号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、運営会議の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

(5)東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程(平成26年規第26号)第12条第2項の規定

に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議（以下「高度教養教育諮問会議」という。）の組織及び運営について定める。

（組織）

第2条 高度教養教育諮問会議は、委員二十人以内をもって組織する。

（委員の範囲）

第3条 委員は、本学の学部学生、大学院学生及び外国人学生（以下「学生」という。）並びに本学の学生の保護者、企業の関係者、地域の関係者、高等学校の関係者等のうちから、機構長が選考する。

（議長及び副議長）

第4条 高度教養教育諮問会議に、議長及び副議長1人を置き、それぞれ委員の互選によって定める。

2 議長は、高度教養教育諮問会議の会務を総理する。

3 副議長は、議長の職務を補佐する。

（開催）

第5条 高度教養教育諮問会議は、原則として年1回開催する。

（委嘱）

第6条 委員は、機構長が委嘱する。

（任期）

第7条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（雑則）

第8条 この内規に定めるもののほか、高度教養教育諮問会議の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

（6）高度教養教育・学生支援機構専門研究員内規

平成26年4月24日
制 定

（趣旨）

第1条 この内規は、高度教養教育・学生支援機構（以下「機構」という。）の学術の発展に寄与するため、東北大学及び機構の諸規則に定める身分を有しない者が、機構において一定期間研究活動に従事できるよう、必要な事項を定めるものとする。

（資格及び呼称）

第2条 研究活動ができる者は、博士の学位を有する者又は博士と同等以上の学識を有すると認められる者で、機構の専任教員（以下「受入れ教員」という。）から受入れの承諾を得た者とし、「専門研究員」の呼称を付与する。

（受入れ等）

第3条 専門研究員の受入れは、受入れを希望する者の申請に基づき、機構長補佐会議で審査し、機構教授会議の議を経て、機構長が決定する。

2 専門研究員の受入れ期間中の諸事項については、受入れ教員が全面的に責任をもつものとする。

（受入期間）

第4条 専門研究員の受入れ期間は1年以内とし、年度を超えないものとする。

なお、必要な場合は更新を認めることとし、更新は2回を限度とする。

（遵守遂行）

第5条 専門研究員は、東北大学及び機構の諸規則を遵守しなければならない。

（待遇）

第6条 専門研究員は機構の管理運営には関与できない。

- 2 専門研究員には、給与を支給しない。
- 3 専門研究員の健康診断、災害補償等については各自の責任で対応する。
- 4 専門研究員は受入れ教員の責任のもと、施設・設備等を利用することができる。
- 5 専門研究員の機構内の居所については、受入れ教員の責任において手当てする。

(雑則)

第7条 専門研究員に研究活動上必要な事項が生じた場合は、受入れ教員の申し出に基づき、機構長補佐会議の議を経て、機構長が決定する。

附 則

この内規は、平成26年4月24日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則 (平成27年3月19日改正)

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

(7)高度教養教育・学生支援機構共同研究員内規

平成26年4月24日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、高度教養教育・学生支援機構（以下「機構」という。）において共同研究に参画する国内外の研究者が一定期間研究活動に従事できるよう、必要な事項を定めるものとする。

(資格及び呼称)

第2条 研究活動ができる者は、共同研究に参加する国内外の大学、高等専門学校、公的研究機関及び民間企業、団体等に所属する研究者とし、「高度教養教育・学生支援機構共同研究員」（以下、「機構共同研究員」という。）の呼称を付与する。

(受入れ等)

第3条 機構共同研究員の受入れは、受入れを希望する者の申請に基づき、機構長補佐会議で審査し、機構長が決定する。

2 機構共同研究員の受入れ期間中の諸事項については、受入れ教員が全面的に責任をもつものとする。

(受入期間)

第4条 機構共同研究員の受入れ期間は1年以内とし、年度を超えないものとする。

なお、必要な場合は更新を認めることとする。

(遵守遂行)

第5条 機構共同研究員は、東北大学及び機構の諸規則を遵守しなければならない。

(待遇)

第6条 機構共同研究員は機構の管理運営には関与できない。

2 機構共同研究員には、給与を支給しない。

3 機構共同研究員の健康診断、災害補償等については各自の責任で対応する。

4 機構共同研究員は受入れ教員の責任のもと、施設・設備等を利用することができる。

5 機構共同研究員の機構内の居所については、受入れ教員の責任において手当てする。

(雑則)

第7条 機構共同研究員に研究活動上必要な事項が生じた場合は、受入れ教員の申し出に基づき、機構長補佐会議の議を経て、機構長が決定する。

附 則

この内規は、平成26年4月24日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則 (平成27年3月19日改正)

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧2016

発行 2017年7月

発行所 東北大学高度教養教育・学生支援機構

Institute for Excellence in Higher Education,

Tohoku University

〒980-8576 仙台市青葉区川内41

TEL (022) 795-3819

e-mail: gaku-kikaku@grp.tohoku.ac.jp